

福岡市埋蔵文化財年報 VOL.21

—平成 18 (2006) 年度版—



2008

福岡市教育委員会

序

福岡市では、文化財保護法の趣旨に基づき、埋蔵文化財の適切な保存と活用を図ることを目的として、公共及び民間の各種開発事業の事前審査、記録保存のための緊急調査、また重要遺跡確認調査等を実施しております。

本書は、平成18年度における埋蔵文化財保護行政の概要を報告するものです。開発事業に起因する事前審査及び緊急調査件数は、平成12年度をピークに以後減少しましたが、平成15年度から一転して増加に転じる傾向にあります。平成18年度の事前審査件数は平成17年度に比べ、公共事業、民間事業共に申請件数の大きな変動はありませんでしたが、窓口、FAXなどの照会が約4割増と大幅な伸びとなり、初めて年間件数が一万件を突破致しました。これはここ数年の間に各地で発生した大規模な震災や建物強度偽造問題などに対する建築基準法の改定、不動産鑑定評価基準の厳正化などが進み、建造物の基礎構造の変化と併せて、民間事業者の埋蔵文化財保護への理解や対応が深められつつある状況を示していると思われます。今後とも埋蔵文化財保護業務について適正で迅速な対応を進めていく所存です。

本書が文化財保護に対するご理解の一助となり、また学術資料として活用いただければ幸いです。

平成20年3月31日

福岡市教育委員会
教育長 山田 裕嗣

例 言

- ・本書は、埋蔵文化財第1・2課が平成18年度に実施した各種開発事業に伴う事前審査と発掘調査の概要及び本報告、ならびに新指定文化財の概要について収録したものである。巻末には平成18年度の福岡市新指定文化財の概要と事前調査過程で発見された資料の紹介を付載した。
- ・本書に記載ある報告のうち、調査番号0604、0619、0620、0624、0634、0635、0657、0667、0668の9調査は、この年報をもって本報告とする。その他については別途、本報告書が刊行される予定、または既刊であり、刊行年度については各概要の文末に記載している。
- ・Vの各調査の概要及び調査報告は各調査担当者が分担執筆した。VIについては文化財整備課が執筆した。
- ・本書は吉留秀敏が編集した。

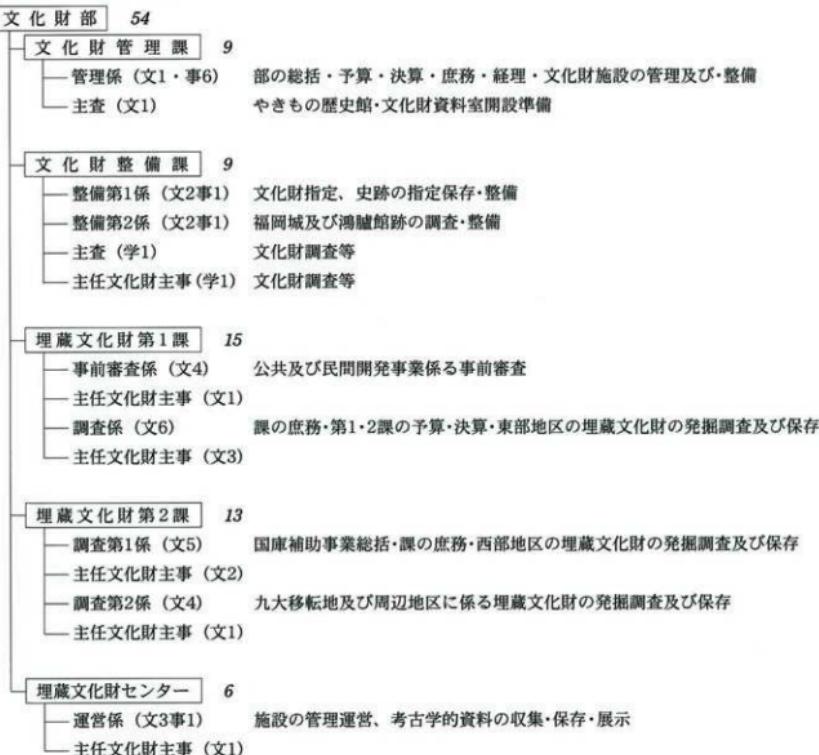
表紙写真：那珂遺跡群第114次調査の道路遺構と現地説明会（調査番号0627）

目 次

I	平成18年度文化財部の組織と分掌事務	2
II	開発事前審査	3
III	発掘調査	14
IV	公開活動	20
V	平成18年度発掘調査概要および報告	21
VI	平成18年度刊行報告書一覧	112
VII	平成18年度新指定文化財	114
付	資料紹介	116

I 平成18年度文化財部の組織と分掌事務

文化財部の組織と分掌事務



埋蔵文化財第1,2課の職員構成（職員はすべて文化財専門職）

◇埋蔵文化財第1課長	山口謙治	◇埋蔵文化財第2課長	力武卓治
調査係長	山崎龍雄	調査第1係長	池崎謙二
係員（文化財主事）	榎本義嗣 山川 洋 久住猛雄 藤富士寛 赤坂 亨	係員（文化財主事）	加藤良彦 加藤隆也 阿部泰之 今井隆博
主任文化財主事	小林義彦 吉武 学 荒牧宏行	主任文化財主事	松村道博 宮井善朗
事前審査係長	濱石哲也	調査第2係長	米倉秀紀
係員（文化財主事）	本田浩二郎 星野恵美 上角智希 松浦一之介（平成18年9月まで）	係員（文化財主事）	池田祐司 上角智希（平成18年9月まで） 木下博文
主任文化財主事	吉留秀敏	主任文化財主事	杉山富雄

II 開発事前審査

1. 概 要

本市では、土木工事等の各種開発事業に係る埋蔵文化財の取り扱いについて、福岡市文化財分布地図を基本資料とし、これまでの発掘調査及び試掘調査等の成果を参考にしながら、書類審査・現地踏査・試掘調査等を実施し、開発事業計画地における埋蔵文化財の有無を確認した上で、保存に係わる協議等を行っている。分布地図には埋蔵文化財包蔵地の範囲を示し、その範囲内および隣接地（包蔵地範囲から外へ50mまで）の開発については埋蔵文化財確認の申請を求めている。

公共事業については、関係機関・部局に次年度の事業計画の照会を行い、市域内で実施予定の公共事業計画を全般的に把握し、埋蔵文化財の保存上問題になると判断される事業についてはその取り扱いについて協議を行っている。また個々の事業の実施にあたっては改めて申請を求めている。

民間の開発事業については、都市計画法に基づく1,000m以上 の開発事業、建築基準法に基づく建築事業等を対象として事前協議を求めている。また、開発業者、不動産取引関係者、一般市民等の文化財分布地図の閲覧や建築等の計画策定期階での照会にも窓口で応じ、埋蔵文化財の保存上の措置について必要な指示を行っている。

2. 平成18年度の事前審査

平成18年度の開発事業等に伴う事前審査件数は、公共事業798件（うち事業照会665件）、民間事業1,090件の計1,888件であった（表1）。公民の比はおよそ4対5である。審査件数は平成12年度をピークに減少傾向をみせていたが、15年度以降は増加をはじめ、近年1年ごとに増減を繰り返している。18年度は公共事業は微増であったが、民間事業はやや減少した（表2）。

なお、文化財保護法第93条による届出は717件（16年度754件、17年度798件）、第94条による通知は65件（16年度87件、17年度56件）となっている。

申請内容

公共事業133件の申請内容をみると、事業者は国機関11件（8%）、福岡県9件（7%）、福岡市104件（78%）、公社・都市再生機構・JRなどが9件（7%）である。事業別では上下水道が35件（26%）、道路25件（19%）、学校22件（17%）、公民館等建物16件（12%）、公有地売却14件（11%）と続き、他は10件未満である。今年度注目されるのは公有地売却に伴う事前調査の増加と、前年度福岡市を襲った水害に対する激甚災害対策事業として河川工事6件（5%）があった。ちなみに事業照会では上下水道50%、道路20%、学校10%、他は3%未満である。

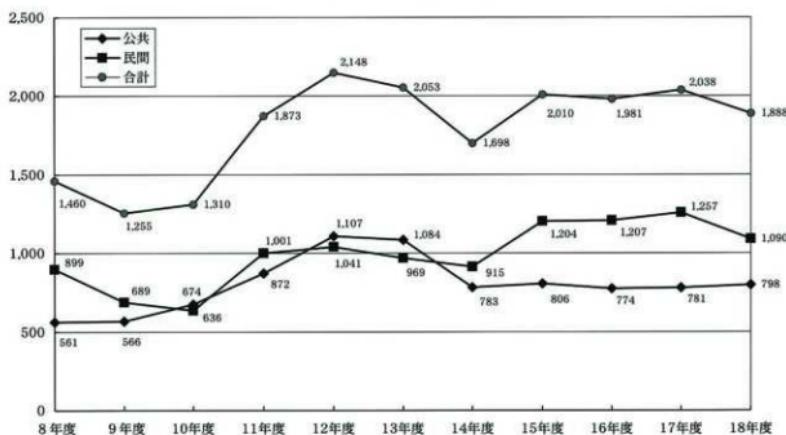
民間事業1,090件の申請内容は、申請者が個人475件（44%）、一般企業381件（35%）、個人事業者207件（19%）、法人等の民間事業者26件（2%）、事業別では個人住宅503件（46%）、共同住宅259件（24%）、これにその他の住宅をあわせると全体の74%を住宅建築で占めることになる。その次は事務所・社屋45件（4%）、店舗68件（6%）、不動産取引等44件（4%）と続き、他は2%内外ににとどまる。住宅建築はほぼ17年度と同じ割合であり、増減の傾向は前年と類似している。

申請地を区別に見ると、公共・民間とともにここ数年の傾向として都心部の博多区及び西部地区に偏る傾向がある。18年度（表2）も同様で、具体的には、博多区の278件（26%）が最も多く、早良区の244件（22%）、西区の216件（20%）、南区116件（11%）、城南区118件（11%）、東区93件（9%）、中央区が最も少なく23件（2%）となる。17年度と比べ早良・西区の増加がみられる。なお申請地のうち、約26%にあたる250件は埋蔵文化財包蔵地外（うち隣接地187件）であるが、隣接地の解除により割合・件数とも前年度より少なくなっている。

表1 平成8~17年度事前審査件数推移

事業	内 訳	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
公共	事業照会審査件数	561	566	674	872	1,107	1,084	783	671	662	668	665
	申請件数								135	112	113	133
	審査件数計	561	566	674	872	1,107	1,084	783	806	774	781	798
民間	窓口照会件数					2,832	3,597	4,540	4,662	4,292	5,842	6,126
	FAX照会件数								524	1,499	2,296	3,354
	照会件数計					2,832	3,597	4,540	4,662	4,816	7,341	11,663
申請（審査）件数	899	689	636	1,001	1,041	969	915	1,204	1,207	1,257	1,090	
公・民審査件数計	1,460	1,255	1,310	1,873	2,148	2,053	1,698	2,010	1,981	2,038	1,888	

表2 事前審査件数推移表



審査内容

次年度への継続（71件）および取り下げ（3件）を除いた公民合わせた1,296件の申請審査は、書類（897件、69%）、試掘（369件、28%）、踏査（34件、3%）で埋蔵文化財取り扱いの判断を行い、その結果、開発同意101件（8%）、慎重工事1,025件（79%）、工事立会71件（5%）、発掘調査93件（7%）、要協議（開発未定で遺跡有り）6件（1%）の回答を行った（表3）。発掘調査の回答はほぼ前年度並みであるが、慎重工事の割合が増加している。事業照会では、事業にあたって協議が必要なもの253件（包蔵地内177件、隣接地66件、その他10件）、協議が不用なもの415件（包蔵地外382件、包蔵地解除等33件）であった。

試掘調査

試掘調査（包蔵地内での確認調査、隣接地・包蔵地外での試掘調査を総称）は国庫補助を受けて実施しているが、試掘時期の関係等から事業者が重機を用意して行う場合もある。試掘件数は1申請に対し1件としての扱いであり、面積等によっては1申請に対し複数回の調査を行う事もある。

18年度は公共事業36件、民間事業291件のあわせて327件（うち17年度以前申請分43件）について実施した（表4）。17年度に比べ92件の減少となった。これは民間事業が90件減少したことによるもので、公共事業

表3 平成18年度事前審査内訳

区名	事業	審査種別（書類審査・現地踏査・試掘調査）でみた判断指示の結果																区別審査件数 (註)	照会件数 (註)	
		開発同意		慎重工事		工事立会		発掘調査		協議		審査取り下げ		公民別計	区計					
		書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘							
東	公共	4	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	2	10	104	1,485	
	民間	14	2	1	51	0	18	1	0	2	0	0	5	0	0	0	0	94		
博多	公共	3	1	0	26	1	6	8	0	0	0	1	0	0	2	0	48	323	2,438	
	民間	10	1	1	144	1	69	8	0	14	3	0	23	0	0	1	0	275		
中央	公共	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27	2,154	
	民間	2	0	0	11	0	5	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0			
南	公共	3	0	1	3	0	3	0	0	0	0	3	0	0	1	2	0	133	1,840	
	民間	9	0	1	70	1	22	4	0	1	2	1	4	0	0	0	2			
城南	公共	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	121	955	
	民間	5	1	0	81	1	19	6	0	0	0	1	2	0	0	0	0			
早良	公共	0	0	0	10	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	266	1,439	
	民間	12	0	1	150	2	61	7	0	7	5	1	4	0	0	0	1			
西	公共	4	0	0	23	0	8	6	0	2	0	0	0	0	0	1	0	257	1,269	
	民間	16	0	2	144	0	38	7	0	1	1	0	2	0	0	0	2			
小計	公共	14	2	1	69	1	21	14	0	2	0	0	4	0	0	1	8	1,231	11,682	
	民間	68	4	4	651	5	232	38	0	25	12	3	40	0	0	0	6			
合 計		82	6	5	720	6	253	52	0	27	12	3	44	0	0	1	14	3		

(註) 照会の公共は事業照会件数、小計には市外の2件を含む。民間は窓口およびFAX照会の合計、小計には不明95件を含む。

はほぼ同数となっている。事業別では共同住宅（110件）、個人住宅（69件）、社屋等住宅以外の建物（41件）の上位三事業で67%をしめ、その次は土地取引等に伴う57件が続く。他の事業は20件に満たない。区別では博多区110件（34%）、早良区69件（21%）、西区57件（17%）、南区37件（11%）、城南区17件（5%）、東区29件（9%）、中央区8件（2%）となり、博多区が全体の三分の一を占める。博多区は依然として、博多、比恵、那珂遺跡群での共同住宅等の開発が多い。早良区、城南区が17年度と比べ減少し、外環状線や地下鉄七隈線開通後の増加傾向もやや落ち着いてきていた。なお、試掘地点は包蔵地内が282件（86%）、包蔵地外が45件（14%）となっている。

窓口等照会

民間業者等による窓口における埋蔵文化財の有無に係わる照会等は8,309件、ファックスでの照会は3,354件、民間照会あわせて11,663件で、17年度に比べ何れも4割前後の増加となり、件数としては3千件以上増加した。これは宅地取引、土地評価等に際し、埋蔵文化財の有無の調査が確実に浸透していることによるものと考えられる。ちなみに照会を区別の割合でみると、多い順に博多区22%、中央区16%、南区15%、東区13%、早良区13%、西区11%、城南区8%となり、17年度とほぼ同様の傾向であり、また博多区以外は遺跡の多寡もあり必ずしも申請件数とつながらない。埋蔵文化財の周知化が一層進み、窓口等照会件数は増加の一途をたどっている。

3. 埋蔵文化財包蔵地の改訂

試掘調査や踏査、また発掘調査などの結果に基づき、36遺跡（重複有り）で埋蔵文化財包蔵地の改訂を行った。平成18年度に新たに発見された遺跡はないが、試掘調査の成果などから包蔵地範囲の拡大が7遺跡、縮小や一部解除が3遺跡あった。また26遺跡について全域ないし一部の隣接地解除を行った。

表4 試掘調査一覧

凡例：審査番号は年度（平成）-申請車種別（1公共 2民間）-申請車種別ごとの受付通し番号。有無は試掘で遺構、遺物が確認されたもの○、なし×。指示の協議は遺跡があったものの開発計画が未定なもの。発掘調査の数字は平成18年度後に調査に入った遺跡の調査番号。発掘にあたって新たに申請が行われる場合もあり、試掘と発掘の審査番号が一致することは限らない。各区と共に公共事業を先に、審査番号順に配置した。

東 区

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	試掘日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
07-1-0050	篠松3丁目地内	包蔵地外	福岡市土木局	区画整理	2007. 1.31	×	開発同意	277	
10-1-0020	馬出、箱崎地内	箱崎遺跡	福岡市土木局	道路	2006. 9. 5	○	発掘調査	149	0650-0664
14-1-0008	馬出1丁目地内	箱崎遺跡	福岡市土木局	道路拡幅	2006. 9. 5	×	慎重工事	148	
17-1-0073	馬出6丁目228	箱崎遺跡	福岡市建築局	共同住宅建替	2006. 4. 6	×	慎重工事	6	
18-1-0057	蒲田2丁目地内	蒲田部木原遺跡	福岡市環境局	交差点改良	2006.10.24	○	慎重工事	200	
17-2-1021	蒲田3丁目706	蒲田部木原遺跡	個人	個人住宅増築	2006. 4. 5	×	慎重工事	5	
17-2-1244	南崎1丁目1925-1番	箱崎遺跡	個人	共同住宅	2006.4.18-5.2	○	発掘調査	18	0626
18-2-0037	蒲田2丁目1111-2番	蒲田部木原遺跡	一般業者	流通施設	2006. 5.19	○	発掘調査	49	0640
18-2-0039	馬出6丁目200-1番	箱崎遺跡	個人	共同住宅	2006. 5.11	×	慎重工事	38	
18-2-0069	香椎3丁目1112-1	香椎A遺跡群	一般業者	2階建住宅	2006. 6. 1	×	慎重工事	61	
18-2-0219	馬出1丁目127-1	箱崎遺跡・吉塚本町遺跡	一般業者	共同住宅	2006. 6.15	×	慎重工事	80	
18-2-0225	三苦5丁目1413-1番	三苦遺跡群隣接	個人	宅地造成	2006. 6.22	×	慎重工事	88	
18-2-0230	多々良1丁目932-2番	顯考寺	一般業者	宅地造成	2006. 6. 7	×	慎重工事	69	
18-2-0253	難4丁目2075-1番	香椎A遺跡群	個人	個人住宅	2006. 8. 1	×	慎重工事	121	
18-2-0258	南崎1丁目2635-1	箱崎遺跡	個人	土地取引等	2006. 6.29	×	慎重工事	96	
18-2-0264	馬出2丁目686	箱崎遺跡	一般業者	土地取引等	2006. 6.29	×	慎重工事	95	
18-2-0363	多々良1丁目967番	顯考寺	個人	共同住宅	2006. 8.24	×	慎重工事	138	
18-2-0368	箱崎1丁目2522-2	箱崎遺跡	一般業者	銀行店舗増築	2006.10. 6	×	慎重工事	182	
18-2-0381	箱崎3丁目2442-1	箱崎遺跡	一般業者	共同住宅	2006. 8. 8	○	発掘調査	125	0648
18-2-0487	馬出1丁目286	箱崎遺跡	一般業者	個人住宅	2006. 8.31	○	慎重工事	143	
18-2-0631	三苦5丁目698-3番	三苦遺跡群隣接	個人	共同住宅	2006.11.14	×	慎重工事	226	
18-2-0657	箱崎1丁目2493番	箱崎遺跡	一般業者	共同住宅	2006.12.12	○	発掘調査	245	0671
18-2-0665	馬出6丁目15-21	箱崎遺跡	一般業者	工場等	2007. 3.14	×	慎重工事	312	
18-2-0686	馬出5丁目133	箱崎遺跡	一般業者	事務所ビル	2006.11. 7	×	慎重工事	218	
18-2-0692	箱崎1丁目2505番	箱崎遺跡	一般業者	共同住宅	2006.11.24	○	発掘調査	233	0665
18-2-0823	馬出5丁目492	箱崎遺跡	個人	個人住宅	2007. 1.18	○	工事立会	270	
18-2-0848	難1丁目1293-258番	奈多砂丘B遺跡群隣接	一般業者	戸建分譲住宅	2007. 1.18	×	慎重工事	271	
18-2-0969	箱崎2丁目11-9	箱崎遺跡	個人	土地取引等	2007. 3.27	×	慎重工事	324	
18-2-1019	馬出1丁目24-42	箱崎遺跡	個人	共同住宅	2007. 3.13	×	慎重工事	310	

博多区

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	試掘日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
18-1-0004	月隈1丁目7	水町古墳群隣接	福岡市経済振興局	多目的広場	2006. 5.31	○	発掘調査	60	
18-1-0023	板付6丁目1-1	高堀遺跡・高烟庵寺	九州管区警察学校	洗濯室新築	2006. 6.14	○	発掘調査	78	
18-1-0026	那珂3丁目10-1	那珂遺跡群	福岡市市民局	公民館等建設	2006. 8. 2	×	慎重工事	122	
18-1-0036	吉塚本町地内	吉塚本町遺跡	福岡市土木局	駅前広場整備	2006. 7. 5	×	慎重工事	103	
18-1-0065	堅粕1丁目29-1	堅粕遺跡群	福岡県建築都市部	弓道場建築	2006.11.20	○	慎重工事	228	
18-1-0073	上白井拂井348	雀居遺跡	第七管区海上保安本部	空港内道路	2006.10.11	×	慎重工事	186	
18-1-0078	元町2丁目7	南八幡遺跡群	一般業者	店舗	2006.10.27	○	慎重工事	207	
18-1-0080	山王1丁目13-10	山王遺跡	福岡市こども未来局	建物設置	2006.10.23	×	慎重工事	198	

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	試掘日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
18-1-0093	月隈3丁目171-16	下限A遺跡隣接	福岡市建築局	共同住宅	2007. 2.21	×	慎重工事	293	
17-2-0140	東公園68	吉塚本町遺跡群	一般業者	共同住宅	2006. 8.24	×	慎重工事	139	
17-2-0661	麦野5丁目1-40外	麦野A遺跡群	個人	共同住宅	2006. 5.11	○	発掘調査	36	0619
17-2-0714	紙園町351、354	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	2006. 9. 1	×	慎重工事	146	
17-2-0999	堅粕1丁目11-20	堅粕遺跡群	一般業者	土地取引等	2006. 6.15	×	慎重工事	82	
17-2-1110	博多駅南5丁目123-1	比恵遺跡群	個人	共同住宅	2006. 7.25	○	要協議	117	0644
17-2-1111	博多駅南4丁目132-1	比恵遺跡群	一般業者	タワー駐車場	2006. 6.13	○	発掘調査	75	0636
17-2-1134	網場町102-1	博多遺跡群	個人	自宅兼共同住宅	2006. 9.14	○	慎重工事	159	
17-2-1173	博多駅南5丁目145-2外	比恵遺跡群	個人	共同住宅	2006. 4.28	○	発掘調査	30	0614
17-2-1188	東比恵4丁目49外	東比恵三丁目遺跡群	一般業者	共同住宅	2006. 4.10	×	慎重工事	10	
17-2-1215	那珂2丁目138、39	那珂遺跡群	個人	共同住宅	2006. 4. 6	○	発掘調査	8	0618
17-2-1232	中呉服町160外	博多(中呉服町)遺跡群	宗教法人	納骨堂建設	2006. 4.25	○	要協議	22	
17-2-1234	網場町45	博多(網場町)遺跡群	一般業者	事務所ビル	2006. 4.25	○	慎重工事	23	
17-2-1252	諸岡2丁目9-10外	諸岡B遺跡群	一般業者	共同住宅	2006. 4.25	○	発掘調査	24	
18-2-0001	店屋町243～245	博多遺跡群	一般業者	事務所ビル	2006. 5.11外	×	慎重工事	37	
18-2-0003	諸岡2丁目9-9	諸岡B遺跡群	個人	共同住宅	2006. 4.25	○	発掘調査	25	
18-2-0020	銀天町2丁目8	麦野C遺跡群	一般業者	土地取引等	2006. 4.11	×	慎重工事	11	
18-2-0021	古門戸町5-17	博多遺跡群	個人	個人住宅	2006. 8.24	×	慎重工事	137	
18-2-0023	山王2丁目43	比恵遺跡群	一般業者	店舗	2006. 5. 2	×	慎重工事	31	
18-2-0076	住吉3丁目8-27	住吉神社遺跡	一般業者	店舗	2006. 5.30	×	慎重工事	59	
18-2-0086	博多駅南5丁目132	比恵遺跡群	一般業者	共同住宅	2006. 5.24	○	発掘調査	55	
18-2-0087	柏生町1丁目2-1	南八幡遺跡群	一般業者	共同住宅	2006. 5.24	○	慎重工事	56	
18-2-0095	西原駅4丁目829-1外	立花寺B遺跡群	一般業者	社屋	2006. 6.13	×	慎重工事	76	
18-2-0100	店屋町63	博多遺跡群	個人	自宅兼共同住宅	2006. 7.25	○	慎重工事	119	
18-2-0101	光丘町2丁目1	中ノ原遺跡	一般業者	共同住宅	2006. 4.27	×	慎重工事	26	
18-2-0108	祇園町2-21	博多遺跡群	一般業者	ホテル	2006.12.15	○	発掘調査	251	
18-2-0133	奈良屋町41-1～3	博多遺跡群	一般業者	事務所	2006. 7.24	×	慎重工事	115	
18-2-0135	那珂4丁目277	那珂君休遺跡群	個人	共同住宅	2006. 5.18	○	慎重工事	46	
18-2-0150	東比恵3丁目2-31	東比恵3丁目遺跡	一般業者	銀行店舗等	2006.10. 5	×	慎重工事	179	
18-2-0162	那珂1丁目707	那珂遺跡群	個人	共同住宅	2006. 5.18	○	発掘調査	45	0661
18-2-0163	中呉服町1-1	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	2006.10.26	×	工事立会	202	
18-2-0164	中呉服町126	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	2006.10. 5	○	発掘調査	178	0656
18-2-0165	南本町1丁目25-2	麦野B遺跡群	個人	土地取引等	2006. 6. 1	×	慎重工事	62	
18-2-0167	麦野5丁目9-27	麦野A遺跡群	個人	個人住宅	2006. 6. 1	○	慎重工事	63	
18-2-0178	上川端216-1～4	博多遺跡群	一般業者	銀行、事務所	2006. 6.22	×	慎重工事	89	
18-2-0183	博多駅4丁目237-1外	比恵遺跡群	一般業者	葬祭場	2006. 6.29	○	発掘調査	97	0645
18-2-0187	麦野3丁目11-2外	麦野A遺跡群	個人	共同住宅	2006.10.17	○	発掘調査	191	
18-2-0196	那珂2丁目251外	那珂遺跡群	個人	共同住宅	2006. 6. 5	×	慎重工事	65	
18-2-0197	祇園町279	博多遺跡群	(株)ニニカ	共同住宅	2006. 6. 8	○	発掘調査	73	0646
18-2-0199	堅粕4丁目498-1外	吉塚遺跡群	一般業者	共同住宅	2006. 6.15	×	慎重工事	81	
18-2-0248	堀南町1丁目330-1部	雜餉隈遺跡群	個人	共同住宅	2006. 7.13	×	慎重工事	108	
18-2-0256	東那珂1丁目15-48	東那珂遺跡	一般業者	事務所増築	2006. 7.11	○	要協議	107	
18-2-0260	那珂3丁目123	那珂遺跡群	個人	個人住宅	2006. 9.21	○	工事立会	167	
18-2-0277	東豊町2丁目6-2	麦野C遺跡隣接	一般業者	共同住宅	2006.12. 5	×	慎重工事	240	
18-2-0319	博多駅前1丁目17-1	博多遺跡群	宗教法人	納骨堂建設	2006. 7.18	○	発掘調査	112	0647
18-2-0328	店屋町6-18	博多遺跡群	一般業者	立体駐車場建設	2006. 7.24	×	慎重工事	114	
18-2-0331	博多駅南3丁目221-3	比恵遺跡群	一般業者	共同住宅	2006. 9.14	×	慎重工事	160	
18-2-0349	那珂5丁目173	諸岡A遺跡群	一般業者	土地取引等	2006. 7.25	×	慎重工事	116	

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	試掘日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
18-2-0378	中呉服町58	博多遺跡群	個人	商業ビル	2006. 8.22	○	発掘調査	135	
18-2-0380	金の隈1丁目2-2	立花寺遺跡群	個人	個人住宅	2006. 9.12	×	慎重工事	152	
18-2-0395	相生町3丁目15-1	南八幡遺跡群隣接	一般業者	共同住宅	2006. 8. 8	×	慎重工事	124	
18-2-0398	奈良屋町113	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	2006.8.29外	×	慎重工事	142	
18-2-0400	上與野町479の一部	博多遺跡群	個人	個人住宅	2006.11. 7	×	慎重工事	216	
18-2-0410	那珂3丁目107	那珂遺跡群	個人	共同住宅	2006.8.10-29	○	要協議	129	
18-2-0417	吉塚850-57	堅磐遺跡群	個人	共同住宅	2006. 8.10	×	慎重工事	128	
18-2-0419	東那珂1丁目39-2外	東那珂遺跡	一般業者	商業施設	2006. 8.17	○	要協議	130	
18-2-0434	店屋町6-18	博多遺跡群	一般業者	店舗増築	2006. 8. 8	○	発掘調査	126	
18-2-0441	住吉3丁目84外	住吉神社遺跡	個人	共同住宅	2006. 9.12	×	慎重工事	153	
18-2-0452	板付6丁目9-3	高烟遺跡	一般業者	土地取引等	2006.10. 5	○	要協議	180	
18-2-0490	下川端町177外	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	2006.11.2外	○	発掘調査	215	
18-2-0496	下呂服町8-8	博多遺跡群	個人	個人住宅	2006. 8.31	×	慎重工事	145	
18-2-0507	博多駅南5丁目29	比恵遺跡群	個人	共同住宅	2006.10. 5	×	慎重工事	177	
18-2-0523	三筑2丁目5-24	麦野B遺跡群	一般業者	事務所ビル	2006.11. 2	×	慎重工事	213	
18-2-0529	麦野2丁目4-8	高烟遺跡	個人	共同住宅	2006.10.31	×	慎重工事	209	
18-2-0531	西春町3丁目18	中ノ原遺跡隣接	個人	共同住宅	2006.10.27	×	慎重工事	206	
18-2-0545	麦野5丁目2-16	麦野A遺跡群	一般業者	土地取引等	2006.11. 2	○	要協議	214	
18-2-0548	那珂1丁目390-1	那珂遺跡群	一般業者	土地取引等	2006.10.10	○	要協議	183	
18-2-0549	三筑1丁目7-9	三筑遺跡	一般業者	土地取引等	2006.10.17	×	慎重工事	192	
18-2-0565	竹下2丁目1-33	比恵遺跡群	学校法人	幼稚園増築	2006.10. 3	×	工事立会	174	
18-2-0577	那珂1丁目10-2外	那珂遺跡群	個人	共同住宅	2006.10.10	×	慎重工事	185	
18-2-0588	奈良屋町56外	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	2006.10.17	×	慎重工事	190	
18-2-0621	桜田2丁目4-12外	桜田遺跡群	個人	配送センター建設	2006.10.17	×	慎重工事	193	
18-2-0644	麦野5丁目2-32	麦野A遺跡群	個人	個人住宅	2006.10.31	○	慎重工事	211	
18-2-0679	立花寺2丁目66-1外	立花寺遺跡群	個人	共同住宅	2006.11. 7	×	慎重工事	217	
18-2-0681	山王2丁目44外	比恵遺跡群	一般業者	自動車修理工場	2006.11.24	×	慎重工事	234	
18-2-0705	那珂1丁目43-24外	那珂遺跡群	個人	個人住宅	2006. 1.16	×	慎重工事	227	
18-2-0707	祇園町343、346	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	2006.11.14	○	発掘調査	225	
18-2-0736	諸岡3丁目854-1外	諸岡A遺跡群	一般業者	共同住宅	2006.11.24	×	慎重工事	235	
18-2-0746	博多駅南6丁目20	比恵遺跡群	一般業者	店舗	2007. 1.15	○	慎重工事	266	
18-2-0748	井相田3丁目7-17.20	井相田A遺跡群	一般業者	共同住宅	2006.12.21	×	慎重工事	255	
18-2-0749	奈良屋町6-34	博多遺跡群	個人	共同住宅	2006.12. 5	×	慎重工事	241	
18-2-0757	博多駅4丁目99-32	比恵遺跡群	一般業者	事務所ビル	2006.12.22	○	発掘調査	258	0666
18-2-0797	東那珂1丁目408-1部	東那珂遺跡	一般業者	事務所ビル	2006.12.14外	○	慎重工事	250	
18-2-0799	麦野3丁目10-12	麦野A遺跡群	一般業者	宅地造成	2007. 1.30	○	発掘調査	275	
18-2-0803	東雲町4丁目26.33	麦野C遺跡群	個人	共同住宅	2007. 1.16	×	慎重工事	267	
18-2-0818	竹丘町2丁目2	麦野C遺跡群	個人	駐車場	2006.12.21	×	慎重工事	256	
18-2-0813	東比恵3丁目230	東比恵三丁目遺跡群	一般業者	事務所・倉庫	2007. 1.16	○	慎重工事	268	
18-2-0824	諸岡4丁目141	諸岡B遺跡群	個人	共同住宅	2006.12.20	×	慎重工事	254	
18-2-0826	東比恵3丁目1	東比恵3丁目遺跡	一般業者	事務所ビル	2007. 2. 1	○	発掘調査	278	
18-2-0834	諸岡3丁目28-4	諸岡A遺跡群	個人	個人住宅	2007. 2. 1	×	慎重工事	279	
18-2-0854	博多駅前1丁目222	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	2007. 1.23	×	慎重工事	272	
18-2-0886	東比恵3丁目39.40	東比恵三丁目遺跡隣接	一般業者	土地取引等	2007. 3.29	×	慎重工事	325	
18-2-0903	板付5丁目685-1,685-9	板付東遺跡	一般業者	土地取引等	2007. 2. 6	×	慎重工事	282	
18-2-0918	冷泉町63	博多遺跡群	一般業者	商業ビル	2007. 3.14	○	発掘調査	311	
18-2-0921	相生町2丁目43外	南八幡遺跡群	一般業者	共同住宅	2007. 2.13	×	慎重工事	288	
18-2-0947	井相田2丁目2-17	井相田C遺跡群	個人	共同住宅	2007. 2.21	○	発掘調査	294	

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	試掘日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
18-2-0949	冷泉町366	博多遺跡群	個人	個人住宅	2007. 2.20	○	工事立会	292	
18-2-0955	板付5丁目5-23	板付遺跡	一般業者	土地取引等	2007. 3. 1	○	要協議	298	
18-2-0966	新町1丁目40-一部	難鍋隣遺跡群	個人	個人住宅	2007. 3. 8	○	慎重工事	306	
18-2-0973	東比恵3丁目19-24	東比恵三丁目遺跡	個人	土地取引等	2007. 2.20	×	慎重工事	291	
18-2-0980	麦野3丁目6-6.7	井畠田C遺跡群	個人	自動車販売所	2007. 3. 1	×	慎重工事	299	
18-2-0999	板付5丁目55-5-20	板付遺跡	一般業者	土地取引等	2007. 3.27	○	要協議	323	

中央区

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	試掘日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
17-1-0069	平尾3丁目29-23	平尾古墳	福岡城長土手堤	公民館等建設	2006. 8.29	×	慎重工事	141	
17-2-1218	大隈2丁目18-85	福岡城長土手堤	個人	個人住宅	2006. 4. 6	×	慎重工事	9	
18-2-0111	大名1丁目337	福岡城肥前堀	一般業者	商業ビル	2006. 4.27	×	慎重工事	29	
18-2-0180	地行2丁目2-18	鳥飼遺跡	一般業者	共同住宅	2006. 5.30	×	慎重工事	57	
18-2-0244	大名1丁目325,326	福岡城肥前堀	一般業者	商業ビル	2006.10. 6	×	慎重工事	181	
18-2-0594	大手門1丁目157	福岡城址	一般業者	共同住宅	2006.10.18	×	慎重工事	195	
18-2-0662	今川2丁目30-1,31-1	鳥飼遺跡	個人	共同住宅	2007. 2. 6	×	慎重工事	281	
18-2-0994	地行2丁目11-15	元寇防壁	個人	共同住宅	2007. 3.13	×	慎重工事	309	

南 区

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	試掘日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
18-1-0007	井尻5丁目230	井尻B遺跡群	福岡財務支局	土地取引等	2006. 5.23	○	要協議	52	
18-1-0024	大橋团地1外	包蔵地外	都市再生機構	共同住宅建替	2006. 6.21	×	包蔵地外	87	
18-1-0042	老司1丁目404-2	野多目C遺跡群	福岡県住宅供給公社	駐車場	2007. 1.15	×	慎重工事	265	
18-1-0064	若久1丁目123-1	若久A遺跡	福岡県総務部	土地取引等	2006.10.4外	○	要協議	176	
18-1-0079	老司4丁目20-1	老司瓦窯跡	法務省福岡少年院	法面改修	2006.10.19	○	発掘調査	196 (054-093-470)	
18-1-0092	若久1丁目12-1	若久A遺跡	福岡市教育委員会	講堂兼体育館改築	2006.11.29	×	慎重工事	239	
17-2-1145	弥永5丁目3-2	警弥郷B遺跡群	一般業者	土地取引等	2006. 5. 2	○	要協議	32	
17-2-1175	若町1丁目65-50-番	卯内-1、老司古墳	個人	個人住宅	2006. 4. 6	×	慎重工事	7	
17-2-1240	若町1丁目5-20-番	井尻B遺跡群	個人	個人住宅	2006. 4.27	○	発掘調査	27	0613
18-2-0004	和田2丁目282	和田A遺跡	個人	土地取引等	2006. 4.18	×	慎重工事	17	
18-2-0005	野多目4丁目729-4	野多目B遺跡群	個人	土地取引等	2006. 4.27	○	要協議	28	
18-2-0063	横手町708-10外	寺島遺跡	個人	共同住宅	2006. 4.18	×	慎重工事	19	
18-2-0084	三宅2丁目93-30-番	三宅B遺跡	個人	共同住宅	2006. 5.23	×	慎重工事	53	
18-2-0090	弥永3丁目5-4	警弥郷B遺跡群	個人	土地取引等	2006. 5.24	×	慎重工事	54	
18-2-0118	野多目1丁目404-7番	野多目A遺跡群	一般業者	店舗	2006. 6.13	×	慎重工事	77	
18-2-0203	野多目4丁目735	野多目B遺跡群	一般業者	携帯電話基地局	2006. 8.21	○	発掘調査	134	
18-2-0247	井尻1丁目211-1外	井尻B遺跡群隣接	個人	共同住宅	2006. 7. 6	×	慎重工事	105	
18-2-0262	井尻1丁目736-3番	井尻B遺跡群	個人	共同住宅	2006. 7. 6	○	発掘調査	106	0641
18-2-0271	井尻5丁目277-8	井尻B遺跡群	一般業者	共同住宅	2006. 6.20	×	慎重工事	83	
18-2-0272	檢原7丁目164-9番	检原遺跡群	一般業者	店舗	2006. 7.18	×	慎重工事	113	
18-2-0311	三宅1丁目4-6	大橋E遺跡群	一般業者	共同住宅	2006. 9.12	×	慎重工事	155	
18-2-0353	井尻5丁目234-24	井尻B遺跡群	個人	個人住宅	2006. 7.27	○	慎重工事	118	
18-2-0356	弥永3丁目13-4	警弥郷B遺跡群	個人	共同住宅	2006. 7.18	×	慎重工事	111	
18-2-0358	井尻1丁目367-6番	井尻B遺跡群	個人	土地取引等	2006. 9.21	×	慎重工事	166	
18-2-0475	若久1丁目3-1	中村町遺跡	一般業者	事務所	2006. 9.12	×	慎重工事	154	
18-2-0555	井尻4丁目170-12番	井尻B遺跡群	一般業者	共同住宅	2006.10.31	○	発掘調査	210	0658

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	試掘日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
18-2-0744	野多目2丁目171-1	野多目A遺跡群	一般業者	事務所	2006.11.20	○	発掘調査	229	
18-2-0745	日佐2丁目12-1,13	日佐遺跡群	個人	共同住宅	2006.12.7	×	慎重工事	242	
18-2-0770	老司3丁目545-3	卯内尺古墳群	一般業者	土地取引等	2007.3.22	○	要協議	320	
18-2-0792	井尻4丁目918-1外	井尻B遺跡群	個人	共同住宅	2007.3.29	×	慎重工事	326	
18-2-0863	弥永1丁目791-5外	警弥郷A遺跡群	個人	個人住宅	2007.2.8	×	慎重工事	285	
18-2-0960	横手南町51,38-2	寺島遺跡群	一般業者	土地取引等	2007.2.20	○	要協議	290	
18-2-0995	三宅2丁目251-1-番	三宅B遺跡	個人	個人住宅	2007.3.8	×	慎重工事	307	
18-2-1012	野多目2丁目158-2	野多目A遺跡群	一般業者	共同住宅	2007.3.27	×	慎重工事	322	
18-2-1024	日佐3丁目39-15	弥永原遺跡群	個人	個人住宅	2007.3.13	×	慎重工事	308	
18-2-1029	日佐3丁目42-1	弥永原遺跡群	学校法人	教室建築	2007.3.22	×	慎重工事	321	
18-2-1047	野多目4丁目282-1	野多目B遺跡群	個人	共同住宅	2007.3.29	×	慎重工事	327	

城南区

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	試掘日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
17-2-1068	荒江1丁目306~308	飯倉B遺跡群	個人	共同住宅	2006.6.20	×	慎重工事	84	
17-2-1214	別府7丁目2-1	田島和尚頭遺跡	一般業者	土地取引等	2006.4.13	×	慎重工事	14	
17-2-1256	梅林5丁目2-11	飯倉H遺跡	一般業者	共同住宅	2006.4.3	×	慎重工事	1	
18-2-0043	七隈5丁目20-21	飯倉E遺跡群	個人	分譲住宅	2006.6.27	×	慎重工事	94	
18-2-0160	東油山6丁目609-1	東油山古墳群B群	個人	共同住宅	2006.6.5	×	慎重工事	64	
18-2-0239	別府5丁目196-1	別府遺跡	個人	共同住宅	2006.7.4	×	慎重工事	101	
18-2-0327	種川4丁目248	宝台遺跡群	個人	個人住宅	2006.7.13	×	慎重工事	109	
18-2-0481	七隈1丁目1268-17	飯倉B遺跡群	個人	個人住宅	2006.8.28	×	慎重工事	140	
18-2-0535	堤2丁目481-2~4	篠栗遺跡群	個人	共同住宅	2006.10.3	×	慎重工事	173	
18-2-0612	田島5丁目304-3	田島B遺跡群	個人	個人住宅	2006.10.10	×	慎重工事	184	
18-2-0687	飯倉1丁目63-12~14	飯倉A遺跡群	個人	共同住宅	2006.11.21	×	慎重工事	232	
18-2-0689	田島5丁目304-4	田島B遺跡群隣接	個人	個人住宅	2006.11.10	×	慎重工事	223	
18-2-0703	荒江1丁目22-8	飯倉B遺跡群	個人	個人住宅	2006.11.28	×	慎重工事	236	
18-2-0717	飯倉1丁目385-1	飯倉B遺跡群	個人	土地取引等	2007.2.23	×	慎重工事	295	
18-2-0800	片江2丁目925-1	片江B遺跡	宗教法人	神社改築	2006.12.12	×	慎重工事	247	
18-2-0989	七隈1丁目1138-1	飯倉B遺跡隣接	学校法人	土地取引等	2007.3.15	×	慎重工事	316	
18-2-1004	荒江1丁目363-4	飯倉B遺跡隣接	一般業者	土地取引等	2007.3.17	×	慎重工事	318	

早良区

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	試掘日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
18-1-0033	大字西地内	広瀬遺跡	福岡市土木局	道路拡幅	2006.10.18	×	慎重工事	194	
18-1-0035	田村4-5丁目地内外	田村遺跡群	福岡市土木局	道路	2006.8.23-24	○	発掘調査	136	0652
18-1-0040	照5丁目、照7丁目	四箇遺跡群	福岡市土木局	道路	2007.3.14	×	慎重工事	314	
18-1-0113	百道2丁目3-15	藤崎遺跡	福岡県生活労働部	建物改修	2007.3.14	×	慎重工事	313	
17-2-0934	次郎丸5丁目2-11	次郎丸遺跡群	個人	共同住宅	2006.4.4	×	慎重工事	3	
17-2-0989	賀茂3丁目187-4外	免遺跡群	一般業者	土地取引等	2006.6.7	×	慎重工事	71	
17-2-1177	田村2丁目791-1	田村遺跡群	個人	共同住宅	2006.8.1	×	慎重工事	120	
17-2-1196	野芥1丁目862-8	野芥遺跡群	個人	個人住宅	2006.4.11	○	要協議	12	0620
17-2-1211	飯倉2丁目463-1外	飯倉A遺跡	一般業者	共同住宅	2006.4.11	×	慎重工事	13	
17-2-1239	原5丁目1223-17	原遺跡群	個人	個人住宅	2006.4.20	×	慎重工事	20	
17-2-1255	小田部2丁目129	有田遺跡群	一般業者	駐車場	2006.4.13	×	慎重工事	16	
18-2-0008	高取1丁目17.19	西新町遺跡	一般業者	共同住宅	2006.12.12	×	慎重工事	246	

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	試掘日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
18-2-0015	野芥 4 丁目403-1外	野芥遺跡群	学校法人	宅地造成	2006. 5. 9	×	慎重工事	35	
18-2-0051	高取 1 丁目111,112		個人	共同住宅	2006. 5.15	○	発掘調査	43	0632
18-2-0059	野芥 1 丁目16-31	野芥遺跡群	社会福祉法人	保育園建築	2006. 5.23	×	慎重工事	51	
18-2-0170	次郎丸 1 丁目26-6号	次郎丸高石遺跡	個人	個人住宅	2006. 5.18	○	慎重工事	47	
18-2-0171	飯倉 4 丁目514号	原東遺跡群	個人	個人住宅	2006. 5.22	×	慎重工事	50	
18-2-0181	賀茂 4 丁目212の一部	免遭跡群	個人	共同住宅	2006. 6.29	×	慎重工事	99	
18-2-0182	南庄 3 丁目71	有田遺跡群	個人	共同住宅	2006. 6.27	×	慎重工事	92	
18-2-0195	野芥 4 丁目597-20-一部	野芥遺跡群	個人	個人住宅	2006. 6. 6	×	慎重工事	68	
18-2-0208	次郎丸 6 丁目82-11	次郎丸高石遺跡	個人	土地取引等	2006. 6.29	×	慎重工事	98	
18-2-0222	小田部 1 丁目187	有田遺跡群	個人	個人住宅	2006. 6. 6	×	慎重工事	67	
18-2-0223	野芥 1 丁目868-1外	野芥遺跡群	一般業者	事務所、倉庫、駐車場	2006. 6.27	×	慎重工事	93	
18-2-0241	次郎丸 6 丁目107-10#	次郎丸高石遺跡隣接	個人	共同住宅	2006. 6.22	×	包蔵地外	90	
18-2-0242	有田 1 丁目33-7	有田遺跡群	個人	個人住宅	2006. 6. 7	○	発掘調査	72	0638
18-2-0325	野芥 2 丁目810-1外	野芥遺跡群・野芥大祓遺跡	個人	共同住宅	2006. 7. 6	×	慎重工事	104	
18-2-0341	西新 5 丁目633-4外	西新町遺跡	個人	店舗兼住居	2006.10.31	○	慎重工事	208	
18-2-0402	小田部 7 丁目19	有田遺跡群	個人	個人住宅	2006. 9. 4	×	慎重工事	147	
18-2-0433	有田 2 丁目7-68	有田遺跡群	個人	個人住宅	2007. 3. 8	×	慎重工事	304	
18-2-0436	小田部 1 丁目387-1	有田遺跡群	一般業者	土地取引等	2006. 8.17	○	要協議	133	
18-2-0439	小田部 1 丁目16	有田遺跡群	個人	個人住宅	2006. 8. 8	×	慎重工事	127	
18-2-0457	西新 4 丁目40-3外	西新町遺跡	一般業者	共同住宅	2006. 9.26	×	慎重工事	168	
18-2-0472	隈町 2 丁目862-6#6	隈町遺跡	一般業者	共同住宅	2006.11.21	○	慎重工事	230	
18-2-0474	次郎丸 2 丁目192外	次郎丸遺跡群隣接	一般業者	店舗	2006.10.26	×	慎重工事	203	
18-2-0483	百道 1 丁目98-53#3	元迎笠	学校法人	男子寮	2006.10.12	×	慎重工事	187	
18-2-0485	小田部 1 丁目481,497	有田遺跡群	個人	個人住宅	2006.10. 3	×	慎重工事	172	
18-2-0495	高取 2 丁目51, 5	藤崎遺跡	一般業者	共同住宅	2006.11. 9	×	慎重工事	220	
18-2-0513	有田 2 丁目7-88	有田遺跡群	個人	土地取引等	2006. 9.28	×	慎重工事	171	
18-2-0514	有田 1 丁目20-1	有田遺跡群	個人	駐車場	2006. 9.28	○	発掘調査	170	
18-2-0524	重留 4 丁目589-1	重留村下遺跡群	個人	店舗	2006. 9.14	○	工事立会	161	
18-2-0527	原 6 丁目632-6#6	原遺跡群	一般業者	事務所	2006. 9.21	○	発掘調査	165	
18-2-0538	賀茂 2 丁目144-13#	野芥大祓遺跡	個人	土地取引等	2006. 9.28	○	慎重工事	169	
18-2-0561	原 6 丁目786	原遺跡群	個人	個人住宅	2006.11.28	○	発掘調査	237	
18-2-0584	西新 3-10-17	西新町遺跡	個人	店舗兼住居	2007. 1.24	×	慎重工事	273	
18-2-0600	野芥 2 丁目825-1の一部	野芥遺跡群	個人	個人住宅	2006.10. 4	×	慎重工事	175	
18-2-0601	有田 2 丁目19-5	有田遺跡群	個人	土地取引等	2006.11.21	×	慎重工事	231	
18-2-0606	南庄 3 丁目206-1	有田遺跡群	個人	個人住宅	2006.10.25	○	工事立会	201	
18-2-0620	西新 5 丁目587,587-1	西新町遺跡	個人	共同住宅	2006.11. 9	×	慎重工事	221	
18-2-0622	野芥 5 丁目66-6,66-7	クエゾノ遺跡	個人	土地取引等	2006.11. 9	○	要協議	219	
18-2-0627	梅林 7 丁目137-93	クエゾノ遺跡	個人	個人住宅	2006.10.20	×	慎重工事	197	
18-2-0633	原 8 丁目1100-1	原遺跡群	一般業者	土地取引等	2006.10.26	×	慎重工事	205	
18-2-0674	有田 1 丁目13-7	有田遺跡群	個人	個人住宅	2006.12.19	○	慎重工事	252	
18-2-0691	野芥 2 丁目499-1	野芥大祓遺跡	一般業者	土地取引等	2006.11.13	×	慎重工事	224	
18-2-0704	野芥 5 丁目339-3	野芥遺跡群	個人	個人住宅	2006.12. 7	×	慎重工事	243	
18-2-0739	小田部 1 丁目22-33	有田遺跡群	一般業者	土地取引等	2006.11.28	○	要協議	238	
18-2-0766	賀茂 1 丁目311-3	免遭跡群	個人	個人住宅	2007. 1.11	×	慎重工事	263	
18-2-0769	飯倉 4 丁目2-2	原東遺跡群	個人	個人住宅	2006.12. 7	×	慎重工事	244	
18-2-0801	次郎丸 1 丁目65-9	次郎丸高石遺跡	個人	個人住宅	2006.11.25	○	工事立会	259	
18-2-0807	内野 6 丁目98-2	柿木原遺跡	一般業者	土地取引等	2006.12.21	×	慎重工事	257	
18-2-0833	西新 5 丁目2-43	西新町遺跡群隣接	一般業者	店舗兼住居	2007. 1.11	×	慎重工事	264	

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	試掘日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
18-2-0843	野芥6丁目381-5	野芥遺跡	個人	共同住宅	2007. 1.16	×	慎重工事	269	
18-2-0862	大字臨山1815番地	臨山A遺跡群隣接	個人	個人住宅	2007. 3.15	×	慎重工事	315	
18-2-0901	飯倉4丁目270-2.6	原東遺跡群	個人	共同住宅	2007. 2.13	×	慎重工事	287	
18-2-0906	有田5丁目629-1番地	包藏地外	個人	共同住宅	2007. 2. 6	×	開発同意	280	
18-2-0926	賀茂3丁目2-16	遠遺跡群	個人	個人住宅	2007. 2.19	×	慎重工事	289	
18-2-0933	小田郷5丁目78-1	有田遺跡群	個人	歯科診療所	2007. 2. 8	×	慎重工事	284	
18-2-0977	東入瀬2丁目1767-6	ヒワタシ遺跡群	個人	個人住宅	2007. 3. 8	×	慎重工事	305	
18-2-0979	田村2丁目786-1番地	田村遺跡群	一般業者	共同住宅	2007. 3. 6	○	工事立会	302	
18-2-0991	有田1丁目19-3	有田遺跡群	個人	個人住宅	2007. 3.17	×	慎重工事	317	

西 区

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	試掘日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
13-1-0233	今宿町地内内外	女原・德永B遺跡	福岡市都市整備局	区画整理	2006.5.16~18番	○	発掘調査	44	0635-0651-0655-0662-0702
17-1-0085	周船寺1丁目地内	周船寺遺跡群	福岡市土木局	道路舗装	2006.6.7外	○	慎重工事	70	
17-1-0110	拾六町2丁目16-1	牟多田遺跡	福岡市教育委員会	中学校教室改築	2006. 4. 4	×	慎重工事	2	
18-1-0034	大字元岡内	元岡A遺跡	福岡市土木局	道路改良	2006. 7. 5	×	慎重工事	102	
18-1-0041	大字今津	今津A遺跡群	福岡市西区今曾出張所	歩道設置工事	2006. 9.14	×	慎重工事	157	
18-1-0059	大字金武1910	乙石遺跡群	福岡市市民局	農村公園建設	2006. 9.14	×	慎重工事	158	
18-1-0061	大字千里211-6	千里向川原遺跡	福岡市教育委員会	住宅解体	2006.12.25	×	慎重工事	260	
18-1-0068	大字飯氏地内	飯氏遺跡群	福岡市西区今宿出張所	道路改良	2006.11. 1	×	慎重工事	212	
18-1-0085	福重4丁目287-2	福重稻穀遺跡群隣接	福岡市土木局	道路改良	2006.1.026	×	慎重工事	204	
18-1-0117	大字金武2028-1	都地遺跡	福岡市教育委員会	学校施設改築	2007. 1.31	○	工事立会	276	0667
18-1-0123	大字吉武地内	都地遺跡外	福岡市西区	歩道設置	2007. 3. 6	○	工事立会	303	
15-2-0510	橋本2丁目の一部	橋本遺跡隣接	土地区画整理組合	土地取引等	2006.1.214	○	慎重工事	248	
17-2-1041	周船寺1丁目414番地	周船寺遺跡群	一般業者	共同住宅	2006. 5. 9	○	慎重工事	33	
17-2-1113	大字金武866-1番地	妙見崎古墳	個人	個人住宅	2006. 4.13	×	慎重工事	15	
17-2-1201	福重3丁目323-7	福重稻穀遺跡	一般業者	分譲住宅	2006. 6. 6	×	慎重工事	66	
17-2-1236	今宿2丁目1081	今宿遺跡群	一般業者	土地取引等	2006. 4. 4	○	要協議	4	
17-2-1246	石丸3丁目246-1番地	下山門敷町遺跡	一般業者	老人ホーム	2006. 4.20	○	発掘調査	21	
18-2-0025	今宿上ノ原751-1	谷遺跡	個人	借家住宅	2006. 5. 9	×	慎重工事	34	
18-2-0028	横浜1丁目10-5番地	今宿遺跡群	個人	共同住宅	2006. 5.15	×	慎重工事	41	
18-2-0067	野方1丁目260-1	野方久保遺跡	一般業者	宅地造成	2006. 6.14	○	慎重工事	79	
18-2-0079	大字金武1288番地	金武首遺跡	個人	土地改良	2006. 5.30	×	包蔵地外	58	
18-2-0092	周船寺1丁目782-1,782	今宿田尻遺跡	個人	共同住宅	2006. 5.11	×	慎重工事	40	
18-2-0094	下山門3丁目10-1	下山門乙女田遺跡	社会福祉法人	保育園増設	2006. 6.20	×	慎重工事	86	
18-2-0096	姪浜3丁目3381	姪浜遺跡群	個人	共同住宅	2006. 5.15	○	発掘調査	42	0631
18-2-0103	横浜2丁目2-13	今山遺跡	個人	個人住宅	2006. 6.27	○	慎重工事	91	
18-2-0110	大字田川原218-2番地	千里遺跡群	個人	共同住宅	2006. 5.11	×	慎重工事	39	
18-2-0131	下山門4丁目789番地	下山門北小路遺跡	個人	土地取引等	2006. 6. 8	×	慎重工事	74	
18-2-0169	石丸3丁目244-50	下山門敷町遺跡	個人	個人住宅	2006. 5.18	○	慎重工事	48	
18-2-0205	野方3丁目610-17	羽根戸原B遺跡群	一般業者	土地取引等	2006. 6.20	○	要協議	85	
18-2-0218	泉1丁目1932-2番地	周船寺遺跡群	町内会	集会所	2006. 8.31	×	慎重工事	144	
18-2-0220	周船寺1丁目581-9番地	周船寺遺跡群	個人	個人住宅	2006. 8.17	×	慎重工事	131	
18-2-0291	野方6丁目720-1	野方平原遺跡	一般業者	宅地造成	2006. 7. 4	○	慎重工事	100	
18-2-0329	福重3丁目6-16	福重稻穀遺跡	一般業者	個人住宅	2006. 8.17	×	慎重工事	132	
18-2-0330	大字金武140-13	浦江谷遺跡群	一般業者	携帯電話基地局	2006. 7.13	×	慎重工事	110	
18-2-0411	今宿2丁目1086-8	今宿遺跡群	個人	個人住宅	2006. 8. 3	×	慎重工事	123	

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	試掘日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
18-2-0413	大字元岡1464-1	元岡A遺跡	個人	個人住宅	2006. 9.19	○	工事立会	162	
18-2-0458	周船寺2丁目389-4.5	周船寺遺跡群	個人	共同住宅	2006. 9. 7	×	慎重工事	150	
18-2-0461	豊岡4丁目675-9.15	コノリ遺跡群	共同住宅管理組合	土地取引等	2006. 9. 7	×	慎重工事	151	
18-2-0501	大字今津4780-1	元寇防壁	個人	個人住宅	2006. 9.19	×	慎重工事	163	
18-2-0521	大字今津1860	今津A遺跡群	個人	個人住宅	2006. 9.19	×	慎重工事	164	
18-2-0536	姫浜3丁目3270.3279	姫浜遺跡群	個人	個人住宅	2006.10.24	×	慎重工事	199	
18-2-0542	大字西浦1015-1	西ノ浦C遺跡	個人	倉庫	2006. 9.13	×	慎重工事	156	
18-2-0596	野方1丁目261-1外	野方久保遺跡	個人	共同住宅	2006.10.12	○	発掘調査	188	
18-2-0599	大字周船寺151-1外	蓮町遺跡	個人	個人住宅	2006.10.13	×	慎重工事	189	
18-2-0682	下山門4丁目672-6	下山門北小路遺跡隣接	個人	個人住宅	2006.11. 9	×	慎重工事	222	
18-2-0771	姫浜3丁目3577-3	姫浜遺跡群	個人	個人住宅	2007. 1.11	×	慎重工事	262	
18-2-0774	今宿1丁目1151	元寇防壁・今宿遺跡群	個人	個人住宅	2006.12.19	×	慎重工事	253	
18-2-0784	野方1丁目241、242	野方久保遺跡	個人	土地取引等	2006.12.14	○	慎重工事	249	
18-2-0814	野方2丁目382-15外	道隈遺跡隣接	一般業者	土地取引等	2006.12.19外	×	慎重工事	261	
18-2-0881	大字田尻321-1	今宿田尻遺跡	個人	個人住宅	2007. 2.27	×	慎重工事	297	
18-2-0904	周船寺1丁目504-16	周船寺遺跡群	一般業者	テナントビル	2007. 1.30	×	慎重工事	274	
18-2-0922	周船寺1丁目499-3外	周船寺遺跡群	個人	共同住宅	2007. 2. 8	×	慎重工事	283	
18-2-0936	野方1丁目223-3.6	野方久保遺跡	一般業者	店舗	2007. 2.13	○	慎重工事	286	
18-2-0945	大字女原333-3外	女原古墳群A群隣接	一般業者	土地取引等	2007. 2.27	×	慎重工事	296	
18-2-0953	大字今宿青木128-1	青木遺跡群	個人	個人住宅	2007. 3. 6	×	慎重工事	300	
18-2-0971	大字今宿青木468-1	包藏地外	個人	個人住宅	2007. 3. 6	×	慎重工事	301	
18-2-1003	益六町1丁目137-1外	橋本遺跡隣接	個人	保育園建設	2007. 3.17	×	慎重工事	319	

III 発掘調査

1. 概要

本市における埋蔵文化財の発掘調査は、東部地区（中央区、博多区、東区、南区）を埋蔵文化財第1課調査係が担当し、西部地域（早良区、城南区、西区）を埋蔵文化財第2課調査第1係、西区の九州大学移転用地及び周辺部については同課第2係が担当している。また史跡整備にともなう確認調査を文化財整備課整備第1係、特に福岡城、鴻臚館跡の調査については同課整備2係が実施している。

発掘調査にあたっては、本市の「埋蔵文化財資料の整理・収蔵要項」（昭和62年）に基づき、個々の遺跡に調査番号をつけ、遺構・遺物及び記録類の登録を行っている。調査番号は、西暦年度下2桁と年度中の番号を組み合わせた4桁で表している。1遺跡の調査が複数年にまたがる場合は、開始年度の登録番号のみとなる。なお、同一調査事業で複数の遺跡を調査する場合は、原則として遺跡ごと、場合によっては同一遺跡の地区によって調査番号を付し、それぞれを発掘調査件数として扱っている。

2. 平成18年度の発掘調査

市域内で実施された本年度の発掘調査件数は、表6に示したように14～17年度からの継続事業が9件、17年度新規事業が71件の計80件である。このうち6件が平成19年度に継続した。この発掘件数には本発掘調査69件のほか、史跡の整備事業に伴う事前調査1件（調査番号0617）、詳細分布調査1件（0660）、確認調査4件（0633・0636・0654・0663）、記録作製を行った試掘調査3件（0634・0657・0667）、および史跡整備工事に伴う調査1件（0615）のあわせて10件も含んでいる。

公民別では公共事業に伴う調査が26件、民間事業に伴う調査が54件である。原因となった事業別では共同住宅36件（48%）、個人住宅6件（8%）、学校4件（5%）、社屋・公民館等13件（17%）、区画整理5件（6%）、道路3件（4%）、圃場整備1件（1%）、史跡等の整備2件、確認調査4件、店舗0件、公園1件、その他として擁壁工事・携帯無線基地等2件があり、住宅建築が56%を占める（表8左）。

今宿地区古墳群詳細分布調査（調査番号0660）を除いた79件の発掘調査総面積は94,564m²で、前年度に比べ約3,627m²増加した（表5・表7）。公民別では公共事業が79,380m²（うち圃場整備が21,000m²）、民間事業が約15,184m²であり、公共が84%を占める。5年間継続した圃場整備は最終年度であり、割合は33%に減少した。個々の発掘調査の面積は、100m²以下が13件、101～300m²が27件、301～500m²が16件、501～1,000m²が7件、1,001～5,000m²が10件、5,001m²～10,000m²が3件、10,001m²以上が1件となる。調査面積が最も少ないのは都地遺跡群第7次（0667）の学校内樹木植え替えに伴う調査で11m²（本発掘調査では有田遺跡群第225次（0638）の35m²）、最も多いのが圃場整備に伴う乙石遺跡群第3次（0567）の21,000m²である。平均は1,212m²（17年度1,052m²）であるが、公民別では民間281m²、公共事業のうち圃場整備21,000m²を除くと、公共2,458m²であり差が大きい。なお博多遺跡群、箱崎遺跡などでは遺構面が複数あり、これを面ごとに調査しているため、実際の発掘面積はさらに増加する。

調査地点を区別に見ると（表8中）、博多区が最も多く28件（17年度32件）、西区15件（22件）、南区11件（3件）、東区10件（7件）、早良区9件（14件）、城南区4件（1件）、中央区3件（4件）と続く。昨年までと異なり南区、東区、城南区が増加し、他区は調査件数が減少している。ただし博多区の件数が一番多く、西区がそれに次ぐ傾向は変わらない。博多区では博多遺跡群（14件）と比恵遺跡群（7件）、那珂遺跡群（4件）に集中するほか、東区の箱崎遺跡（7件）、南区の井尻B遺跡群（5件）が増加し、南部の地下鉄七隈線や外環状線沿線地域で調査例が増えてきた。なお、これまで調査例が多かった早良区の有田遺跡群（2件）、西新遺跡（3件）はやや減少傾向にある。西区では九州大学移転用地及びその周辺では主要工事が終盤となり、元岡・桑原遺跡群（2件）の発掘調査が少なくなっている。区別の発掘調査面積は、金武圃場整備、九大移転地、伊都区画整理など大規模事業を抱える西区が全市の過半数（60%）を占めている（表8左）。

予算別（表9）では、国庫補助を受けた事業が30件（国補19件（試掘含む）、国補+民間受託10件、国庫+令達1件）、公共受託事業が2件、民間受託事業が31件、令達事業が16件である。国庫補助事業は昨年に比

表5 平成11~18年度発掘調査推移表

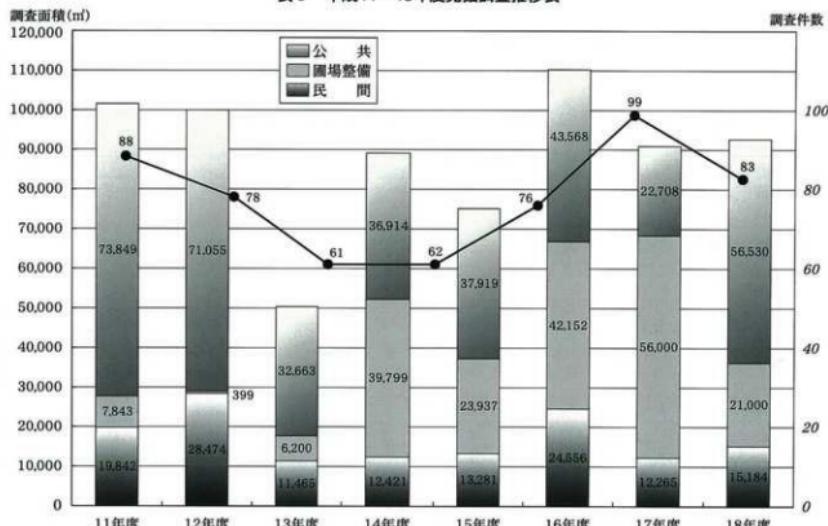


表6 発掘調査件数の推移（）前年度からの継続件数

事 業	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
民 間	43(4)	37(0)	43(0)	47(0)	67(1)	52(3)	52(3)	59(5)
園場整備	1(0)	2(0)	1(3)	2(0)	4(0)	4(2)	1(1)	3(2)
公 共	34(4)	22(0)	18(1)	27(4)	28(5)	27(6)	27(6)	24(1)
合 計	78(9)	61(0)	62(4)	76(4)	99(6)	83(11)	80(11)	86(8)

表7 発掘調査面積の推移(m²)

事 業	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
民 間	28,474	11,465	12,421	13,281	24,556	12,203	15,184
園場整備	399	6,200	39,799	23,937	42,152	56,000	21,000
公 共	71,055	32,663	36,914	37,919	43,568	22,708	56,530
合 計	99,928	50,328	89,134	75,137	110,276	90,973	92,714

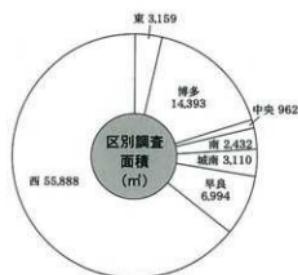
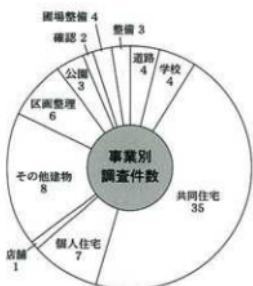


表8 発掘調査内訳

表9 平成18年度発掘調査総括表

区名	事業別	調査費用						県教委 — 民間	統計	調査主体別内訳							
		令達	受託	補助事業		市単費	小計			埋蔵文化財第1課	埋蔵文化財第2課	鴻臚館跡担当	文化財整備課	福岡県教委	民間調査機関		
				補助	民受												
東	公共	2		1			3		10	3							
	民間		5		2		7			6	1						
博多	公共	1					1		28	1							
	民間			19	4	4	27			25	2						
中央	公共			2			2		3				1	1			
	民間				1		1				1						
南	公共	1	1	1			3		11	3							
	民間			5	2	1	8			8							
城南	公共	2					2		4		2						
	民間			1	1		2				2						
早良	公共	2					2		9	1				1			
	民間				4	3	7				7						
西	公共	8	2	1		1	12		15	1	9						
	民間			1	2		3				2						
小計	公共	16	3	5	0	1	0	25	80	8	12	1	1	1	0		
	民間			31	14	10	0	0		40	14	0	0	0	0		
合 計		16	34	19	10	1	0	80	0	48	26	1	1	1	0		

*調査番号0615福岡城跡56次は委託事業内での調査であり、調査費用の項目から除外している。また補助事業には試掘4件を含む（博多区2件・中央区1件・西区1件の民間）。

べて減少したが、かわって民間受託の増加が目立つ。これは都市部での開発が平成18年度から再び増加したことによるところが大きい。

調査主体別（表9）では埋蔵文化財課第1課が49件、埋蔵文化財課第2課が25件、文化財整備課の確認調査等が2件である。

以上のように18年度は17年度より発掘調査件数はやや減少したが、面積は逆に増加している。18年度の調査一覧は前年度からの継続分も含め表10に示した。

なお、文化財保護法による第99条の書類提出は60件（16年度87件、17年度62件）であった。

表11 平成18年度調査一覧（前年度からの継続を含む）

調査番号	遺跡名	次数	地點	区	所 在 地	調査原因事業者	予算種別	申請面積 (m ²)	調査面積 (m ²)	古墳	調査開始	調査終了	担当者	審査番号	遺跡略号
0451	元岡・桑原遺跡群	42		西	大字元岡	大学移転用地造成 国立大学法人	公受	2,750,000			2004.10.01 継続	米倉	14-1-18	MOT	
0531	今宿五郎江遺跡	11		西	今宿町地内	伊都区画整理 福岡市都市整備局	令達・ 国補	7,000	6,900		2005.07.08 2006.12.09	杉山 阿部	13-1-233	IZG	
0547	都地遺跡群	6		西	大字吉武	金武園場整備 金武吉武土地改良区	令達・ 国補	14,520	13,300		2005.09.29 2006.11.10	宮井	10-1-142	TZI	
0556	蒲田部木原遺跡群	10		東	蒲田3丁目1121-1 外13基	事務所付倉庫 一般企業	民受	1,500	1,805		2005.12.20 2006.04.28	中村	17-2-895・ 899	KHH	
0559	箱崎遺跡	51		東	箱崎1丁目36-37	個人住宅兼共同住宅 個人	民受・ 国補	257	270		2006.01.16 2006.04.11	屋山	17-2-351	HKZ	
0560	博多遺跡群	157		博多	祇園町183、184、 185、227	商業ビル 一般企業	民受	292	230		2006.01.10 2006.04.12	荒牧	17-2-565	HKT	
0566	博多遺跡群	159		博多	店屋町102、103-1外	共同住宅 一般企業	民受	156	190		2006.01.30 2006.04.10	吉武	16-2-0618	HKT	
0567	乙石遺跡群	3		西	金武乙石	金武園場整備 金武吉武土地改良区	令達・ 国補	30,000	21,000		2006.2.12 006.11.10	宮井 田上	17-1-142	OTA	
0572	博多遺跡群	161		博多	店屋町21~23	共同住宅 一般企業	民受	318	247		2006.03.14 2006.07.08	小林	16-2-1113	HKT	
0601	博多遺跡群	160		博多	桐原町144-145	共同住宅 一般企業	民受	240	134		2006.04.03 2006.07.04	赤坂	17-2-628	HKT	
0602	那珂遺跡群	112		博多	東光寺2丁目897	共同住宅 個人	民受・ 国補	384	415		2006.04.03 2006.05.26	大塚 加藤	17-2-855	NAK	
0603	苏永原遺跡群	9		南	日佐3丁目107、 112-1の一部	共同住宅 個人	民受・ 国補	450	339		2006.04.03 2006.05.26	黒富士	17-2-851	YNB	
0604	原遺跡群	23		早良	原5丁目1317-11	個人住宅 個人	国補	116	103		2006.04.03 2006.05.02	久住	17-2-494	HAA	
0605	戸切遺跡	2		西	戸切3丁目18	公共施設 福岡市建築局	令達	190	593		2006.04.06 2006.05.31	加藤	17-1-74	TGR	
0606	三宅B遺跡	1		南	三宅2丁目745-12他	共同住宅 個人	民受	388	448		2006.04.10 2006.06.01	吉武	16-2-751	MYB	
0607	飯倉F遺跡群	4		城南	七隈6丁目地内	公園 福岡市都市整備局	令達	2,310	1,863		2006.04.10 2006.06.01	阿部	17-1-83	IKK-F	
0608	井相田C遺跡群	7		博多	井相田2丁目11-3	共同住宅 一般企業	民受	240	439		2006.04.17 2006.05.31	山川	17-2-659・ 1132	ISC	
0609	クエゾノ遺跡	2		城南	梅林5丁目215	個人住宅 個人	国補	196	152		2006.04.17 2006.05.02	木下	17-2-848	KEZ	
0610	五十川遺跡群	15		南	五十川2丁目277-5	消防分団車庫 福岡市消防局	令達	100	56		2006.04.21 2006.05.31	荒牧	17-1-87	GJK	
0611	元岡・桑原遺跡群	49		西	大字桑原地内	学校建築 福岡市土地開発公社	公受	2,000	2,723		2007.04.03 2007.03.22	池田		MOT	
0612	博多遺跡群	162		博多	冷泉町422	共同住宅 個人	民受	175	191		2006.05.01 2006.06.21	黒富士	16-2-796	HKT	
0613	井尻B遺跡群	25		南	井尻1丁目754番 2の一部	共同住宅 個人	国補	69	80		2006.05.15 2006.05.31	久住	17-2-1240	IGB	
0614	比志遺跡群	105		博多	梅林南5丁目 145-2, 145-3	共同住宅 個人	国補	150	95		2006.05.22 2006.06.10	樋本	17-2-1173	HIE	
0615	福岡城跡	56	上/横	中央	城内	史跡整備 福岡市教育委員会	国補 (受託)		100		2006.05.17 2007.03.23	中村		FUE	
0616	有田遺跡群	224		早良	小田部5丁目47-1、 47-2	個人住宅 個人	国補	149	99		2006.05.26 2006.06.22	今井	18-2-174	ART	
0617	福岡城跡	57	鴻臚館24次	中央	城内	史跡整備 福岡市教育委員会	国補 (受託)				2006.07.01 2007.03.30	大庭		FUE	
0618	那珂遺跡群	113		博多	那珂2丁目37、38	共同住宅 個人	民受・ 国補	142	372		2006.08.04 2008.08.01	荒牧	17-2-1215	NAK	
0619	麦野A遺跡群	17		博多	麦野5丁目1~40、 1-34、1-35	共同住宅 個人	国補	344	336		2006.06.01 2006.06.21	吉武	17-2-661	MGA	
0620	野芥遺跡群	15		早良	野芥1丁目862-8	商業ビル 個人	国補	196	196		2006.06.01 2006.06.09	木下	17-2-1196	NKE	

調査番号	遺跡名	次数	地点	区	所在地	調査原因事業者	予算種別	申請面積(m ²)	調査面積(m ²)	古墳	調査開始調査終了	担当者	審査番号	遺跡略号
0621	重留村下遺跡	5		早良	重留6丁目642-2,5-650-2	共同住宅個人	民受・国補	299	200		2006.06.05 2006.07.05	加藤三	17-2-1206	SGM
0622	比恵遺跡群	106		博多	山王1丁目165-1	共同住宅個人	民受・国補	238	192		2006.06.12 2006.08.10	星山	17-2-884	HIE
0623	博多遺跡群	163		博多	中呉服町83	共同住宅一般企業	民受	310	311		2006.6.12 2006.09.08	榎本	17-2-705	HKT
0624	梅林遺跡	8		城南	梅林4丁目20-3	共同住宅一般企業	民受	142	142		2006.06.12 2006.06.20	上角	17-2-1149	UBY
0625	女原遺跡群	6		西	大字女原	区画整理都市整備局	令達	8,000	2,580		2006.06.14 2006.11.01	加藤久	13-1-233	MBR
0626	箱崎遺跡	52		東	箱崎1丁目1925他5筆	共同住宅個人	民受・国補	327	351		2006.06.19 2006.08.28	久住	17-2-1244	HKZ
0627	那珂遺跡群	114		博多	竹下5丁目地内	公園建設福岡市都市整備局	令達	15,700	7,752		2006.06.26 2007.03.31	吉武	17-1-99	NAK
0628	比恵遺跡群	107		博多	博多駅南5丁目132	共同住宅一般企業	民受	142	123		2006.07.03 2006.07.25	赤坂	18-2-86	HIE
0629	井尻B遺跡群	26		南	井尻1丁目87-1	共同住宅一般企業	民受	629	614		2006.07.18 2006.09.05	小林	17-2-1199	IGB
0630	南八幡遺跡群	15		博多	寿町2丁目97	共同住宅一般企業	民受	763	789		2006.07.10 2006.09.29	森富士	17-2-1137	MHM
0631	姪浜遺跡群	5		西	姪浜3丁目3381	個人住宅個人	国補	100	143		2006.07.12 2006.08.07	加藤三	18-2-96	MNH
0632	西新町遺跡	19		早良	高取1丁目111他	共同住宅個人	民受・国補	150	163		2006.07.12 2006.08.11	今井	18-2-51	NSJ
0633	名島城跡	4	桐橋	東	名島1丁目地内	確認調査福岡市教育委員会	国補		494		2006.08.07 2006.10.31	荒牧	14-1-11	NZE
0634	福岡城跡	58	肥前堀8次	中央	大名2丁目160-1,2,3,4	商業ビル一般企業	国補	42	42		2006.07.06 2006.07.10	吉留	18-2-12	FUE
0635	羽根戸原B遺跡群	2		西	野方3丁目610-17	個人住宅(車庫)個人	国補	80	47		2006.07.27 2006.08.02	上角	18-2-201-351	HNB
0636	比恵遺跡群	108		博多	博多駅南4丁目132-1	立体駐車場一般企業	国補	93	93		2006.08.01 2006.08.16	木下	2-38812-2-4817-2-1111	HIE
0637	西新町遺跡	20	修猷館高内	早良	西新町6丁目1地内	学校建設福岡県教育委員会	-		1,850		2006.08.01 2006.12.13	黒教委	黒教委対応	NSJ
0638	有田遺跡群	225		早良	有田1丁目33-7	個人住宅(車庫)個人	国補	41	35		2006.07.27 2006.08.04	阿部	18-2-242	ART
0639	博多遺跡群	164		博多	上呉服町468他	共同住宅一般企業	民受	363	390		2006.08.07 2006.10.06	赤坂	17-2-1013	HKT
0640	蓙田部木原遺跡群	11		東	蓙田2丁目1111-1	倉庫建設一般企業	民受	280	414		2006.08.16 2006.09.26	阿部	18-2-37	KHH
0641	井尻B遺跡群	27		南	井尻1丁目736-3,5	共同住宅個人	国補	448	134		2006.08.21 2006.09.02	小林	18-2-262	IGB
0642	博多遺跡群	165		博多	吉門町50,51,52	共同住宅一般企業	民受	347	390		2006.09.01 2006.12.18	星山	17-2-1049	HKT
0643	西新町遺跡	21		早良	西新5丁目572-2	共同住宅一般企業	民受・国補	367	369		2006.09.11 2006.12.05	今井	18-2-326	NSJ
0644	比恵遺跡群	109		博多	博多駅南5丁目123-1,124-1	共同住宅個人	民受・国補	226	164		2006.09.11 2006.10.11	小林	17-2-1110	HIE
0645	比恵遺跡群	110		博多	博多駅南4-237-1,223	葬祭場一般企業	民受	800	572		2006.09.13 2006.11.15	榎本	18-2-183	HIE
0646	博多遺跡群	166		博多	祇園町279	共同住宅一般企業	民受	258	238		2006.09.26 2006.12.18	久住	18-2-197	HKT
0647	博多遺跡群	167		博多	博多駅前1丁目176-6	納骨堂宗教法人	民受	327	288		2006.10.18 2007.01.24	小林	18-2-319	HKT
0648	箱崎遺跡	53		東	箱崎3丁目2442-1	共同住宅一般企業	民受	529	495		2006.10.10 2006.12.01	森富士	18-2-381	HKZ
0649	飯倉F遺跡群	5		城南	七隈6丁目地内	公園福岡市都市整備局	令達	1,000	1,363		2006.10.16 2006.11.30	阿部	17-1-83	KK-F

調査番号	道路名	次数	地点	区	所在地	調査原因事業者	種別	申請面積 (m ²)	調査面積 (m ²)	古墳	調査開始 調査終了	担当者	審査番号	道路 略号
0650	箱崎遺跡	54		東	馬出5丁目地内	道路建設 福岡市土木局	令達	798	333		2006.10.23 2007.02.28	荒牧	10-1-20	HKZ
0651	大塚遺跡	9		西	今宿町地内	伊都区画整理 福岡市都市整備局	令達	9,294	6,562		2006.1.10.7 2007.03.27	木下	13-1-233	OTS
0652	田村遺跡群	21		早良	田村4丁目地内	道路建設 福岡市土木局	令達	16,200	3,977		2006.1.10.8 2006.04.27	加藤3	13-1-820 18-1-35	TMR
0653	野多目B遺跡群	2		南	野多目4丁目735	無線通信基地 一般企業	民受	147	121		2006.1.11.13 2006.12.28	赤坂	18-2-203	NMA
0654	老司瓦窑跡	1	1号瓦窑跡	南	老司4丁目584-2	擁壁工事 法務省	令達	265	265		2006.1.11.15 2006.01.24	榎本	18-1-79	RJK
0655	今宿五郎江道路	12		西	今宿町地内	伊都区画整理 福岡市都市整備局	令達	1,393	1,340		2006.12.01 2007.03.09	加藤3	13-1-233	IZG
0656	博多遺跡群	168		博多	中興服町126	共同住宅 一般企業	民受	172	189		2006.1.20.1 2007.01.23	戸富士	18-2-164	HKT
0657	博多遺跡群	169		博多	祇園町313~316	店舗共同住宅 個人	国補	36	36		2006.1.20.4 2006.12.08	本田 吉留	17-2-279	HKT
0658	井尻B遺跡群	28		南	井尻4丁目170-12	共同住宅 一般企業	民受	528	241		2006.1.21.11 2007.01.31	阿部 赤坂	18-2-555	IGB
0659	大塚遺跡	10		西	今宿町地内	伊都区画整理 福岡市都市整備局	令達	2,853	2,789		2006.12.08 2007.03.14	今井	13-1-233	OTS
0660	今宿地区古墳群	3		西	今宿地域	詳細分界調査 福岡市教育委員会	国補 議認				2006.12.15 2007.03.31	杉山		
0661	那珂遺跡群	115		博多	那珂1丁目707	共同住宅 個人	民受	217	142		2007.01.18 2007.03.16	久住	18-2-162	NAK
0662	大塚遺跡	11		西	今宿町地内	伊都区画整理 福岡市都市整備局	令達	4,018	4,018		2007.01.23 2007.09.10	宮井 木下	13-1-233	OTS
0663	老司瓦窑跡	2	1号瓦窑周辺	南	老司4丁目584-2, 594-2,589	確認調査 福岡市教育委員会	国補 議認	800	48		2007.01.20.1 2007.03.30	榎本	18-1-79	RJK
0664	箱崎遺跡	55		東	馬出5丁目地内	道路建設 福岡市土木局	令達	22,000	987		2007.02.01 2007.	継続	10-1-20	HKZ
0665	箱崎遺跡	56		東	箱崎1丁目2505他	共同住宅 一般企業	民受	406	424		2007.02.01 2007.04.27	赤坂	18-2-692	HKZ
0666	比恵遺跡群	111		博多	博多駅南4丁目9-23	商業ビル 一般企業	民受	200	164		2007.02.05 2007.02.28	阿部	18-2-757	HIE
0667	都地遺跡群	7		西	金武2028-1	学校施設(倉庫) 福岡市教育委員会	-	13	10		2007.02.07 2007.02.07	星野 吉留	18-1-117	TZI
0668	井尻B遺跡群	29		南	井尻5丁目175-1外	店舗建築 一般企業	民受	565	87		2007.02.13 2007.02.16	本田 吉留	18-2-910	IGB
0669	博多遺跡群	170		博多	祇園町76-2	共同住宅 一般企業	民受	168	185		2007.02.13 2007.04.24	小林	17-2-1050	HKT
0670	博多遺跡群	171		博多	祇園町566, 585-1	自走式駐車場 一般企業	民受	1,025	511		2007.02.19 2007.06.15	屋山	18-2-308	HKT
0671	箱崎遺跡	57		東	箱崎1丁目2493	共同住宅 一般企業	民受	242	245		2007.03.12 2007.04.27	荒牧 瀧石	18-2-657	HKZ

IV 公開活動

1. 現地説明会

市域内の発掘調査のなかで特に注目される事例については、市民への公開を目的とした現地説明会を開催している。平成18年度は9ヶ所の調査に対し計6回の現地説明会を実施した。説明会は城南区、早良区を除く5区で開催し、延べ1,560名の見学者があった（表11）。

2. 体験学習

文化財部では市内小中学校の体験学習の一環として発掘調査への参加を受け入れている。平成18年度は博多区那珂遺跡群114次調査等に3校の生徒と教師が参加した。また、西区都地遺跡群6次、中央区福岡城跡58次調査等で校区内の小学校生徒の見学を行った。

表10 平成18年度福岡市現地説明会一覧

番号	調査番号	遺跡名	次数	住 所	調査開始	調査終了	現場担当者	記者発表日	現地説明会日	天 气	見学者(人)	備 考
1	0633	名島城跡	4	東区名島	20060807	20061031	荒牧	20061010	20061014	晴れ	160	
2	0617	浦賀館跡	24	中央区域内	20060730	20070330	大庭	20061222	20061223	晴れ時々曇り	200	
3	0654	老司瓦窯跡	1	南区老司4丁目20-1	20061115	20070124	榎本	20070110	20070116	晴れ時々曇り	450	
4	0615	福岡城(大手門)	56	中央区域内	20060517	20070322	中村	20070125	20070127	雨	50	
5	0655	今宿五郎江遺跡	12	西区今宿町内	20061201	20070309	加藤(残)	20070219	20070224	晴れ	350	4調査同時 説明会実施
	0651	大塚遺跡	9		20061107	20070327	木下					
	0659	大塚遺跡	10	西区今宿町内	20061208	20070314	今井					
	0662	大塚遺跡	11		20070127	20070910	宮井					
6	0627	那珂遺跡群	114	博多区竹下5丁目11番	20060626	20070331	吉武	20070307	20070310	曇りのち雨	350	



1. 名島城跡現地説明会 1



2. 名島城跡現地説明会 2



3. 那珂遺跡群114次調査現地説明会 1



4. 那珂遺跡群114次調査現地説明会 2

V 平成18年度発掘調査概要および報告

調査概要および報告は前年度からの継続分も含め表7の調査番号順に掲載している。ただし調査番号0556織田部木原遺跡10次、0559箱崎遺跡51次、0560博多遺跡群157次、0566博多遺跡群159次、0572博多遺跡群161次の5調査は昨年度の年報に掲載済みなので割愛した。下に五十音順の索引をついたが、このうち太字のものが報告である。各概要・報告中の図「1. 調査地点の位置」の（ ）内は、左から福岡市都市計画地図図幅番号・図幅名稱・遺跡番号・地図の縮尺である。

発掘遺跡索引

遺跡名	調査番号	位置番号	頁	遺跡名	調査番号	位置番号	頁
あ 有田遺跡群224次	0616	1	44	博多遺跡群163次	0623	21	54
有田遺跡群225次	0638	1	71	博多遺跡群164次	0639	21	72
い 飯倉F遺跡群4次	0607	2	35	博多遺跡群165次	0642	21	75
飯倉F遺跡群5次	0649	2	82	博多遺跡群166次	0646	21	79
井尻B遺跡群25次	0613	3	41	博多遺跡群167次	0647	21	80
井尻B遺跡群26次	0629	3	61	博多遺跡群168次	0656	21	89
井尻B遺跡群27次	0641	3	74	博多遺跡群169次	0657	21	90
井尻B遺跡群28次	0658	3	95	博多遺跡群170次	0669	21	109
井尻B遺跡群29次	0668	3	106	博多遺跡群171次	0670	21	110
井相田C遺跡群7次	0608	4	36	箱崎遺跡52次	0504	22	58
今宿五郎江遺跡11次	0632	5	24	箱崎遺跡53次	0648	22	81
今宿五郎江遺跡12次	0655	5	88	箱崎遺跡54次	0650	22	83
今宿地区古墳群（3次）	0660	6	97	箱崎遺跡55次	0664	22	101
う 梅林遺跡8次	0624	7	55	箱崎遺跡56次	0665	22	102
お 大塚遺跡9次	0631	8	84	箱崎遺跡57次	0671	22	111
大塚遺跡10次	0659	8	96	羽根戸原B遺跡群2次	0635	23	68
大塚遺跡11次	0662	8	99	原遺跡群23次	0604	24	30
乙石遺跡3次	0567	9	26	ひ 比恵遺跡群105次	0614	25	42
か 菊田部木原遺跡群11次	0640	10	73	比恵遺跡群106次	0622	25	53
く クエノ遺跡2次	0609	11	37	比恵遺跡群107次	0628	25	60
こ 五十川遺跡群15次	0610	12	38	比恵遺跡群108次	0636	25	69
し 重留村下遺跡5次	0621	13	52	比恵遺跡群109次	0644	25	77
た 田村遺跡群2次	0652	14	85	比恵遺跡群110次	0645	25	78
と 戸切遺跡2次	0605	15	33	比恵遺跡群111次	0666	25	103
都地遺跡群6次	0547	9	25	ふ 福岡城跡56次	0615	26	43
都地遺跡群7次	0667	9	104	福岡城跡57次（鴻臚館跡）	0617	26	45
な 那珂遺跡群112次	0662	16	28	福岡城跡58次（肥前堀）	0634	27	66
那珂遺跡群113次	0618	16	46	み 南八幡遺跡15次	0630	28	62
那珂遺跡群114次	0627	16	59	三宅B遺跡1次	0606	29	34
那珂遺跡群115次	0660	16	98	女原遺跡群6次	0625	30	57
名島城跡4次	0633	17	65	む 麦野A遺跡群17次	0619	31	47
に 西新町遺跡19次	0632	18	64	め 矢浜遺跡群5次	0631	32	63
西新町遺跡20次	0637	18	70	も 元岡・桑原遺跡群42次	0451	33	23
西新町遺跡21次	0643	18	76	元岡・桑原遺跡群49次	0611	33	39
の 野芥遺跡群15次	0620	19	51	や 弥永原遺跡群9次	0603	34	29
野多目B遺跡群2次	0653	20	86	ろ 老司瓦窯跡1次	0654	35	87
は 博多遺跡群160次	0601	21	27	老司瓦窯跡2次	0663	35	100
博多遺跡群162次	0612	21	40				



平成 18 年度発掘調査地点位置図

(●番号は 21 頁の発掘調査道路索引の位置番号と一致する)

0451 元岡・桑原遺跡群第42次調査(MOT-42)

所 在 地 西区大字元岡字二又

調査面積 8,000m²

調査原因 大学移転用地造成

担当者 米倉秀紀

調査機関 2004.10.1～継続

処置 記録保存

位置と環境 糸島半島の中央から南側に伸びるやせた丘陵間の谷の中に調査地全面が立地する。前面100m先是古今津湾である。一昨年度からの継続調査で東半分(1区)に加えて、西半分(2区)を拡張し、調査を行っている。2006年6月22日の大雨で、調査区全城が水浸しとなり、その後も降り続いた雨のため、水が抜けきったのは7月31日である。ところが、水を抜いた後には大量の土砂が流入しており、その土砂を取り終わるのは12月上旬で、都合5ヶ月以上調査が停止状態となつた。

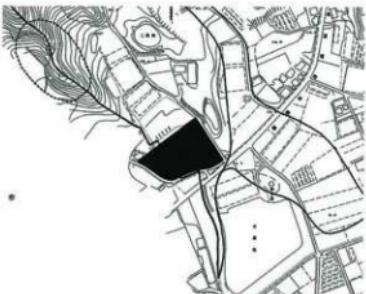
検出遺構 1区では幅30mの自然流路の西岸に、弥生時代中期後半頃と考えられる大型の柱穴を持つ1×2間と1×1間の掘立柱建物各1基がある。

2区でも幅30mの自然流路があり、1区より深く、深さ2mを超しそうである。1区東岸に竪穴住居状の遺構3基と大型の柱穴を持つ1×1間の建物1棟がある。

出土遺物 1区はほぼ完掘したが、遺物総量は4,500箱を数える。の中には楽浪系土器、半島系土器、半島系の器形を呈した刷毛目を有する土器、格子目叩きを施した日本の土器など、朝鮮半島とのつながりを強く示す土器の一群が出土している。また多くのスサ入り粘土塊と焼成剝離のある土器群が廃棄された状態で出土している。2区は全体の20%を掘ったが、までの1000箱近くが出土している。2区では木製品の出土が多く、船の隔壁、櫓、建物の柱6本、案、その他工具・農具などが出土している。

また部分的に縄文時代晩期中頃の包含層があり、木の実がまとまって出土している。

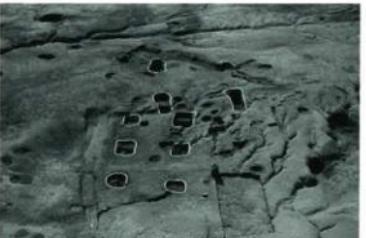
まとめ 基本的には弥生時代中期中頃～古墳時代前期の2本の自然流路と若干の遺構群であるが、祭祀的な中期土器群の他特徴的な遺物群が大量に出土している。調査は19年度も継続している。



1. 調査地点の位置(140 元岡 2782 1:8000)



2. 調査区全景(南東から)



3. 掘立柱建物(東から)

0531 今宿五郎江遺跡第11次調査 (IZG-11)

所在地 西区今宿町地内

調査面積 4,020m²

調査原因 区画整理

担当者 杉山富雄・加藤良彦

調査機関 2005.7.8~2006.12.9

処置 記録保存

位置と環境

遺跡は、砂丘後背湿地中に突出した段丘と東西両側谷にわたる地形に立地している。調査地点は、遺跡の西部に位置し、遺跡中央より一段低い段丘面と、西縁部を北流する浅い谷の部分にあたる。北へ緩く傾斜する段丘面で、標高は5.5~3.5mの位置にある。平成18年度からの継続調査であり、平成19年度は、調査区南半部の調査を継続し、調査面積は計6,900m²となった。

検出遺構

調査区東半部は段丘面で、掘立柱建物、弧状の細い溝を主とした遺構が検出された。掘立柱建物には1×1間、1×2間のほかに3×4間以上の規模のものがある。溝は、壁が直立するものがあり、土器片が投入されたような状態がみられる。

段丘西縁部の谷部では、前年度に上部を調査した大溝を完掘した。大溝は弥生時代中期の包含層を掘り込み、蛇行して掘削されている、深さは上流側の深い位置では1.5m余を測る。溝底の勾配はごく緩いが、途中で段を成して低くなる。溝は、泥炭質の粘土と粗砂の互層で埋積するが、その過程で、井戸枠状の施設、乱杭、杭列、矢板列の打設が部分的に行われている。また、岸から遺物の投棄が頻繁におこなわれ、多量の遺物を出土する包含層が生成している。

出土遺物

前年度に続き大量の土器（弥生時代後期が主）が出土したほかに、貨泉、銅鑄、鋳造鉄斧等の金属器を検出した。また、小量であるが、楽浪系土器、三韓系土器、瀬戸内系を初めてとする搬入土器が含まれていた。木器には鋤、鋤ほか農具類、槽等の容器類等が出土した。

まとめ

第9次、第10次調査区の成果と合わせて、遺跡の東西が、おそらく同時期掘削された大溝により区画されていることが、明らかになった。

また、大量の遺物と、多様な遺構構成といった点で共通性をもつ遺跡は近年、糸島地域で複数明らかになっており、それらとの関わりを念頭に置きながら検討してみる必要がある。



1. 調査地点の位置(112 今宿 626 1:8000)



2. 大溝・矢板列調査状況(北から)



3. 井戸枠状の施設(大溝下部 南から)

0547 都地遺跡第6次調査(TZI-6)

所在地 西区金武地内

調査面積 7,600m² (総面積13,300m²のうち)

調査原因 区画整理

担当者 宮井善朗・田上第一郎

調査機関 2005.9.29～2006.11.10

処置 記録保存

位置と環境

都地遺跡は飯盛山の南東麓に位置し、日向川水系の小河川が形成する扇状地上に立地する。都地泉水遺跡とは谷をはさんで南東側に位置している。日向岬を越えて早良平野に入る、山塊部と平野部の境界付近に位置しており、平野を一望できる立地である。



1. 調査地点の位置(93 都地 2838 1:8000)

検出遺構

検出した遺構、遺物は大きく4期に分けられる。1期は弥生時代、2期は古墳時代後期、3期は奈良時代、4期は平安時代前期と考えられる。

1期(弥生時代)の主な遺構としては、土坑3基を検出した。形態、規模が類似しており、円形～楕円形を呈する。内部からは弥生中期の土器がまとまって出土している。2期の遺構としては、須恵器、土師器がまとまって出土した土坑がある。3期(奈良時代)の特徴的な遺構として掘立柱建物群がある。南側B区では2間×10間の大形建物がコ字状に配置され、官衙的施設が想定される。北側A区でも比較的大型の建物が見られる。4期の遺構としては土壙墓等が2基検出された。黒色土器や土師器坏を副葬している。



2. 掘立柱建物群(上が南)

出土遺物

出土遺物は絶じて少ない。弥生土器、須恵器、土師器、黒色土器などである。特に掘立柱建物からの遺物は少ない。



3. 土壙墓遺物出土状況(西から)

まとめ 都地6次地点は弥生時代、古墳時代に小規模な集落があったと思われ、古代には官衙的施設が建設される。この施設は周囲の製鉄遺構群と関わるものであろうか。官衙廃絶後は墓地が小規模に営まれるようである。

調査報告書は19年度に刊行予定である。

0567 乙石遺跡第3次調査(OTA-3)

所在地	西区金武地内	調査面積	20,000m ² (総面積21,000m ² のうち)
調査原因	区画整理	担当者	宮井善朗・木下博文
調査機関	2006.2.1.~11.10	処置	記録保存

位置と環境 乙石遺跡は室見川西岸の扇状地上に位置する。南北を谷に囲まれ、南側は小河川が開削する段丘崖になっている。北側は都地遺跡に、南側は金武城田遺跡に隣接する。

検出遺構 遺構は散漫でまた擾乱や造成が多く、遺存はよくない。今回調査では、古墳時代住居跡、古代掘立柱建物、古代製鉄遺構、古墳時代土壙墓、古代土壙墓などが検出された。住居跡は方形で斜面に面して造られている。1基のみの検出で、集落の状況は明らかでない。掘立柱建物は2間×5軒の大形の建物1棟をはじめ8棟を確認した。大形建物は都地6次のものと類似する。土壙墓は古墳時代のものには須恵器が、古代のものには黒色土器が副葬されていた。

出土遺物 出土遺物は総じて少ない。土師器、須恵器などの土器類が13箱、石器、石製品(滑石製石鍋など)が1箱のほか、鉄滓が3箱出土した。

まとめ 乙石遺跡3次地点は、都地遺跡や都地泉水遺跡と同様古墳時代後期から集落が認められるが、古代には製鉄遺跡と小規模集落、および都地遺跡6次地点と関係する大形掘立柱建物が主体となる。掘立柱建物、製鉄遺構の廃絶後は小規模な埋葬地として利用されたと考えられる。同様な墓地遺構は北接する都地6次地点でも見られる。

調査報告書は19年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(93 都地 0420 1:8000)



2. 調査区全景



3. 鋼冶炉断面

0601 博多遺跡群第160次調査(HKT-160)

所在地 博多区網場町144,145

調査面積 134.1m²

調査原因 共同住宅建築

担当者 赤坂亨

調査期間 2006.4.3~7.4

処置 記録保存

位置と環境 博多遺跡群の砂丘のうちの最も海側の砂丘列である「息浜」の南側に位置し、博多浜と息浜の間の入り江に向かって南へ緩やかに傾斜している地点である。この街区での調査事例はないが、南方約50mの銀行建設時の試掘調査では16世紀の陶磁器一括埋納が確認されている。また南方70mの第91次調査では15世紀以降の遺物・遺構が確認されている。



1. 調査地点の位置(48千代博多 0121 1:8000)

検出遺構 本調査地点では土層と遺構の検出状況から、第1~4面までの遺構面を設定した。北半第1面では石敷遺構と土坑を検出した。第2面では石敷遺構を検出した。家の基礎と思われる。第3面では井戸・土坑・ピットを、第4面では土坑・ピットを検出した。第1面の時期は不明。第2・3・4面からは龍泉窯系青磁の出土が少なく白磁を中心であることから11~12世紀であろう。第4面下の黒褐色砂質土中からは瓦器片が多く出土した。南半では第2面で土坑とピット、第3面でピットと石列を確認した。第3面の石列以南は主に上の面から掘り込まれたピットがまばらに確認されるのみであり、この石列が遺構の南限となる可能性がある。



2. 石敷遺構（南から）

出土遺物 遺物は土器・陶磁器などがパンケース95箱分出土した。



3. 北半第三面全景（南から）

まとめ 第4面下の黒褐色砂質土は北側で標高1.7m、南側標高1.0mを測り、南側にむかって傾斜していることが確認された。本調査地点の中世以前の地形は息浜と博多浜の間の入り江にむかって下る、息浜南側へりの傾斜地であったといえる。11~12世紀以降水平に整地し、以後集落として近世に至るまで利用されていたようである。

調査報告書は平成19年度に刊行予定である。

0602 那珂遺跡第112次調査(NAK-112)

所在地 博多区東光寺2丁目89番地 調査面積 415m²
 調査原因 共同住宅建設 担当者 大塚紀宜・加藤隆也
 調査期間 2006.4.3~5.26 処置 記録保存

位置と環境 那珂遺跡群は、福岡平野を流れる那珂川と御笠川に挟まれた台地上に位置し、今回の調査地点はその東端にあたる。東側隣接地は109次調査地点であり、弥生時代後期を主体とする集落遺構が確認されている。その更に10m東側には、御笠川が北流しており、現在の川岸際まで遺構は遺存している。

検出遺構 遺構の密度は高く、各遺構が切り合う状態であった。しかし、遺構自体の残存は後世の削平により総じて良くなかった。主な遺構は、弥生時代後期後葉から古墳時代初頭にかけての竪穴住居、掘立柱建物、井戸、土坑、柱穴などの集落遺構であった。うち1基の竪穴住居は長辺が7.5mを測る大型のものであった。また、同時期の方形周溝状遺構や、7世紀末から8世紀初頭にかけての小型竪穴住居なども検出した。

出土遺物 弥生時代土器から中世陶磁器(細片)までの遺物が出土した。総量はコンテナ10箱である。竪穴住居からは、ガラス小玉や二条空突をもつ鋳造鉄斧などが見つかった。また、1基の方形周溝状遺構からは壺、甕など多くの遺物が出土している。

まとめ 今回の調査地点は那珂遺跡群の東端ではあったが、多くの遺構を検出した。特に大型のものを含む弥生時代後期後葉から古墳時代初頭にかけての竪穴式住居群は、その配置方位に統一性がみられ、當時集落の形成において一定の計画性があった可能性が考えられる。弥生時代の都市景観を復原する上で、貴重な情報を得ることができた。なお、今回の調査途中、人事異動により調査担当者の交替があった。表土剥ぎと一部掘削を大塚がおこない、その後加藤が担当した。

報告書は平成19年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(23 鶴居 0085 1:8000)



2. 調査区北側全景(南東から)



3. 竪穴住居検出状況(東から)

0603 弥永原遺跡群第9次調査(YNB-9)

所在地 南区曰佐3丁目107、112-1の一部
 調査原因 共同住宅建設
 調査期間 2006.4.3~4.28

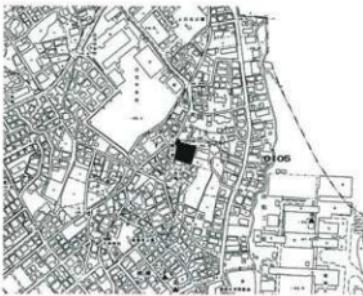
調査面積 339m²
 担当者 藏富士 寛
 処置 記録保存

位置と環境 弥永原遺跡は福岡平野の南側に位置し、平野を流れる御笠川と那珂川に挟まれた洪積台地上に存在する。当調査地点は遺跡の西側に相当し、標高23m前後を測る。

検出遺構 遺構は厚さ20~30cm程の表土直下の暗赤褐色ローム上で検出した。その内容は、竪穴住居3、土壙墓1、ピット群である。竪穴住居はいずれも地山削り出しによるベッド状の高床部分を有している。1軒のみ完掘しており、その住居は4×3.4mの略方形プランを呈する。いずれの住居も弥生時代後期～終末に位置づけることができる。土壙墓は長さ1.7m、幅0.4mを測る狭長なもので、深さは20~30cmほど。底面にはベンガラを敷き詰めていた。埋土中よりごくわずかの遺物が出土したのみで、土壙墓に伴う遺物は存在しなかった。形態をみれば、住居群と同じく、弥生時代後期～終末に位置づけることができようか。ピットは数多く検出しているが、その配列には有意性をみるとことはできなかった。しっかりとした深さが残り、平面方形を呈するものも多い。出土した遺物はわずかで、時期の詳細は不明である。

出土遺物 ごく少なく、コンテナ5箱に過ぎない。その多くが弥生土器である。

まとめ 今回の調査では、弥生時代後期～終末にかけての遺構を検出することができた。当調査地点の南側で行われている1~5次調査における調査所見も含め、当該期における集落の広がり、そして内容の把握が今後の課題といえるだろう。なお、報告書は2007年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(29 上曰佐 105 1:8000)



2. 調査区北側(西から)



3. 調査区南側(西から)

0604 原遺跡群第23次調査(HAA-23)

所在 地 早良区原5丁目8番14 調査面積 103m²
 調査原因 個人専用住宅建設 担当者 久住 猛雄
 調査期間 2006.4.3~5.2 処置 記録保存

1. 調査に至る経緯

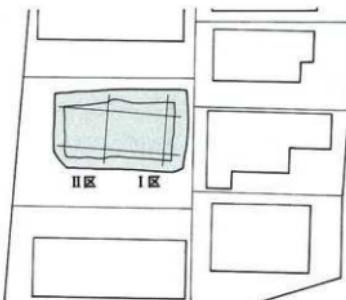
平成18（2006）年2月7日付で中島みゆき氏より、福岡市教育委員会埋蔵文化財課に対し、早良区原5丁目地内の個人専用住宅建設に関する埋蔵文化財の事前審査申請（工事届出）が提出された（審査番号17-2-1064）。申請地は周知の埋蔵文化財包蔵地である原遺跡群に含まれており、同年度に先に中島常男氏より提出された事前審査申請（17-2-494）に基づいて平成17（2005）年8月19日に行われた試掘調査により、遺構の存在が確認されていた地点であった。新たな工事届出は埋蔵文化財に影響を及ぼす内容であったため、事業関係者と協議を行い、埋蔵文化財の記録保存のための発掘調査の実施について、中島常男氏を委託者とする事前協議確認書を平成19年3月31日に締結した。調査は同年4月3日より行った。なお調査費用については、工事原因により国庫補助金を適用した。

2. 位置と環境

原遺跡群は早良平野の北側中央部に位置し、金屑川下流右岸の標高6~7mの低位段丘上に立地する。調査地点は原遺跡群の北西部に位置し、現状の標高は4.9~5.2mを測り、敷地東側が少し高い。付近は近年まで水田であり、現状地形は埋め立てられたものである。なお周辺では、一区画挟んだ東側にある原市営住宅の建替工事に際し10次調査が行われ（8814）、弥生時代中期および中世（12~13世紀）の遺構と遺物が検出されている。



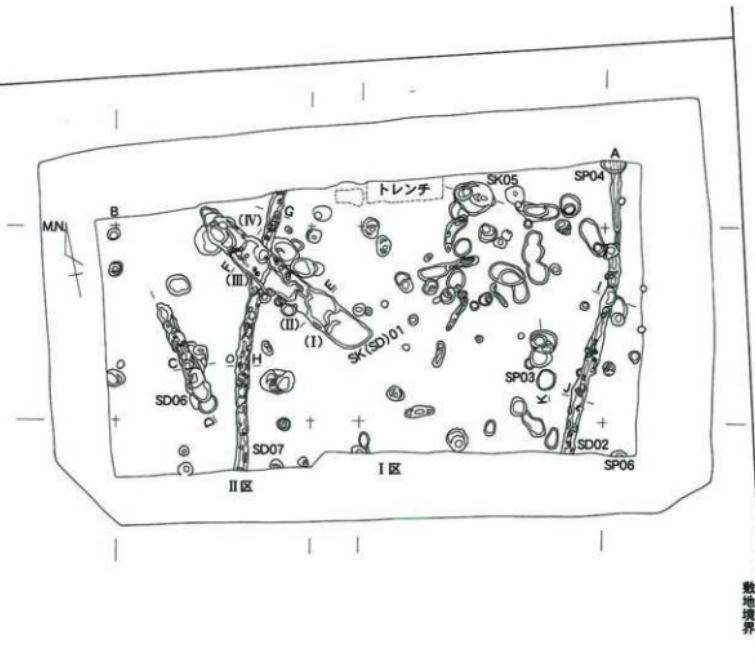
1. 調査地点の位置 (82 原 0311 1:8000)



2. 調査区位置図 (1:500)

3. 検出遺構

遺構検出面は、近年の盛土と旧水田土を除去した下部にある砂礫が混じり（明）黄褐色粘質土地山上面である（「6. 土層図・断面図」上）。検出面の標高は4.2~4.3mでありほぼ平坦である。調査は廃土処理の都合上、2区に分割して反転して行い、東をⅠ区、西をⅡ区とした。遺構の遺存は良好ではなく、削平が顕著である。溝状遺構3と土坑（溝状）1、柱穴を検出した（図6）。SD02とSD07は溝底付近のみが遺存した小溝であり、芯々約8mの間隔でほぼ同一方向に走行する。いずれも若干蛇行している。



3. 調査区全体図 (1:100)



4. I 区全景 (西から)



5. II区全景 (東から)

SK01 (SD01) もきわめて浅い深度の4.4m長×幅0.6mの溝であり、SD07を切る。SD06は2.0m長×幅0.3mの小溝であるが、断面観察からは柱ないし堀を伴う布堀溝の一部の可能性がある（各遺構断面図などは「6. 土層図・断面図」に示した）。柱穴は明確に建物として復元できるものは無く、いずれも浅く柱穴と確實に言

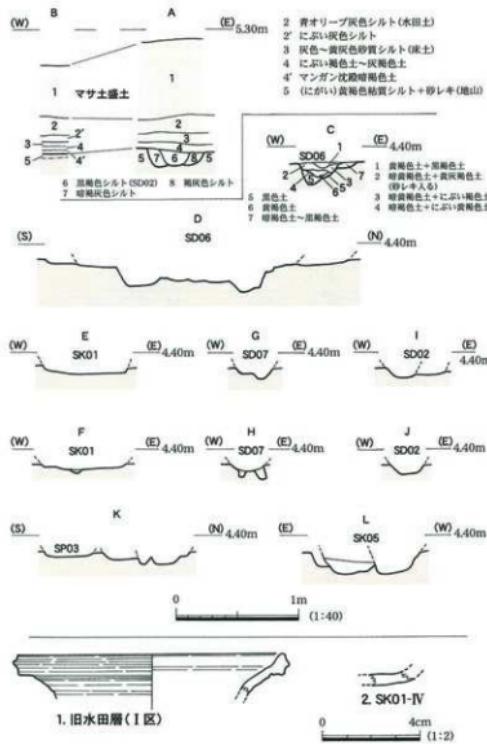
えるものは少ないが、削平が顕著であり、柱穴の最底面のみの残存が含まれるか。なお検出した小穴には人為的遺構ではない植物生痕などもある。各遺構の覆土は黒褐色～暗褐色土または淡灰褐色土であり、遺構の時期幅も考えられる。

4. 出土遺物

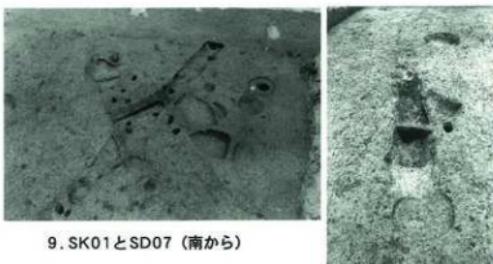
総量でパンケース1箱以内(6点)である。弥生土器、古墳時代後期の須恵器、古代～中世の土師器がある。土器片はいずれも小片(細片)である。SK01、SD06、SP03、SP06に弥生土器の小(細)片があるが図化できない。SK01からは古代～中世の土師器の細片が出土した。図8-1は土師器の壺の底部片である。ヘラ切りの痕跡が残る。橙色を呈し、胎土精良。12世紀前半以前。また検出面上の旧水田層出土だが(遺構に伴わない)、須恵器の小型壺(甕)の口縁部破片がある(図8-2)。1/12周からの復元で径は前後する。器表面は暗青灰色、器壁は灰色。6世紀後半前の型式か。

5.まとめ

30m東側の10次調査では中世を主とする遺構群が検出されており、本調査でも遺構の広がりが予想されていたが、結果として遺構の検出は少なかった。削平が顕著であることもあるが、遺物も少なく、段丘縁辺部であり、集落縁辺で本来の遺構密度も少なかったのである。各溝状遺構の性格は、灌漑水路や区画溝等が考えられるが、今回の調査では特定できなかった。ただしSD06は若干異なるものの、形状が10次調査の溝状土坑SX01(弥生中期)に類似する。SD02とSD07は並行するとすれば道路側溝の可能性もある。時期は不明だが、SD07は古代～中世と考えられるSK01に切られ、直接伴わないが、須恵器小片の時期が参考になる。各溝の性格については今後の周辺調査により明らかにされるだろう。



7. 土層図・断面図(1:40)(上), 8. 出土物(1:2)(下)



9. SK01とSD07(南から)

10. SD06(南から)

0605 戸切遺跡群第2次調査(TGR-2)

所在地 西区戸切戸切3丁目18番 調査面積 592.5m²
 調査原因 市営住宅建て替え 担当者 加藤良彦
 調査期間 2006.4.6~5.13 処置 記録保存

位置と環境 遺跡は福岡市西部に位置する早良平野の中央部、室見川下流左岸の沖積高地上に立地し、調査区は遺跡群の中央東寄りに位置する。地表下約1mの構造物の標高は11.5mである。構造は耕作土および暗褐色混粗砂土包含層下の明黄褐色～淡黃緑色のシルト～混土粗砂砾の上面で検出される。

検出遺構 遺構は、6世紀前半を中心に5～7世紀にかけての古墳時代後期の土坑9基、溝12条、掘立柱建物5棟ほか柱穴多数である。

出土遺物 遺物は、遺構・包含層より古墳時代後期須恵器・土師器を中心に縄文時代晩期土器・石器を若干含めコンテナ1箱分検出している。

まとめ 遺構は調査区東西両側にまとまり、中央に幅5m程の低地が広がる。溝は幅1m弱の小溝で、磁北に近いものが多く、掘立柱建物5棟のうち3棟はこれに沿う。遺跡は古代平群郷の比定地であり、関連が示唆される。

壱岐南小学校の建設に先立つ第1次調査でも古墳時代～歴史時代の集落が確認されており、西の野方や羽根戸の山中に多く残る古墳群と一緒にの集落が広く分布している。

調査報告書は2007度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (72戸切 0402 1:8000)



2. 調査遠景 (南から)



3. 調査区東半部全景 (西から)

0606 三宅B 遺跡第1次調査(MYB-1)

所在地 南区三宅2丁目745-11外 調査面積 448m²
 調査原因 共同住宅建設 担当者 吉武 学
 調査期間 2006.4.10~6.1 処置 記録保存

位置と環境

三宅B遺跡は那珂川西岸の沖積地上に立地し、調査地点は三宅B遺跡の北端付近に位置する。すぐ東側を那珂川の支流である老司川が北に流れれる。東西に2分割して調査を行った。地表面の標高は11m強で、遺構面は緩く東に下る。

基盤土は砂～粘質土からなる沖積層で、この直上を黒色粘質土が約30cmの厚さに覆い、さらに60cmほど盛土されて宅地となっている。遺構は黒色粘質土の上下2面で確認できるが、削平により粘質土の残りは悪く、また調査期間の制約もあったため、粘質土の下面まで重機で剥ぎ取り、1面のみで遺構検出を行った。

検出遺構

遺構は調査区の南側に集中しており、全て16世紀頃のものと思われる。主な遺構は、南側に方形に回り込む溝2条、この溝に沿って配置された地下式土壙と思われる遺構4基、土坑3基である。以上の中世遺構以外に、近世の土坑、近代の穴倉もしくは防空壕があり、その他は生痕と思われる小ピットや浅い窪みなどで、柱穴は認められなかった。

出土遺物

出土遺物は極めて少なく、輸入陶磁器などコンテナ2箱分である。また、中世遺構に混入して、黒曜石片、三宅庵寺出土瓦と類似した叩き目のある平瓦片なども出土した。

まとめ

南側に方形に回り込む溝は、14～15世紀の居館の外周を囲む区画溝の可能性があるが、溝の北側に何らの遺構も認められないことから、その中心部は調査区の南外に存在するものと考えられる。北隣の大橋E遺跡などでも類似遺構が確認されており、一帯に中世後期の豪族居館に関する遺構が広く展開しているものと予想されるが、その実態解明については今後の課題といえよう。

報告書は平成19年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(39 三宅 0139 1 : 8000)



2. 東側調査区全景(西から)



3. 西側調査区作業風景(東から)

0607 飯倉F遺跡第4次調査(IKF-4)

所在地 城南区七隈6丁目307-1他 調査面積 1,862.9m²
 調査原因 公園建設 担当者 阿部泰之
 調査期間 2006.4.10~7.14 処置 記録保存

位置と環境 飯倉F遺跡は、福岡市南部に位置する油山から北に延びる丘陵上にある周知の埋蔵文化財包蔵地である。第4次調査区は、飯倉F遺跡が位置する丘陵の東面、七隈川によって形成された低位段丘上に位置する。

検出遺構 今回の調査で検出された遺構は、掘立柱建物5棟・ピット多数である。ピットの中には複数の弥生土器が上下に重なった状態で出土したもののがみられた。ピット出土土器の時期は弥生時代後期前半頃とみられ、掘立柱建物の時期もこれに近いか同時期と推測される。

出土遺物 今回の調査で出土した遺物はコンテナケース45箱にのぼる。包含層から須恵器・弥生土器・石製穂摘具・磨製石斧・ガラス化した炉壁・柱穴から弥生土器・自然地形ではあるが谷状の落ちから弥生土器・須恵器が出土した。

まとめ 今回の調査では、弥生時代の掘立柱建物・ピット・古代の遺物包含層を検出した。建物SB76は4間×4間の側柱建物で、柱間が狭くほぼ正方形の平面形を呈する特殊な形態の建物である。建物に近接して複数の弥生時代の土器が上下に重なった状態で出土したピットが検出されていること、七隈川の波打ち際に近い低位段丘上に立地することから、今回の調査で検出した4間×4間の側柱建物については何らかの祭祀に関わる「祭殿」としての機能が推定される。また遺物包含層出土遺物にはガラス化した炉壁が一定量含まれ、調査地の近辺、特に西側の丘陵上で製鉄がおこなわれていた可能性がある。

調査報告書は2007年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(74 七隈 0253 1:8000)



2. 第1区（南から）



3. 掘立柱建物SB76（西から）

0608 井相田C遺跡第7次調査(ISC-7)

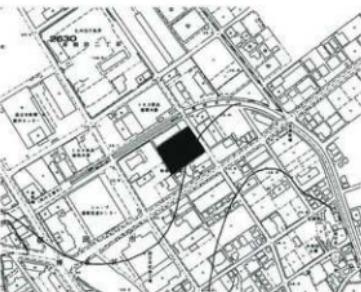
所在地 博多区井相田2丁目11番3 調査面積 438.9m²
 調査原因 共同住宅建設 担当者 屋山洋
 調査期間 2006.4.17~5.31 処置 調査後破壊

位置と環境 本調査区は御笠川の左岸に沿って伸びる低位段丘上に位置する。周辺には井相田遺跡群の他に麦野遺跡群や南八幡遺跡、板付遺跡などが分布し、麦野遺跡や南八幡遺跡、諸岡遺跡ではナイフ形石器、細石刃などの旧石器が出土している。また、弥生時代になると初期の水田や環濠集落が確認された板付遺跡を中心に遺構が激増する。古代には太宰府から博多を結ぶ官道が通ると共に高畠遺跡、三宅遺跡、井尻遺跡、麦野遺跡群、南八幡遺跡、板付遺跡などで瓦片が多く出土するようになる。

検出遺構と出土遺物 遺構は井戸1基、溝1条、土坑数基、柱穴状遺構多数を検出した。柱穴状遺構の時期は弥生時代末から古墳時代前期にかけてと古代末から中世にかけての2時期があり、大半は古代末から中世にかけてのものである。井戸からは全く遺物が出土していないが、周辺の状況から見ると、弥生時代後期の可能性が高いと思われる。溝の出土遺物も少なく、弥生時代終末の高坏片と鉢のみである。溝の北と南では遺構密度が異なるため集落を区画する溝と考えられるが、柱穴群の大半が古代末～中世と考えられるため、溝の時期もその可能性が高い。土坑は完形の土師器坏が出土したため土壙墓である可能性がある。その他には柱穴から繩文時代草創期の細石刃核が、また包含層からは瓦片が出土した。

まとめ 北東側100mに位置する5次調査では古墳時代前期と同後期の溝や古代の河川と集落が確認されており、古墳時代は水田、古代は集落縁辺と水田、中世には水田になったと推定されている。当調査区は弥生時代終末に小規模な集落がみられるが、その後古墳時代の遺物はなく、古代から中世にかけて、集落が続くものと思われる。

調査報告書は19年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(12 麦野 2630 1:8000)



2. 調査区全景(西から)



3. SD0078遺物出土状況(西から)

0609 クエゾノ遺跡第2次調査(KEZ-2)

所在地 城南区梅林5丁目48-12 調査面積 152.1m²
 調査原因 個人住宅建設 担当者 木下博文
 調査期間 2006.4.17~5.2 処置 記録保存

位置と環境 クエゾノ遺跡は、油山から派生する標高22~40mの丘陵上に位置する。梅林古墳、梅林八幡宮古墳、クエゾノ古墳群など5世紀中頃以降の古墳が分布し、付近一帯は埋葬地であったことがうかがえる。特にクエゾノ古墳群は、平成4(1992)年にクエゾノ遺跡第1次調査として古墳5基が調査されている。その際1号墳の西斜面で箱形製鉄炉1基が検出されており、その年代は7世紀~平安初期とみられている。以上のように古墳時代の埋葬地、古代の鉄生産地としての性格を持つが、それらの広がりやそれらに関わった人々の居住地は未だ明確にはなっていない。

今回の調査地点は、梅林古墳を含む飯倉H遺跡がある丘陵の西裾に接し、梅林八幡宮古墳の北西150m、西側の野芥方面に向かって下がっていく地形の変換点にあたる。福岡市遺跡分布地図では遺跡の北東端を限る線が引かれており、遺跡の範囲を確認する上でも大切な調査となる。

検出遺構 古墳時代後期~終末期の竪穴住居1棟、奈良時代とみられる溝1条、溝に切られる掘立柱建物1棟、土坑1基、小ピット群を検出した。

出土遺物 表土剥ぎ時に中世の中国製白磁碗、竪穴住居の覆土から古墳時代後期及び終末期の須恵器蓋杯の杯身、土師器、石製紡錘車、黒曜石小片、溝から奈良時代と見られる高台付須恵器杯身、鉄滓が出土している

まとめ 今回クエゾノ遺跡では初例となる古墳時代後期~終末期の竪穴住居、奈良時代とみられる溝に切られる掘立柱建物という居住遺構を確認できた。調査面積が狭く点的ではあるが、これまで遺跡の端部とみられていた所に集落域がある可能性が出てきた。また鉄滓を伴う溝の存在は、第1次調査で確認された箱形製鉄炉とともに併存して付近一帯に古代の製鉄遺構が広がる可能性も伺わせる。



1. 調査地点の位置(83 野芥 0269 1:8000)



2. 調査区全景（南から）



3. SB04（東から）

0610 五十川遺跡第15次調査(GJK-15)

所在地 南区五十川2丁目277番5外 調査面積 56m²

調査原因 消防団車庫建設 担当者 荒牧 宏行

調査期間 2006.4.24~5.31 処置 記録保存

位置と環境 烏栖ロームからなる洪積台地に立地する。ロームの標高は10.5mでわずかに北側へ傾斜している。東側隣接地は御供所・井尻線の道路建設予定地で発掘調査が行われた。西側隣接地は削平され段落ちしている。

検出遺構と出土遺物 主な遺構として弥生時代と思われる竪穴住居跡1軒以上、土坑2基、中世末と思われる溝4条、この溝に切られた中世墓とみられる土坑1基が検出された。

出土遺物は総量にしてコンテナ5箱分が出土した。

まとめ 東側隣接地の調査成果によると周辺には貯蔵穴や甕棺等が検出されているが、今回検出された土坑は一部であるために性格は不明。また、中世末の溝の延長は途切れ陸橋となることから館の濠となる可能性がある。中世墓には土師壺1、土師皿4が副葬されていた。

周辺の洪積台上には弥生時代を中心とした集落遺構が展開しているとみられる。

中世末の溝は同様の遺構が東側道路建設予定地の各所から検出されていることから中世末の館跡が点在している可能性があり注目される。

古文書からは天文22年(1553)頃に大内氏の家臣弘中氏が押領された土地の代替地として五十講之村(現在の五十川)25町・下長尾村30町が大内氏から宛われたという。

報告書は平成19年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置(24 板付 0088 1:8000)



2. 調査区全景(北から)



3. 中世墓SK14(北から)

0611 元岡・桑原遺跡群第49次調査(MOT-49)

所在地 西区大字桑原字金糞

調査面積 2,723m²

調査原因 大学移転予定地造成

担当者 池田祐司

調査期間 2006.4.1~2007.3.22

処置 記録保存

位置と環境 北西に開く谷の南側緩斜面に位置し、標高9m前後を測る。水田、養豚場等の造成により削平を受ける。花崗岩風化土の2次堆積土上に部分的に黒褐色土、橙茶色土、灰褐色土が堆積し、多い箇所では3面の調査を行った。

検出遺構と出土遺物 繩文時代から中世の遺構、遺物を検出した。繩文時代では不整土坑、包含層から早期の無文土器、石鏃、黒曜石碎片が少量出土した。弥生時代は包含層中より中期後半の土器少量と石斧が出土した。遺構は確認していない。

古墳時代は6世紀後半を主とする竪穴式住居跡8棟、これに切られる掘立柱建物を検出した。竪穴式住居跡は平面方形、4本柱で北側に竈を持ち、壁際には溝が巡る。須恵器、土師器が出土した。また、大刀、鎌先、矛等が近接して出土した箇所があり、祭祀関連の遺物と考えてる。

古代は遺構、遺物の大半を占める。7世紀から8世紀の遺物包含層を確認し、掘立柱建物、溝、鍛冶炉等を検出した。遺構の密度が高い。須恵器、土師器、鉄滓が出土している。掘立柱建物は2間×2間の総柱建物が3棟、その他1間×1間、2間×1間、2間×3間等24棟を確認している。中世は土坑1基のみで遺物も少ないが、土師皿、白磁碗が出土している。

まとめ 主に6世紀後半から8世紀を主体とする遺構、遺物を確認した。6世紀代までは主として竪穴式住居が営まれ、居住城として使用されていたものと考えられる。8世紀代を中心とする掘立柱建物は、大形のものや倉庫と考えられるものがあり、公的施設の性格が伺われる。遺構の時代と種類は、木簡が多く出土した20次調査区と類似しているが、墨書き土器、石帶等の官衙で良く出土する遺物は確認できていない。23次調査で検出した製鉄施設との関連も考えられる。



1. 調査地点の位置(129 桑原西部2782 1:8000)



2. 1区全景(北から)



3. SC021(南東から)

0612 博多遺跡群第162次調査(HKT-162)

所在地 博多区冷泉町422番

調査面積 190.7m²

調査原因 共同住宅建設

担当者 蔵富士 寛

調査期間 2006.5.1~6.21

処置 記録保存

位置と環境

博多遺跡群は福岡平野を流れる那珂川、御笠川に挟まれた砂丘上に位置する。調査地点は内陸側の砂丘、いわゆる「博多演」のほぼ中央部に位置し、調査区の東側では10・148・44次の各調査が行われている。

検出遺構

中・近世段階に相当する井戸、土坑を多数検出した。遺構は調査区全体に濃密に広がっている。中でも11~12世紀後半、13世紀に位置づけられるものが主体をしめる。また、古墳時代前期の喪棺墓も1基検出している。

出土遺物

輸入陶磁器、国産陶磁器、土師器、須恵器などコンテナ77箱分が出土した。輸入陶磁器では白磁が主体を占める。また、土師椀・皿の出土が比較的少ない。

まとめ

今回の調査では主として、古代末~中世前半期における遺構を検出できた。また、古墳時代前期の喪棺を検出したことは大きな成果であるといえるだろう。

なお、報告書は2006年度すでに刊行している。



1. 調査地点の位置(49 天神 0121 1:8000)



2. 調査区全景(南西から)



3. SK021(北東から)

0613 井尻B遺跡群第25次調査(IGB-25)

所在地 南区井尻1丁目754番2 調査面積 80m²
 調査原因 個人専用住宅建設 担当者 久住 猛雄
 調査期間 2006.5.15~5.31 処置 記録保存

位置と環境 井尻B遺跡群は、諸岡川と那珂川に挟まれた段丘上に立地する南北900m×東西400mの広がりを有する遺跡である。調査地点は井尻B遺跡群の北端、段丘の北縁近くに位置し、周囲の標高は12.6~12.9mを測る。

検出遺構 地表下50~60cmで橙褐色ローム層上面となり、主に黒褐色土覆土の遺構を検出した。調査範囲の約80%を遺構が占める濃密な遺構分布である。竪穴住居5(?)、土坑4以上、柱穴多數を検出し、竪穴住居の床面下部から小型(100cm×55cm)の木棺墓を検出した。柱穴の一部は掘立柱建物1棟が推定できる。

木棺墓は、土坑に小口板掘込みと土層に側板痕跡が明瞭に存在したことから推定した。竪穴住居群以前である。竪穴住居は重複が多く、掘り間違いも生じたが、小型長方形3棟→円形1棟→方形1棟の順で建替されたと判断した。弥生時代中期前半~中期末の住居群とみられるが、主柱2本の方形住居(ベッドなし)のみは後期に下る可能性がある。小型長方形住居の1つは炉址が伴うが、他は柱穴などの屋内施設が不明であり、住居ではない竪穴の可能性もある。その他、井戸の可能性がある土坑1基(弥生時代中期前半)がある。また柱穴には飛鳥時代末~奈良時代に下るもののが含まれる。

出土遺物 総量6箱である。大部分が弥生時代の土器であり、中期が多く、一部が後期である。また、古墳時代前期の土師器、飛鳥~奈良時代の須恵器も少數出土し、弥生時代の石器も出土した。

まとめ 主に弥生時代中期の集落の展開を確認した。須恵I式の土器が多く、近隣で同時期の甕棺墓地があり(16次、17次E区)、これらと関係する集落域であろう。遺跡群の最盛期である後期以降は遺構が少なく、集落縁辺となるか。

報告書は2008年度以降に刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (25 井尻 090 1:8000)



2. 調査区全景(西から)



3. 調査区全景(北西から)

0614 比恵遺跡群第105次調査(HIE-105)

所在地 博多区博多駅南5丁目145-2、145-3

調査面積 95.4m²

調査原因 共同住宅建設

担当者 榎本義嗣

調査期間 2006.5.22～6.10

処置 記録保存

位置と環境

比恵遺跡群は、福岡平野を北流する御笠川と那珂川に挟まれた洪積段丘上に展開する遺跡である。本調査地点は、島状に形成された同遺跡北西端の段丘上に立地し、地表下約1mの八女粘土層が遺構面となる。その標高は約4.5mを測り、周辺の地形から、更に西側で沖積層に移行するものと考えられる。

検出遺構

検出した主な遺構は、弥生時代の溝1条およびビットである。溝は、調査区を北西～南東に延伸し、幅約3m、深さ約0.7mを測る。断面形は逆台形状を呈し、底面や壁面は生痕による凹凸が著しい。上層からは弥生時代中期後半の精製土器を含む多量の土器が出土した。中層から下層にかけては出土遺物は少ないものの、弥生時代前中期から中期初頭の土器が出土している。掘削から埋没にかけての時期を示すものと考えられる。

溝以外の遺構としては、円形状のビットを多数検出した。浅いシミ状のものも多いが、いくつかは掘り方が明瞭で、柱穴と考えられるものの、調査区が狭小なことから建物としてまとめることはできなかった。なお、その一部からは、弥生時代後期前半の土器が出土している。

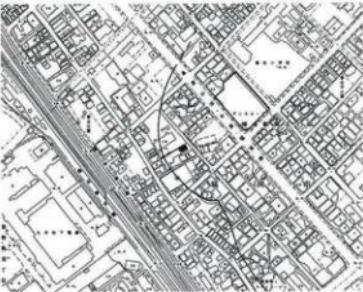
出土遺物

出土遺物量はコンテナケース26箱で、大半は溝からの出土である。弥生土器の他、石庖丁や大型始刃石斧、石剣、投弾、炭化した板材等が出土している。

まとめ

今回検出した溝は、周辺調査区で延長部分が確認されていないため、その機能や規模は明らかにはできないが、台地縁辺部を巡る環濠もしくは灌漑用水路と推定される。本調査区の位置する東側周辺では、弥生時代前期から中期前半の貯蔵穴が確認されており、該期の集落構成を考える上で貴重な資料となる。

調査報告書は2008年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(37 東光寺 0127 1:8000)



2. 調査区全景(北東から)



3. 溝完掘状況(北西から)

0615 福岡城跡第56次調査(FUE-56)

所在地 中央区内1-1・4

調査面積 100m²

調査原因 保存修理・復元整備

担当者 中村啓太郎

調査期間 2006.5.22～2007.3.23

位置 置工事後保存

位置と環境 福岡城跡北東に位置する上の橋大手門南側石垣は平成17年に発生した福岡県西方沖地震の影響で孕み出しが進行し、損壊の可能性が生じていたことから保存修理工事を行うこととした。また北西に位置する下の橋大手門の復元整備工事に先立ち、路面構造（瓦坂）の範囲確認を目的に調査をおこなった。

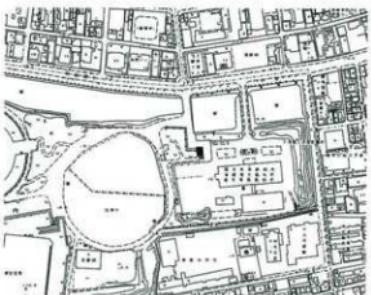
調査内容 上の橋大手門 工事に先立ち、調査は石垣天端面の構造検出から開始した。検出構造は瓦廃棄土坑、小穴等であるが、いずれも近代以降の所産と考えられる。天端面の調査後は前年度に行った第55次調査と同様の方法で調査及び解体作業を進めた。この途中で石垣内部から旧石垣が出土した。石垣は東西方向の南面部分で、現存する石垣の南北長1/2の位置より出土し、長さ3m、2段分を確認した。花崗岩の割石を東向きの斜面に乗せるように構築されていた。年代については伴う出土遺物がほとんど無いため決めがたいが、江戸時代中期以降か。出土旧石垣は調査後、積み直しに伴い埋め戻し保存を行った。積み直しも前回と同様の方法で行ったが、今回はいくつかの築石に損傷が認められたため、これらは新規石材に交換している。下の橋大手門 路面構造（瓦坂）の北、東西の際を確認した。南は搅乱、削平により不明。瓦坂は矢羽状に並べられており、数単位毎に花崗岩の角柱石によって仕切られている。

出土遺物 遺物は石垣天端を中心にコンテナケース約80箱の瓦、陶器、漆喰片等が出土した。

まとめ 上の橋大手門 現在の南側石垣は改修及び拡張されたものであり、以前は半分程度の規模であったことが確認された。

下の橋大手門 瓦坂の規模、構築方法があきらかになった。

調査報告書は2008年度以降に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(60舞鶴 0191 1:8000)



2. 上の橋大手門南側石垣全景(東から)



3. 路面構造(瓦坂)(南から)

0616 有田遺跡群第224次調査(ART-224)

所在地 早良区小田部5丁目47-1他 調査面積 98.5m²
 調査原因 個人住宅建築 担当者 今井 隆博
 調査期間 2006.5.26～6.22 処置 記録保存

位置と環境 有田遺跡群は早良平野の北側、室見川右岸の独立中位段丘上にある。この段丘は北側が八手状に広がる形状をしており、本調査地点はこの八手状の台地の西から2番目の台地中央部にあたる。

検出遺構 表土から10～50cm下の明褐色ローム上面で遺構を検出した。遺構面の標高は8.2～8.4m前後で、北側と東側に緩やかに下がる。検出した遺構は土坑2基とピットである。SK01は2.4×1.5mの隅丸長方形で、中軸線上には両端と中央やや南よりにピットが並ぶ。中央やや西寄りでわずかに焼土が確認された。壁の高さは最大で15cmほどで遺存は悪い。遺物は小片1点のみで、時期は不明である。SK02は隅丸長方形の一角が抉り取られたような形状で、長軸2.65m、短軸2.12mを測る。床面までの深さは約20cmである。中央部には窪みがあり、床面からさらに20cmの深さを測る。覆土は褐色土が主で、中央部の窪みは地山の明褐色土とよく似るが締まりがなくやわらかい。土師器・須恵器の小片が出土している。調査範囲内は近現代の擾乱が多いうえに削平が著しく、遺構の遺存は全体に悪い。

出土遺物 土師器・須恵器の小片と黒曜石片のみで、コンテナ1箱分である。

まとめ 本調査地点は舌状台地の中央付近に位置し、周辺では弥生時代から古墳時代の住居址や掘立柱建物が検出されている。このことから当該時期の集落が検出できることを期待したが、遺構密度はうすく、削平も著しかった。検出した遺構の時期は、出土遺物が僅少のため決定しがたいが、概ね古代と思われる。

調査報告書は2006年度に刊行済である。



1. 調査地点の位置(82 原 0309 1:8000)



2. 調査区南半全景（南から）



3. 調査区北半全景（南から）

0617 福岡城跡第57次(鴻臚館跡第24次)調査(FUE-57)

所在地 中央区内1

調査面積 820m²

調査原因 鴻臚館跡確認調査

調査担当 大庭 康時

調査期間 2006.4.1~2007.3.31

処置 埋め戻し保存

位置と環境

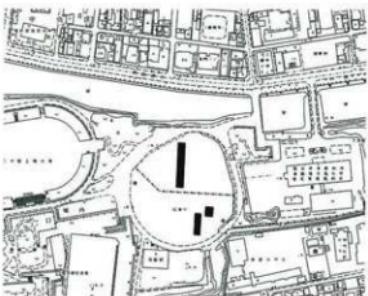
鴻臚館跡は、博多湾に面した丘陵突端に位置する。この丘陵は、近世には福岡城として黒田氏52万石の居城が置かれた。現在は舞鶴公園であるが、平和台球場跡地において、鴻臚館跡の確認調査を年次計画に基づいて実施している。これまでの発掘調査で、鴻臚館の施設は、自然地形の谷を堀として取り込み、堀を挟んで南と北にそれぞれ営まれたことが明らかになっている。平成18年度は、北館南斜面の一部と堀底の検出、北館北側すなわち博多湾に面した部分の確認調査を実施した。

検出遺構

鴻臚館の南館と北館を隔てる堀底の検出調査では、南館と北館を結んでかけられた橋の橋脚遺構から、柱根が出土した。直径33cm前後をはかる杉の丸木で、丁寧に面取りがなされていた。鴻臚館での柱木材の出土としては、初例となる。北館南斜面の調査では、8世紀前半の石垣遺構が出土した。平成14年度調査で確認した石垣遺構に続くもので、今回の出土で石垣の延長は80mを超えることが明らかになった。また、石垣が埋まっていた9世紀頃には、粘土を貼って法面を養生していたことが明らかになつた。傾斜角は30度前後で、登攀は困難である。なお、石垣基部の5mほど前面に、石垣と並行する石列が検出されたが、その機能は不明である。北館北側の発掘調査は、旧平和台球場北側に幅10m、長さ約70メートルの南北に伸びるトレンチを設定したものである。鴻臚館の海に面した景観・構造の解明を目的とする鴻臚館跡第V期調査の一目にあたる。近世福岡城三の丸武家屋敷の建物跡、鴻臚館時代の掘立柱建物跡、8世紀前半の布掘り掘立柱列などを検出した。布掘り掘立柱列は、鴻臚館第II期北館の北を画する塙と考えられる。また、布掘り掘立柱列の北側2mほどを境に、古代の整地面が急激に下降する様子がうかがわれた。トレンチ北端付近では、最下部から海浜の砂丘砂層が顔を覗かせており、鴻臚館の施設ぎりぎり間近まで海が迫っていたことが推測できる。

まとめ

平成18年度の発掘調査によって、鴻臚館北館の南と北の景観がかなり明らかとなってきた。特に北側は海に面し、砂浜から急に隆起した丘陵の上に鴻臚館の塙が伸びていたことがうかがわれる。平成19年度調査では、18年度に引き続いて鴻臚館海側の景観・構造を探る発掘調査を計画している。



1. 調査地点の位置(60 舞鶴 0192 1:8000)



2. 8世紀前半石垣遺構(南から)



3. 橋脚柱根(南西から)

0618 那珂遺跡第113次調査(NAK-113)

所在地 博多区那珂2丁目37番、38番 調査面積 372m²

調査原因 共同住宅建設 担当者 荒牧 宏行

調査期間 2006.6.5~8.1 処置 記録保存

位置と環境

調査地点は那珂遺跡が立地する洪積台地の東側縁辺に位置する。谷頭部分が検出され、埋没谷は東側へ広がっていくとみられる。地山は鳥栖ローム下部に相当し、標高6.8mを測る。上層は厚さ110~160cmの水田耕作土と現代の客土で整地されている。

検出遺構

検出された遺構は古代末までの土器を多く含む堆積層で埋没した谷と中世後半とみられる溝（堀か）1条、水路3条、古墳時代後期の総柱建物跡1棟、井戸1基、土坑1基である。

谷の堆積層は9世紀位までの遺物を含む上層の黒褐色粘質土と下層の黒色粘土に大きく分かれる。下層の黒色粘土の下部には弥生時代中期土器、上部には8世紀代までの遺物を多く含む。谷落ち際の北側と西側の台地部は水田造成により水平に削平され、遺構が著しく消滅している。

出土遺物

総量でコンテナ65箱分が出土した。谷落ち近くで検出された古墳時代後期の時期とみられる総柱建物跡には柱材が遺存していた。また、時期は不確定であるが、谷落ち際の井戸状の土坑からはシカの角や種子が出土した。

まとめ

調査区の遺構は近代以降の水田造成により著しく削平を受けたものとみられるが、埋没谷に含まれる遺物の時期から8、9世紀代にも弥生時代中期から古墳時代後期の遺構を削平する地形変化が行われたものと考えられる。一部であるが台地周縁の形状と土地利用の変遷が明らかになった。

報告書は平成19年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置(24板付 0085 1:8000)



2. 調査区西半全景（北東から）



3. 調査区東半全景（南東から）

0619 麦野A遺跡群第17次調査(MGA-17)

所在地 博多区麦野5丁目1-40外 調査面積 336m²
 調査原因 共同住宅建設 担当者 吉武 學
 調査期間 2006.6.1~6.21 処置 記録保存

位置と環境 麦野A遺跡群は那珂川と御笠川に挟まれた洪積丘陵上に立地しており、本調査地点はその南半部に位置する。南側隣地に第15次調査地点、東にやや離れて第7・10次地点が位置するが、特に第7次調査においてはN-55°-Eの方向の溝状造構と柱穴列、及び陸橋と門跡と見られる8世紀～9世紀の遺構を検出しており、これら一連の遺構は古代官衙に関連すると考えられる。

検出遺構 申請地のうち、2棟のビル建設により破壊を受ける部分のみを調査した。遺構面までの深さは約30cmで、標高は15.4m前後である。基盤土は明黄褐色の鳥栖ロームで、かなり削平を受けている。前建物の建設・解体による搅乱坑が多数あり、特に西側の大半は深さ1m以上の破壊が及んでいたため調査対象から除外した。検出遺構は、掘立柱建物1、井戸2、溝1、土坑3、ピット少數である。

掘立柱建物SB-001は3間×3間の側柱建物で、南北にやや長い。柱穴掘方は大きいもので1.0×0.8mを測り、深さは30cmで残りは悪い。全ての柱穴に径20cmほどの柱痕跡が認められた。南側は側柱のみが1間分伸びており、これには柱痕跡が認められない。柱穴からは遺物がほとんど出土せず時期の決め手に欠けるが、主軸方位がN-32°-Wで第7次調査の古代遺構にほぼ直交し、柱穴規模も近似するなど、同時期の遺構と考えてよい条件を備えている。この他、古代の遺構としては、調査区の北西隅で検出した井戸SE-010がある。円形プランで径1.05m、深さ2.4m、底面近くで少し壁面がえぐれている。

中世の溝SD-003は調査区中央で一部を確認した。最大幅2.5m、深さ1.0m。土坑SK-004・005は、ともに地下式壙とみられる大形の土坑で、溝の下層で検出した。その他の井戸・土坑は近世に下ると考えられる。



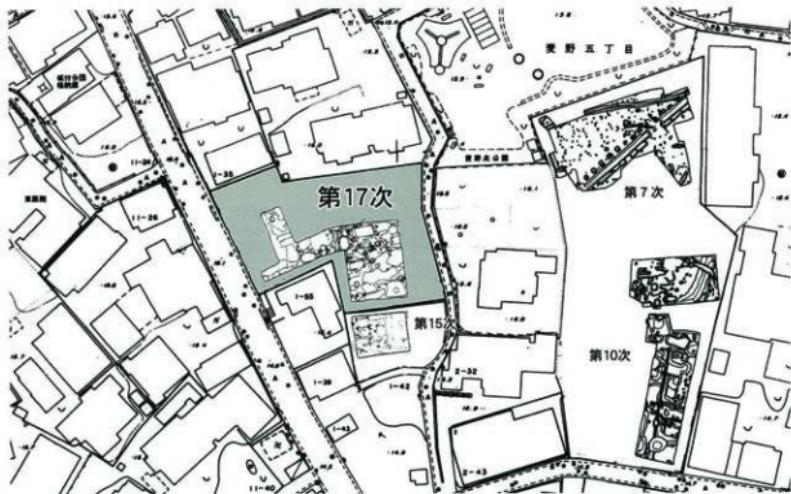
1. 調査地点の位置(12麦野0048 1:8000)



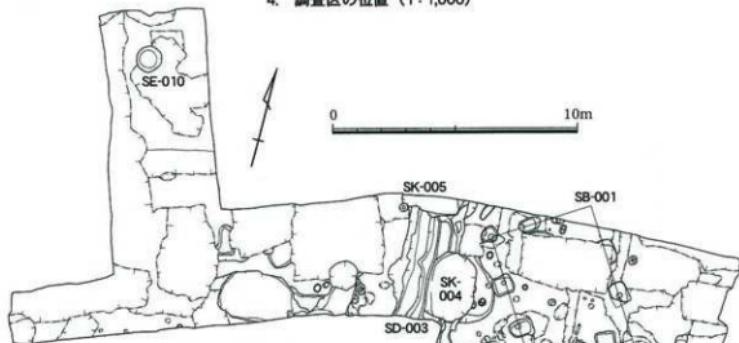
2. 東側調査区全景（北西から）



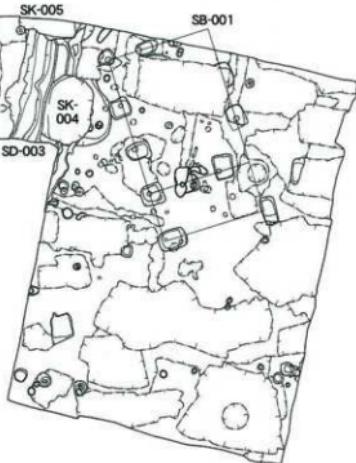
3. 西側調査区全景（北西から）



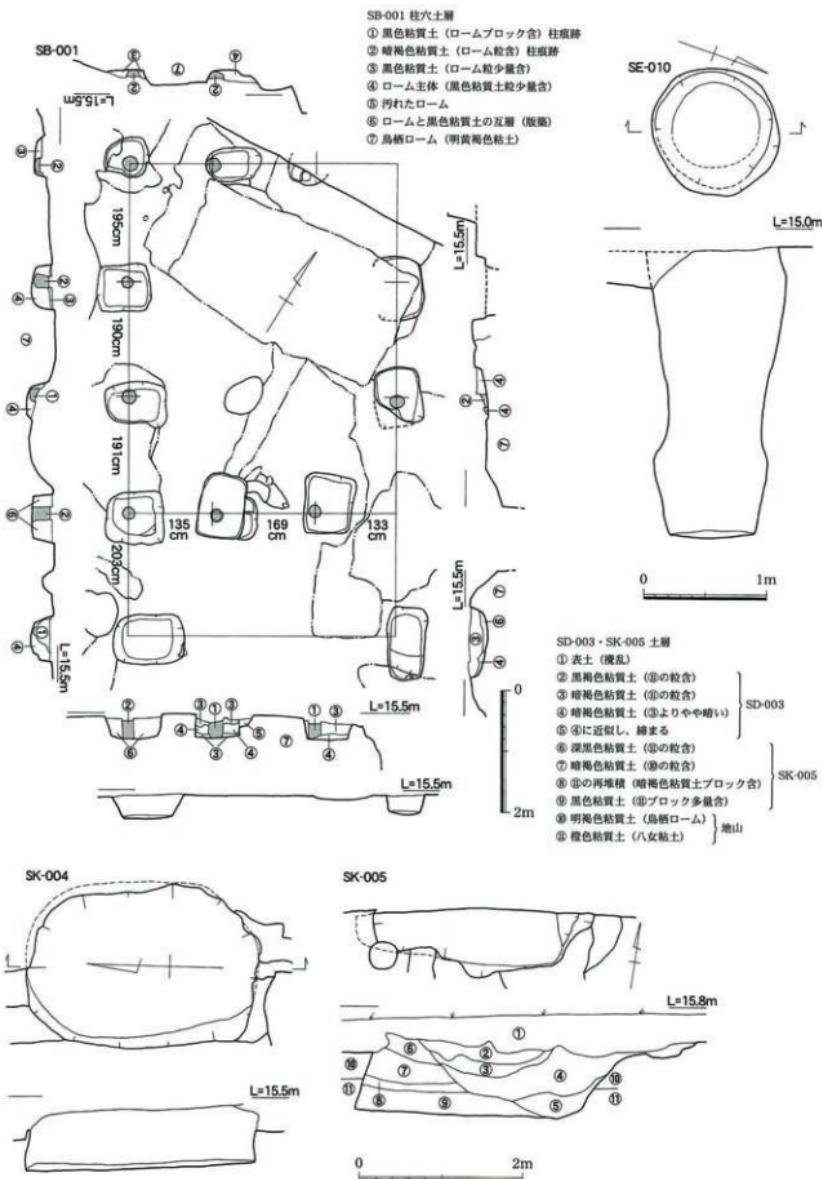
4. 調査区の位置 (1:1,000)



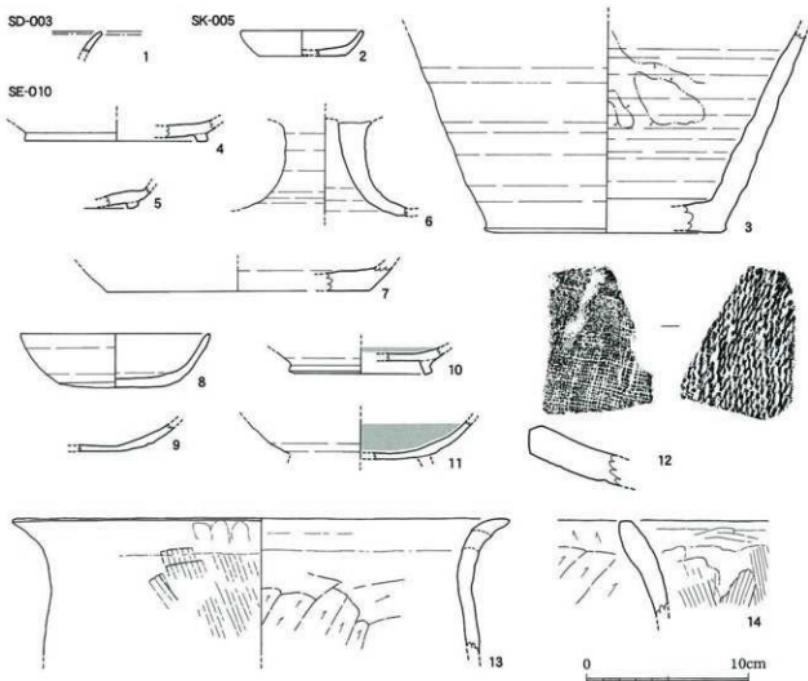
5. 堀立柱建物SB-001 (北西から)



6. 遺構の配置 (1:200)



7. 挖立柱建物 SB-001 (1:80)、井戸 SE-010 (1:40)、土壤 SK-004・005 (1:60)



8. 出土遺物 (1:3)

出土 遺 物 コンテナ 2 箱分が出土した。

1は口禿白磁碗の口縁部小片で、SD-003出土。2は土師器小皿で、底部糸切り。口径7.4cm。3は中国磁窯産の褐釉陶器壺。とともにSK-005出土。SD-003は13~14世紀前半頃、SK-004・005はそれ以前とみられる。

4・5は須恵器高台付き基で、底部と体部の境に断面四角形の高台が付く。6は須恵器高台の脚部。7は須恵器鉢か。8・9は土師器基で、底部ヘラ切り。10・11は黒色土器A類椀で、内面にミガキを施す。13は土師器甕で、内面ヘラ削り、外面粗ハケ目を施す。内面に煤が付着する。14は土師器甕またはカマドか。内面ヘラ削り、外面粗ハケ目を施す。12は平瓦で、凸面繩目叩き、凹面布目痕が残る。4~14はSE-010出土で、その他に馬齒が出土した。9c前半頃の井戸で、一連の官衙遺構と同時期である。

ま と め 今回の調査で確認した掘立柱建物は規模が大きく、第7次調査の古代遺構に関連する建物と考えられる。第7次調査検出の門跡を中心に、北側に方一町の方形区画を持つ施設を想定した場合、西側の推定線は今調査区の北東隅を通過すると予想されるが、溝等の区画を示す遺構は確認できなかった。今後も周辺調査を継続し、古代遺構の広がりと内容を把握することが課題といえよう。

0620 野芥遺跡群第15次調査(NKE-15)

所 在 地 早良区野芥1丁目862-8

調査面積 196.4m²

調査原因 専用住宅建設

担当者 木下博文

調査期間 2006.6.2~6.9

処置 記録保存

調査に至る経緯

平成18(2006)年3月13日付で西島孝義氏から専用住宅建設に伴う埋蔵文化財事前審査申請があった。遺跡包含地内であることから確認調査を同年4月11日に実施し、遺構の存在を確認した。掘削が遺構面に及ぶことから同年6月2日より発掘調査を実施した。

位置と環境

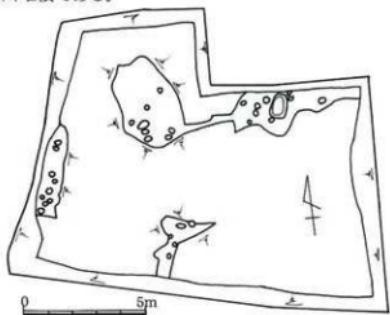
野芥遺跡群は早良平野内で、油山丘陵の西裾に位置する。今回の調査地点は遺跡群の北部中央、丘陵地から平野部へ下りた標高18m程の所である。調査地点の南側では12次調査で3面、上面で古代～中世、下面で弥生後期～古墳後期の遺構が検出されており、その広がりが想定された。東側を油山川が北流しており、河川堆積も想定された。

検出遺構と出土遺物

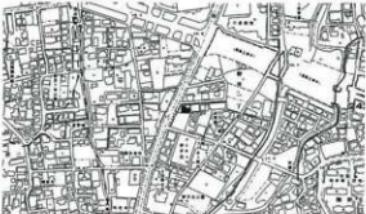
土坑1基、小穴10数基を検出した。土坑は長径1.0m、短径0.58mの楕円形で深さ0.25cm。小穴は大20cm程度、深さ10cm弱。遺物は出土していない。

まとめ

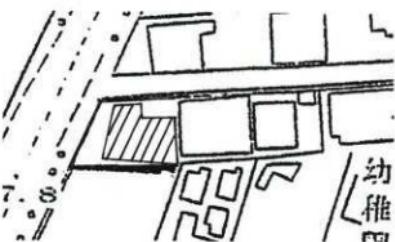
現地表面下60～70cm、暗茶褐色土層上面で、黒褐色土を埋土とする遺構を検出したが、遺物は全く出土せず、時代も確定できない。また調査面積の3分の2以上が現代の攪乱で、遺構面はわずかしか残されていなかった。現地表面下120cmより下は黄褐色粗砂層となっており、河川堆積である。



3. 調査区平面図 (S = 1/200)



1. 調査地点の位置(83 野芥 0319 1:8000)



2. 調査区位置図 (S = 1/1000)



4. 調査区全景(西から)



6. 土坑(北から)

0621 重留村下遺跡群第5次調査(SGM-5)

所在地 早良区重留6丁目650-2番 調査面積 200.1m²
 調査原因 共同住宅建設 担当者 加藤良彦
 調査期間 2006.6.5~7.5 処置 記録保存

位置と環境 調査区は早良平野の南東部、油山山塊から西に延びる沖積台地上に東西330m南北710mの範囲に広がる重留村下遺跡の中央西端に位置する。遺跡内では4次にわたって調査が実施され、弥生時代～中世の集落が検出されている。地表下約80cmの遺構検出面の標高は27.3mである。遺構は耕作土・客土および暗褐色混粗砂土包含層下の緑灰シルト～黒灰色混土粗砂礫の上面で検出される。

検出遺構 北・西・南の三方を古墳時代後期の腐植土が堆積する低湿地に囲まれ、南に幅5mの流路SD01がある。台地上では径6m程の古墳時代倒木痕を中心に、柱穴・古代～中世の焼土坑2基を検出した。

出土遺物 遺物は、流路SD01から、4～5世紀代の高坏・壇を中心とする土師器、舟形木製品・刀状木製品・横櫛などの木器、石杵・鍛冶津などを狭い範囲でありながらコンテナ4箱分検出した。

まとめ 流路SD01からは、多量の4～5世紀代の高坏・壇を中心とする土師器、舟形木製品、石杵など古墳時代集落の水辺での祭祀が執り行われた状態が見て取れる。また、出土した舟形木製品・刀状木製品・石杵は市域で10例に満たない貴重な資料である。

調査報告書は2007度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(84 重留 0324 1:8000)



2. 調査区全景(北西から)



3. 舟形木製品出土状況(北から)

0622 比恵遺跡第106次調査(HIE-106)

所在地 博多区山王1丁目165-1 調査面積 192m²
 調査原因 共同住宅建設 担当者 屋山洋
 調査期間 2006.6.12~8.11 処置 調査後破壊

位置と環境 比恵遺跡は福岡市のほぼ中央を御笠川の左岸に沿いながら博多湾に向かってのびる低丘陵上に位置する。この丘陵は奴国を中心とする春日市を通り、また福岡市側では初期の環濠集落や水田が発見された板付遺跡など福岡市内近辺でも最も遺跡が集中する地域である。また、弥生時代ばかりでなく、古代においては大宰府から博多方に官道が通るなど古代においても重要な地域であったものと考えられる。



1. 調査地点の位置(37 東光寺 0127 1:8000)



2. 調査Ⅰ区全景(北東から)



3. 小児棺(北から)

検出遺構 本調査では柱穴状遺構多数、小児棺1基と溝、土坑数基を確認した。柱穴状遺構は弥生時代中期と同後期末の二時期と思われる。小児棺は2個の広口壺の口縁を打ち欠いて、合わせ蓋として使用している。時期は弥生時代中期後半である。溝は東西方向に延びており幅6m、深さ1.2mを測る。時期は古墳時代前期である。溝は最下層が白色粘質土、下層が細かなシルト、中層に薄く粗砂層、上層は黒色土ブロックを多く含む暗褐色土である。

出土遺物 ローム直上の黒褐色包含層からは弥生時代中期中頃を主とする時期の遺物が出土し、同後期と古墳時代初頭の土器も少量含まれる。また弥生時代中期から同後期にかけての甕棺片が出土しており、周囲に甕棺墓群が存在したものと思われる。

まとめ 調査区は比恵遺跡がのる丘陵の北端部に位置する。ローム上面は北に向かって緩やかに傾斜するが弥生時代中期の包含層が残っていることから地形は当時から変わっていないものと思われる。調査区内では弥生時代中期中頃の土器が出土するが、同後期前～中頃の遺物は少なく、同終末から古墳時代前期になるとまた遺物の量が増える。中央に走る溝は古墳時代前期には埋没し、その後の遺物はほとんど出土しない。

調査報告書は19年度に刊行予定である。

0623 博多遺跡群第163次調査(HKT-163)

所在地 博多区中呉服町83

調査面積 197.6m²(×4面)

調査原因 共同住宅建設

担当者 榎本義嗣

調査期間 2006.6.12~9.8

処置 記録保存

位置と環境

博多遺跡群は、福岡平野を北流する御笠川と那珂川に挟まれた古砂丘上に展開する遺跡である。本調査地点は、「息の浜」と呼ばれる最も海側に位置する砂丘の陸側南東緩斜面に位置している。

検出遺構

計4面の調査を実施した。第1面は標高約2.8mを測る灰褐色粘性砂質土上面に設定した江戸期の遺構面で、瓦組の井戸等を確認したが、遺構密度は薄く、東半部のみ調査を行った。

続く第2面は、標高約2.2mの暗褐色砂質土上面に設定し、15~16世紀を主体とする土坑や溝、柱穴を検出した。溝には方形区画を呈するものがあるが、全体の規模は不明である。

第3面の調査は暗灰褐色砂質土、茶褐色粘性土および暗黄褐色砂質土を細かく互層に積み重ねた厚さ約0.2mの整地層上面で行った。その標高は約1.7mを測り、13世紀後半~14世紀代の井戸や土坑・柱穴を確認した。

最終調査面である第4面の調査は標高約1.5mを測る基盤の黄褐色砂丘層上面で実施した。12世紀後半から13世紀前半の遺構を検出した。井戸や溝の他、多数の柱穴が確認できた。砂丘面は陸側に向かって緩く傾斜している。

出土遺物

出土遺物量はコンテナケース75箱で、各遺構や包含層から国産の土師器や陶磁器、中国・朝鮮からの輸入陶磁器、銅錢や鉄製工具等の金属製品の他、滑石製品や獸骨等も出土した。

まとめ

今回の調査地点は、息の浜砂丘の付け根部分に近接し、周辺調査区同様に平安時代末期の12世紀後半に生活が開始されたことが確認できた。なお、南東側調査区の基盤が河川性の堆積であるのに対し、本地点の大半は砂丘砂であった。下での遺構密度の濃さは、安定した砂丘基盤によるものと推測される。

調査報告書は2007年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(48千代博多 0121 1:8000)



2. 調査区東側第4面全景(南西から)



3. 東側第3面土坑遺物出土状況(南西から)

0624 梅林遺跡第8次調査(UBY-8)

所 在 地 城南区梅林4丁目20-3

調査面積 142m²

調査原因 共同住宅建設

担当者 上角智希

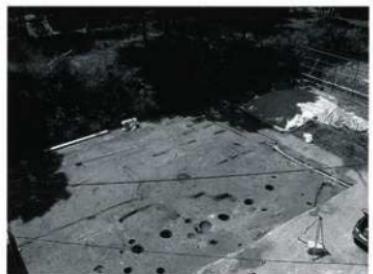
調査期間 2006.6.12~6.20

処置 記録保存

**調査に至る
経緯** 平成18年2月28日、森口光江氏より共同住宅建設のための埋蔵文化財事前審査申請書が提出された。これを受けて、同年3月14日に確認調査を行い、遺構が検出され本調査が必要と判断された。



1. 調査地点の位置(74 七限 2775 1:8000)



2. 調査区全景(東南から)



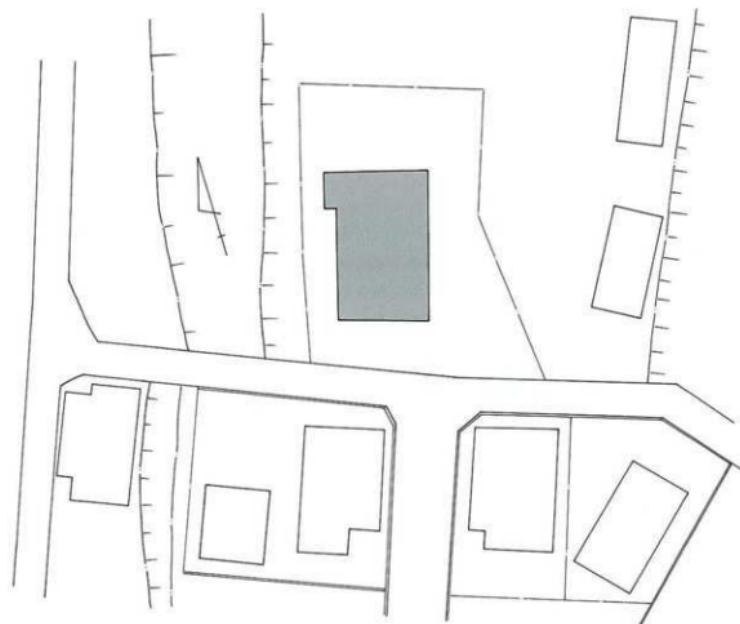
3. 調査風景

位置と環境 当地点は飯倉G遺跡が立地する飯倉丘陵の東裾に位置する。飯倉丘陵東側の狭小な平野に所在するのが梅林遺跡である。本地点のすぐ北、外環状線道路での飯倉G遺跡4次調査では、弥生時代のV字溝が検出され丘陵上の集落を囲む環濠と推測されている。その推定ラインからいけば、本地点は環濠内に位置することになる。既存建物を建てた際に丘陵斜面を大きく削っており、調査区西側のほうは遺構の残りが悪いと予想された。

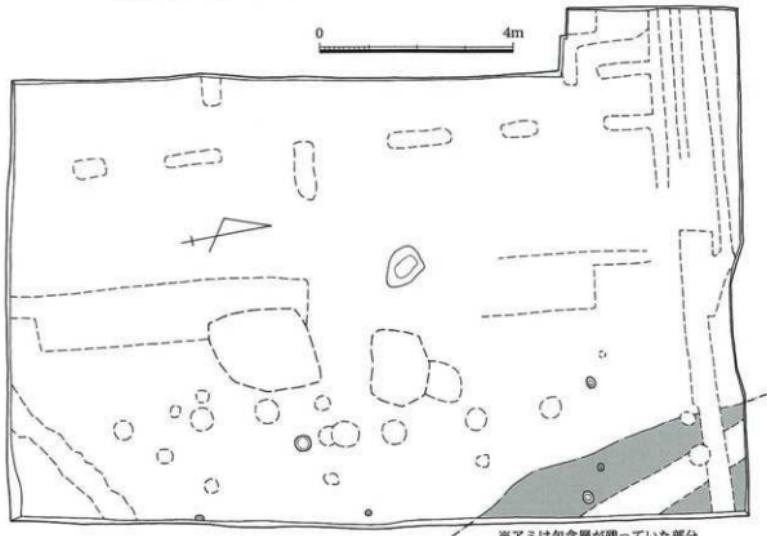
検出遺構 旧地形は削平されており、地表下5~20cmで明赤橙色および黄褐色粘土の地山を検出した。遺物包含層(旧地表面)は調査区東北隅でわずかに検出した。厚さ10cm程度。遺構は柱穴6個が残るのみである。

出土遺物 土師器、須恵器の小片がわずかに出土した。手のひら1つで掘める量である。須恵器壺・壺蓋の口縁部小片があり、それは古墳時代後期~奈良時代のものである。

まとめ 旧地形は削平されており、柱穴および遺物包含層がわずかに残るのみであった。



4. 調査区周辺の地形 (1/500)



5. 遺構配置図 (1/100)

0625 女原遺跡第6次調査(MBR-6)

所在地 西区今宿大字女原地内 調査面積 2,580m²
 調査原因 土地区画整理 担当者 加藤 隆也
 調査期間 2006.6.14~11.1 処置記録保存

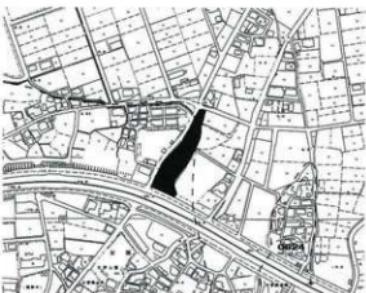
位置と環境 調査地点は、高祖山から北側へ延びる丘陵の間に形成された小さな谷の落ち際に位置する。周辺には、東に今宿大塚古墳、西には山の鼻1・2号墳、若八幡宮古墳などがみられる。また、南側隣接地は、一般国道202号線バイパスの建設に伴う発掘調査がおこなわれている。その調査では、古墳時代の集落遺跡が調査され、朝鮮半島系の陶質土器などが出土している。

検出遺構 調査地内で水路、道路、ブロック塀などで区画された範囲をもとに、北側から南に向けて1区から5区まで調査区を分けた。1区では、掘削時期は不明であるが、南北に延びる微高地の舌部を分断する溝を確認した。2区、3区、4区では古墳時代中・後期の竪穴住居、掘立柱建物、土壙などの集落遺跡を調査した。最南部の5区は調査地が狭小であり、かつ湧水が著しく調査を断念した。調査区の東側低地は、谷を流れる水の作用により激しく削られており、洪水砂により埋没している。

出土遺物 遺物の総量は石器や土器などコンテナ11箱分出土している。縄文時代中期の土器片もみられるが、古墳時代遺物が主体をなす。

まとめ 調査地の西側は、現地表土の直下が地山であることと、その地山の状況から、古墳時代以降に大きな地形変改がおこなわれたと考えられる。今回確認された集落跡は、谷側への緩斜面に残った集落の東側の一部であって、集落の広がりは更に広く展開していたものと考えられる。これらは、高祖山の北側裾部に広く展開する今宿古墳群の形成をおこなったひとつの集落と考えられる。

報告書は平成19年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(120 周船寺 0688 1:8000)



2. 調査区全景（北から）



3. 土坑内遺物出土状況（北から）

0626 箱崎遺跡第52次調査(HKZ-52)

所在地 東区箱崎1丁目1927番外3筆 調査面積 350.5m²
 調査原因 共同住宅建設 担当者 久住猛雄
 調査期間 2007.6.15～8.28 处置 記録保存

位置と環境

箱崎遺跡は、多々良川河口の博多湾岸に形成された南北にのびる新砂丘上に立地し、10世紀前半建立の筥崎宮を中心に営まれた集落が、古代以来現在まで連続する遺跡群である。調査地は遺跡中央部、筥崎宮南側に近接する位置にある。周囲標高は西側3.9～4.0m、東側4.1～4.3mを測る。なお敷地西側の道路面標高は3.4mと一段低く、新砂丘列間鞍部の名残であろう。

検出遺構

調査区西側では標高2.5m前後、東側では3.0m前後で砂丘上面となり遺構を検出した。きわめて濃密な遺構分布であった。調査区南西側と中央に計3条の南北溝が走り、中央2条の南北溝は中央の東西溝で連結され屋敷地区画溝となり、調査地南縁にも東西溝が走る。西側は旧地形が低くなり、この一部（南西側）にも幅広の南北溝がある。その他、土坑50以上、井戸2、石組（石敷）遺構1、無数の柱穴、小溝を検出した。遺構の大部分は出土遺物から11～16世紀（古代末期～中世）、一部は近世であるが、古墳時代前期以後の古い遺構も僅かに存在するようである。

出土遺物

総量パンケース55箱である。古代末期から中世後期までの土師器、黒色土器、瓦器、瓦質土器など、および輸入陶磁器が大部分を占める。瓦類も一定量出土し、軒丸瓦、軒平瓦、衾瓦も少数みられる。他に石製品、鉄製品がある。少数だが古墳時代前期の土師器、飛鳥～奈良時代の須恵器も出土している。特筆すべきものとして東海系S字状口縁甕の口縁部片や朝鮮半島系土器がある。

まとめ

筥崎宮建立以後の連続的な集落の展開が確認された。調査地は、遺構密度や筥崎宮との位置関係から中世都市としての箱崎の中心部付近であろう。東西南北の区画溝は現在の地割よりはわずかに西に方位が振れ、筥崎宮外縁の古い区画や中世の一時期の地割を示す可能性がある。

調査報告書は2007年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置(34 箱崎 2639 1:8000)



2. 調査区中央～西半部調査状況(北から)



3. 調査区北東部～中央調査状況(北東から)

0627 那珂遺跡群第114次調査(NAK-114)

所在地 博多区竹下5丁目・那珂2丁目地内

調査原因 公園建設

調査期間 2006. 6. 29～2007. 3. 31

調査面積 7,752m²

担当者 吉武 学・森本 幹彦

処置 記録保存（一部保存）

位置と環境

御笠川と那珂川に挟まれた台地上に立地し、調査地点は台地の最も高い部分に近い。遺構面の標高は高いところで10m弱。申請地のうち、公園建設により破壊を受ける部分のみを対象とし、排土処理の関係で6区画に分けて調査した。遺構面までの深さは中央部では地表に遺構面が露出し、東西は深く1mを越えるところもある。

検出遺構

遺構面はかなり削平され、練炭工場による搅乱坑が多数あり、加えて近世水路が縱横に走るため、遺構の残りは悪い。弥生時代中期末～後期初頭の竪穴住居4・井戸2・祭祀土坑1・壺棺墓20・大溝1、古墳時代前期の前方後方墳1・円墳2・並列溝2条・大型土坑2、古墳時代後期の方形区画溝1・柱列1・井戸3・竪穴住居7、古代の竪穴住居2・溝2・井戸2、中世の溝1以上・井戸7、近世の水路6以上・壺棺墓多数を検出した。

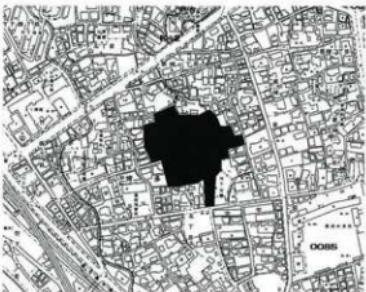
出土遺物

コンテナ382箱が出土した。特筆すべき遺物には銅戈鋌型5点、銅矛中子鋌型3点がある。

まとめ

弥生時代中期末の溝は、東側20次と西側23次検出の溝を結ぶもので、東西総延長は250mとなる。前方後方墳は全長29.2m。円墳は北側の1基が径15m、南側の1基が径19m。いずれも主体部は破壊されている。古墳群の東に3m前後離れて、同時期の南北に伸びる2本の並列溝がある。溝間は7m前後、調査区内の南北両端で長100mを測る。これまでの那珂・比恵遺跡群の調査から、総延長1.5km以上に及ぶ道路の一部と考えられる。7世紀頃の区画溝は、直角に屈曲し、溝で囲まれた内側には同じ方向の柱穴列がある。溝からは瓦が出土している。同方向の溝と掘立柱建物は、西に近接する第23次調査でも確認しており、7世紀代の官衙遺構とみられる。

報告書は平成21年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(38 塩原 0085 1:8000)



2. 調査区合成写真（上が北）



3. 古墳時代前期の並列溝（南から）

0628 比恵遺跡群第107次調査(HIE-107)

所在地 博多区博多駅南5丁目132 調査面積 122.8m²
 調査原因 共同住宅建築 担当者 赤坂亨
 調査期間 2006.7.3~7.25 处置 記録保存

位置と環境

比恵遺跡群は那珂川と御笠川に挟まれた洪積台上に位置しており、本調査地点はその北西端にあたる。比恵遺跡第97次調査の西南側隣接地である。県道575号線を挟んだ、本調査地点から東へ約100mの地点では比恵遺跡第8・72次調査が行われた。古墳時代～古代の生活遺構・倉庫群・柵が発見され、那津官家に関連するものと推定されている。

検出遺構 井戸を4基、性格不明遺構1基、ピット70数基を検出した。性格不明遺構は竪穴式住居跡の一部と考えられる。ピットの一部は掘立柱建物になる可能性がある。

出土遺物 弥生時代中期～後期の土器と黒曜石の破片が出土した。出土遺物の総量はバンケース3箱分である。

まとめ 本調査地点は隣接地で検出されたような弥生時代の貯蔵穴がみられないなど、周辺と比較して、やや遺構の密度が薄いようである。北に向かって緩やかに傾斜する比恵遺跡の縁辺部に本調査地点が位置するためであろう。

調査報告書は平成19年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(37 東光寺 0127 1:8000)



2. 調査区西側全景（北から）



3. 井戸SE-3遺物出土状況（西から）

0629 井尻B遺跡第26次調査(IGB-26)

所在地 南区井尻1丁目87番1 調査面積 614m²
 調査原因 共同住宅建設 担当者 小林義彦
 調査期間 2006.7.18~9.5 处置 記録保存

位置と環境 井尻B遺跡第26次調査区は、福岡平野の中央部を北流する那珂川下流の右岸に拡がる井尻台地の中央部に位置する。この井尻台地は、春日市の須玖岡本丘陵から那珂・比恵へと続く丘陵の鞍部にあたり、台地上には豊穴住居や壺形墓など弥生時代から古代の遺構が複合的に拡がっている。

本調査区のすぐ南西には第14次調査区が隣接しており、弥生時代の掘立柱建物跡や古墳時代の井戸跡などが検出されている。

検出遺構 調査では、南方から侵入する開析谷を埋め立てた整地層上で畦畔によって区画された水田跡を検出した。畦畔は、基底部の幅が40~50cmで、南北方向に延びていた。水田に伴う水路や水口は検出されなかったが、レヴェル的には西側がやや高く、西方を北流する那珂川方面より水掛かりしたものと考えられる。また、水田面を載せる整地層には弥生時代中期の甕や壺をはじめ、古墳時代や奈良時代の須恵器のほか須恵質の平瓦片が多く含まれており、古代後半期に台地の削平土で谷を埋めて一帯を耕地化したものと推考される。

出土遺物 谷を埋め立てた遺物包含層から弥生時代中期の甕や壺のほか古墳時代~古代の須恵器や土師器・瓦片がコンテナケース15箱出土した。

まとめ 本調査区で検出した遺物包含層とその上層の水田面は、古代後半期における台地と開析谷を水田として耕地化する開墾法を知る上で貴重な資料となりるものである。



1. 調査地点の位置(25 井尻 0090 1:8000)



2. 調査区北側全景(東より)



3. 水田跡畦畔(南より)

0630 南八幡遺跡第15次調査(MHM-15)

所在地 博多区寿町2丁目97番 調査面積 786m²
 調査原因 共同住宅建設 担当者 蔵富士 寛
 調査期間 2006.7.10~9.29 处置 記録保存

位置と環境

南八幡遺跡は福岡市域の南端部に位置し、須玖・岡本遺跡群の存在する春日丘陵の東側にある台地上に存在する。15次調査は南八幡遺跡のほぼ中央部にあたり、北側では5次調査、北西側では4次調査、南東側では9次調査がそれぞれ行われている。

検出遺構

15次調査では、竪穴住居7軒、溝、土坑（落とし穴）、ピット群を検出した。竪穴住居は弥生時代終末～古墳時代前期にかけてのものである。多くは部分的な調査にとどまり、全形を窺うことができるのは2軒(SC03、SC11)のみであるが、多くは一辺4～5mほどの方形住居であると思われ、SC03のみが一辺2mの小形の住居である。SC01・02・10はベッド状遺構を有し、SC02はL字状、SC01・10は短冊状のベッドをそれぞれ付している。落とし穴は1のみ確認した。一辺1mほどの方形を呈し、深さ0.7mを測る。壁の立ち上がりはほぼ垂直、底面は平坦に仕上げられており、中央部に径20cmのピットが1つ存在している。遺物の出土はない。溝、ピット群出土の土器は少なく、遺構の所属時期は不明な点が多いが、おおむね古墳時代～奈良時代に比定できるだろう。掘立柱建物の存在については現在検討中である。

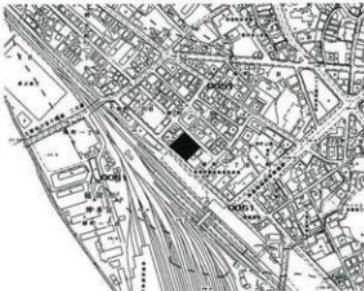
出土遺物

土師器、須恵器などコンテナ9箱ほど。尚、遺構面上から、後期旧石器時代の三稜尖頭器を1点検出した。

まとめ

今回の調査では、弥生時代終末～古墳時代にかけての良好な資料を得ることができた。同様の遺構は近在する9次調査等においても検出されており、それぞれの関連が注目される。

なお、報告書は2007年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置(12-13 麦野他 0051 1:8000)



2. 調査区全景(西から)



3. SC11(南東から)

0631 姪浜遺跡第5次調査(MNH-5)

所在地 西区姪浜3丁目3381番 調査面積 143m²
 調査原因 共同住宅建設 担当者 加藤良彦
 調査期間 2006.7.12~8.7 処置記録保存

位置と環境 調査区は早良平野の西海岸部、博多湾岸に東西に延びる砂丘上に東西700m南北300mの範囲に広がる姪浜遺跡の中央から北斜面、砂丘尾根線上にもうけられた旧唐津街道北側に位置する。これまで遺跡内では4次にわたって調査が実施され、1・2・4次調査で弥生時代甕棺墓群が、3次調査では弥生時代中期前半の集落が検出され、中国漢代銅鑓・半島無文土器・西部瀬戸内土器・南海産貝輪・貝玉等の海上交易品と多量の製塩土器が出土し注目されている。



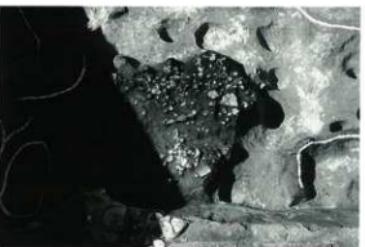
1. 調査地点の位置(89 姪浜 0367 1:8000)

検出遺構 遺構は、弥生時代中期後半の住居2棟・土坑2基。後期の石蓋土壙墓1基、15・16世紀代の土坑9基を検出した。弥生時代後期の石蓋土壙墓は扁平な玄武岩割石を用い、副葬品は検出されなかった。



2. 調査区北半部全景(南から)

出土遺物 遺物は、弥生時代中期後半の住居SC09を中心とする大量の日常土器・祭祀土器と石器・碧玉製管玉・獸骨を、15・16世紀代の土坑からは瓦質の湯釜・朝鮮雜釉陶器・中国白磁などを検出。他に8世紀代の須恵器、13世紀代の土師器を少量検出、計コンテナ25箱分出土した。



3. 住居SC09内土器溜まり(南から)

まとめ 弥生時代中期後半の遺構群のうち、径約8mの大型円形住居SC09は東部の甕棺墓群を形成した集落の中心遺構と考えられ、床面には瓢形の特殊土器を胴部まで埋め込み設置している。大量の土器はこの住居を廃絶後投棄したもので、SC09を切る方形住居SC12と同期と思われる。中世は暗灰褐色土に三紀層の小ブロックを多く含む覆土で特徴的である。

0632 西新町遺跡第19次調査(NSJ-19)

所在地 早良区高取1丁目111外 調査面積 163.5m²
 調査原因 共同住宅建築 担当者 今井 隆博
 調査期間 2006.7.12~8.11 処置 記録保存

位置と環境

西新町遺跡は早良平野の北東隅に位置し、博多湾岸に広がる箱崎砂層と呼ばれる砂丘上にある。西新町遺跡は弥生時代中期から古墳時代前期にかけての集落及び墓地からなり、今回の調査区は遺跡の南西隅に当たる。周辺の調査では弥生時代中期の集落が確認されている。

検出遺構

地表から約2m下には遺物を多く含む黒褐色砂が40cmほど堆積しており、その下で地山の黄褐色砂となる。黄褐色砂の標高は北側で3m、南側で3.4mで南から北に緩やかに下がる。安全確保のため壁から引きをとっているので調査区の幅は約4mと狭い。ほとんどの遺構が調査区外に広がっているためはっきりしない遺構が多いものの、竪穴住居址8基、土坑2基、ピット約20と土器溜まり1ヶ所を検出した。住居址は一辺2.5mほどの方形住居が中心である。大型の1基だけはやや丸みをもった形をしているが、半分以上が調査区外に広がるため平面形ははっきりしない。住居址からの出土遺物はそれほど多くないが、中期後半の土器が出土している。うち3基では焼土が確認できた。土器溜まり(SX26)は調査区南西端で検出し、調査区外に広がる。遺物の大半はここから出土している。

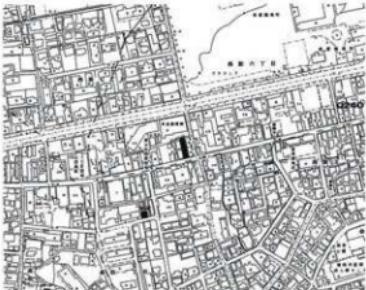
出土遺物

遺物は弥生時代中期後半の土器が大量に出土しており、丹塗りの祭祀土器も多い。その他に石錘や黒曜石片も出土している。また、表土剥ぎの際に江戸時代の高取焼をコンテナケース2箱分採集した。出土遺物の総量はコンテナケース約30箱分である。

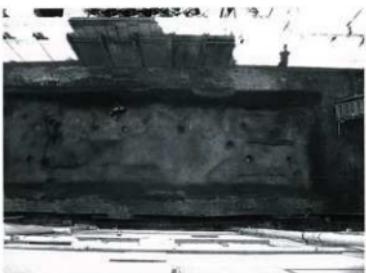
まとめ

周辺調査の成果と同じく、弥生時代中期後半の集落を検出した。検出した遺構は生活関連遺構のみで、喪棺等の墓地遺構はない。

調査報告書は2007年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(72 荒江 0240 1:8000)



2. 調査区北半全景(東から)



3. SX26遺物出土状況(北東から)

0633 名島城跡第4次調査(NZE-4)

所 在 地 東区名島1丁目2405外 調 査 面 積 494m²
 調 査 原 因 重要遺跡確認 担 当 者 荒牧 宏行
 調 査 期 間 2006. 8. 7～10. 31 处 置 埋戻し保存

位置と環境 公園整備に伴って昨年度の3次調査に引き続き本丸曲輪の調査を行った。現状の曲輪平坦面は約4,200m²、標高24.8mをはかる。

今年度から重要遺跡確認調査として3ヵ年断続的（年度内2ヶ月程度）に調査を行う。今回は天守が位置していた可能性が高い北西隅と南西隅を広く開け重点的に精査した。

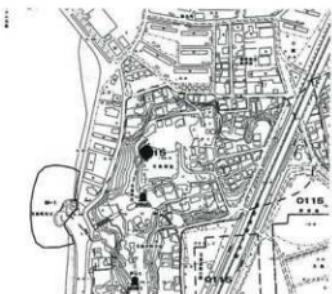
検出遺構 北西隅は昨年度、隅櫓の基礎の可能性がある列石を確認していたが、今次は調査区を広げるとともに列石内の敷石や列石外に多量に散布した瓦や小石を露出し精査した。その結果、1辺5m以上と考えられる方形に区画した列石の基礎部分と区画内の敷石は建て替え後のものと考えられ、最終的に破却され瓦が落とされていることが判明した。

また、この隅櫓の下部は石垣を積み替えた角の部分を拡張した可能性があり、さらに検出された隅櫓基礎部分の周辺にも礎石や敷石がみられることがから付随した建造物群が広範囲に構成されていたことが考えられる。

南西部でも隅櫓の基礎と考えられる敷石がみられたが、調査区が限られたことや、破壊が大きいために形状や規模は判然としない。北西隅同様に外周に礎石となるような大きめの石を配し、内部に2種類の大きさの石を重ねた可能性がある。

出土遺物 出土遺物はコンテナ10箱分が出土した。北西隅櫓周辺に集中した瓦片は一部を取り上げ、他は現状のまま埋め戻した。この中にも名護屋城跡出土の瓦当と同型式、同范のものがみられる。

ま と め 本丸曲輪の改修や櫓等の建物の様相が一部ではあるが見えてきた。今後、中央部の建物や東側の大手からの通路を確認していく予定である。



1. 調査地点の位置(32 名島 0115 1:8000)



2. 北西隅櫓基礎(南から)



3. 北西隅櫓周辺の瓦散布(東から)

0634 福岡城跡第58次調査(FUE-58)

所 在 地 中央区天神2丁目160-1,2,3,4 調査面積 42m²

調査原因 商業ビル建築 担当者 吉留秀敏

調査期間 2006.7.6~7.10 処置 記録保存

1. 位置と環境

調査対象地は天神繁華街の通称「天神西通り」と「きらめき通り」の三叉路に位置し、福岡城肥前堀・紺屋町堀（中堀）と薬院門が交錯した付近にあたる。対象地は間口5.5m、奥行き21mの店舗予定地であり、地表面の標高は海拔約3.5mである。敷地北側が紺屋町堀の北側石垣の推定線に一致していた。当初、絵図との照合で、構造物は遺存しないと予測し、解体、建築工事に際しては慎重工事で進めていた。しかし工事中に一部石垣が残存している事が判明し、緊急に発掘調査を実施する事となった。まず、石垣の正確な位置を確認し、構造と保存状況を把握するために、重機により表土を除去し、石垣の全面的に検出した後、石垣下に一部トレーナーを入れて構造と断面観察を行った。著しい湧水があったが、排水しながら調査を実施した。

遺構面までの深さは約1.5m（標高2.0m前後）、基底部は標高約1mであり、基盤は新砂丘砂で白～灰色の均質な粗～細砂である。堀内部の下部は黒灰色シルト～泥質土、中～上部は風化頁岩や煉瓦、コンクリート片を含む土砂が堆積している。

2. 検出遺構

調査区内北側で、地表下約1.5m付近に東西方向の石垣頂部を検出した。石垣は上部を近世以降の造成、建築工事で破壊されていたが、下半部の保存状況は良好であった。標高1.2～2.1mの範囲に高さ約1m、長さ約12mの残存があった。石垣の構造は東西ほぼ直線であり、基盤の砂丘面に東西方向の胴木（長さ約4～5m、径約15cmの松材丸太）を敷き、基底部に正面三角形の切石を根石として並べ、その間を充填すべく正面長方形～菱形の切石を順に積み上げている。石垣正面の傾斜は約80°である。切石は方形を基調とするが、一部に亀甲形も含まれる。裏込めに整形時の石材破片が多く含まれることから、石材を現地で整形しつつ積み上げたと見られる。調査区内の東側では切石間の目地が隙間なく精緻であるものの、西側に次第に粗雑となる。



1. 調査地点の位置(49 天神 0164 1:8000)



2. 調査地点遠景(正面ビル間)



3. 石垣検出状況(西から)

切石の主体は花崗岩であるが、西側根石に玄武岩板石の利用もある。切石は一辻30~50cm前後と小振りで、一面に幅5cm程度の長方形楔痕跡が1~数ヶ所残されたものが多い。なお、裏込め石には花崗岩碎片のほか玄武岩が多く使用されている。なお、出土遺物は少なく、石垣の清掃段階に前面下部の黒灰色シルト~泥質土層から少量の近世陶器などが出土した。

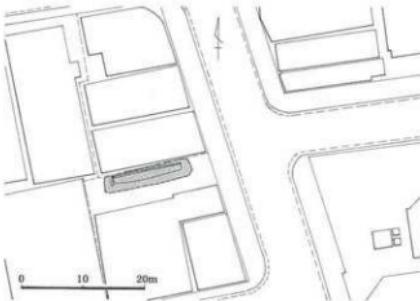


Fig. 1 調査区の位置と周辺状況 (1/800)

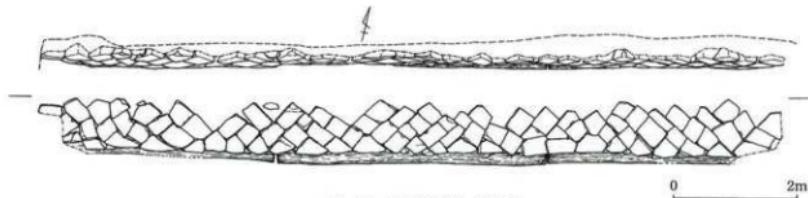


Fig. 2 石垣実測図 (1/80)

3.まとめ

検出した石垣は江戸期の土井ノ町と薬院町の間にあった紺屋町堀(中堀)の北側部分と推定される。石垣の構造は一部亀甲積を含む切込接であり、赤坂御門に近い内堀石垣を調査した53次調査の面面積に近い形態とは大きく異なる。その特徴から近世後期以降の型式と見られる。当地を描く絵図のうち、元禄12(1699)年の「福岡御城下之絵図」には赤坂御門以東では薬院門、数馬門の構え部以外の堀際は石垣でなく土手として描かれているが、文化9(1812)年「福岡城下町近隣古図」では石垣として描かれている。これについて文化8(1811)年の『黒田家譜』には、幕府から堀の両側に高さ三尺の石垣築造の許可を受けたと記され、また文化11(1814)年の吉田家伝録にも中堀の石垣築立についての記述がある。したがってこの時期に藩事業として土手を石垣として改修したものとみられる。ただし石垣の中に一部玄武岩の使用があり、裏込め石にも同様の石材が多く認められることから、より古い石垣の廃材を利用したことも否定できない。今回は薬院門の検出は困難であったが、初期の薬院門の基礎に内堀石垣と同様に玄武岩を多用していた事も予測される。その構造や改築などの状況は今後、考古、文献両方から検討する必要がある。

福岡城下の町割りは現在の道路網に踏襲されている。また、福岡城下を東西に二分する紺屋町堀(中堀)と肥前堀には三カ所に堅固な耕形門が設けられ、その中央に位置するのが薬院門であった。薬院門を通じて城下を南北に貫く幹線路が現在の「天神西通り」であるが、武家屋敷と町屋(薬院)を連絡し、また区分するのがこの薬院門でもあった。今回の調査で明らかにした石垣はこの薬院門のすぐ西側、土手ノ町内に位置する。福岡城内堀から東の薬院新川まで伸びるこの堀は、藩政後、明治11(1878)年に県事業として蓮根栽培が開始され、明治43(1910)年には第13回九州沖縄連合共進会(博覧会)会場用地として埋め立てられている。その後の市街化によって痕跡を留めず、今は絵図等によってその位置を推定している。今回の調査により、一部ではあるが紺屋町堀(中堀)と薬院門の構造に関する情報が得られた意義は大きい。なお、本調査で出土した石垣石材の一部は大名小学校に保管、活用されている。

0635 羽根戸原B遺跡群第2次調査(HNB-2)

所 在 地 西区野方3丁目610-17

調 査 面 積 21m²

調 査 原 因 個人専用住宅建設

担 当 者 上角智希

調 査 期 間 2006.7.27~7.31

処 置 記録保存

**調査に至る
経緯** 平成18年7月7日、田中精一氏より個人専用住宅建設のための埋蔵文化財事前審査申請書が提出された。試掘調査の結果、7世紀の遺構が検出され、道路面まで切土される駐車場部分について本調査が必要と判断された。

位置と環境 本地点は、羽根戸原B遺跡群の西側に位置している。現況は藤ヶ丘団地とよばれる造成地である。昭和40年代後半に宅地造成されたとのこと。斜面に分譲された宅地が段々に並ぶが、その最も奥の標高が高い部分に位置する。

検出遺構 宅地中央に入れた試掘トレンチでは、現地表下70~80cmで土壌2基を検出し、7世紀代の須恵器・土師器が出土した。

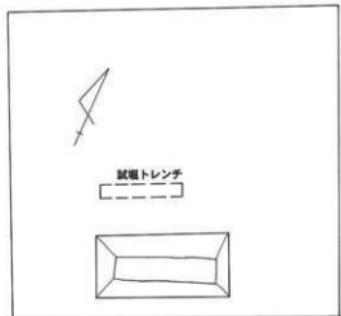
しかし、調査の対象となった宅地南側では、現地表下140cmで地山の花崗岩バイラン土を検出したが、遺構は皆無であった。遺構面上に厚さ120cm程度、地山の花崗岩バイラン土を掘り返した土が堆積している。宅地造成時の切り盛りに伴う層である。

出土遺物 試掘トレンチの表採と、清掃作業中出土分、あわせて須恵器・土師器11点が出土した。須恵器壊、壺蓋の小片があり、7~8世紀のものである。

まとめ 試掘調査で遺構が確認されたが、今回の調査対象地内には遺構がなかった。



1. 調査地点の位置(92 戸切 0398 1:8000)



2. 調査区位置図 (1/250)



3. 調査区全景(北東から)

0636 比恵遺跡群第108次調査(HIE-108)

所在地 博多区博多駅南4丁目132-1 調査面積 92.9m²
 調査原因 立体駐車場建設 担当者 吉留秀敏・木下博文
 調査期間 2006.8.1~8.16 处置 記録保存

位置と環境 比恵遺跡群は西の那珂川と東の御笠川にはさまれた標高5~8mの中位段丘上に展開する弥生~古墳時代の集落遺跡である。今回の調査地点は山王公園前交差点より南に数十m、筑紫通りの西南側に位置し、遺跡の北東端に近い。近辺では西で77次、南で35次調査が行われている。

検出遺構 現地表面下150cmで7世紀代の須恵器蓋杯など多量の土器破片を含む暗褐色土層を検出した。この土層は調査区一面に広がっている。

その掘り下げの後、黒褐色粘土層上面で祭祀を行ったと見られる胴部穿孔の複合口縁壺を伴う弥生時代後期の井戸1基、残りの良い須恵器甕・蓋杯・高杯、土師器杯、桃などの種子を伴う古墳時代後期~終末の井戸1基、その他古墳時代と見られる土坑、ピットを検出した。

なお鳥栖ロームは見られず、地山の八女粘土層上面では遺構は確認できなかった。

出土遺物 弥生時代中期~後期の土器、古墳時代後期~終末の土師器、須恵器甕・高杯・蓋杯、桃などの種子、黒曜石片など、コンテナ18箱分が出土した。

まとめ 調査区内の基盤層は北から南、東から西へ緩やかに傾斜しており、谷地形であったと見られる。その上に堆積した黒褐色粘土層を掘り込み、弥生~古墳時代の井戸などが造られている。その上に堆積する暗褐色の包含層は古墳時代後期~終末期の土器を含み、一面に広がっており、大規模な整地の可能性もある。

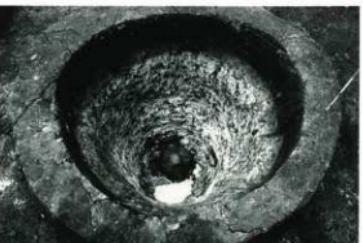
調査報告書は2008年度以降に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(37 東光寺 0127 1:8000)



2. 調査区全景(東から)



3. 井戸SE02(北から)

0637 西新町遺跡第20次調査(NSJ-20)

所在地 早良区西新6丁目1-10

調査面積 1,850m²

調査原因 高校校舎改築

担当者 吉村 靖徳(福岡県教委)

調査期間 2006.8.2~12.13

処置 記録保存

位置と環境 西新町遺跡は早良平野の北東端部、博多湾に面した古砂丘上に立地する。今回の調査地点は遺跡の北東部に位置し、修猷館高校敷地の北東隅部(ブル部分)にある。

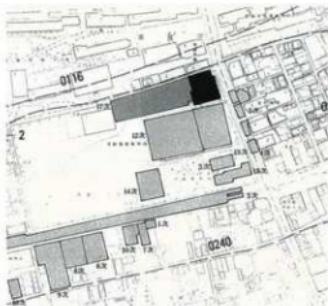
今回確認した遺構の時期は古墳時代前期、江戸時代後期、そして明治～昭和期にかけての修猷館高校の前身に関連する時期に分けることができる。

検出遺構 検出した主な遺構は、古墳時代の竪穴住居跡45棟(うちカマドを付設する住居跡は20棟、煙道の遺存しているもの5例)、土坑7基、それに近世～昭和期の井戸2基・廐棄土坑・溝等である。このうち古墳時代の遺構は発掘区の南半部に集中し、北半部では発掘区のやや北寄りで検出した2棟のみにとどまる。古墳時代の遺構検出面の標高は3.4m～3.6mほどであり、南西部から北東部に向かって緩く傾斜している。発掘区の基本層序は茶灰色土(表土)→暗灰色土(盛土)→黄白色細砂(地山)となり、地山面が古墳時代の遺構面となる。ただし、発掘区南壁際の東半、及び北東隅部については厚さ数cm～15cmほどの暗黄茶色砂が存在し、その上面から近世の遺構が切り込まれている。

出土遺物 古墳時代前期のものとしては、土師器・韓半島系土器・鉄鎌・袋状鉄斧・勾玉未製品・玉砥石等が出土した。江戸時代の遺物には高取焼やハマなどの窯道具がある。

まとめ 西側隣地の第17次調査を含むこれまでの発掘調査において、当該調査区が古墳時代の集落の縁辺部に位置することが想定されていたが、今回の調査結果においても北側外郭線を追認する結果となつた。また、韓半島に類例を見る住居壁に沿つて煙道が延びるタイプのカマドを付設する住居跡も複数確認され、西新町集落におけるカマドの構築過程についても次第に明らかになりつつある。

報告書は2007年度に刊行の予定である。



1. 調査地点の位置(71 西新 0240 1:8000)



2. 調査区西半部全景(南から)



3. 4号住居跡カマド検出状況(南から)

0638 有田遺跡群第225次調査(ART-225)

所在地 早良区有田1丁目33-7 調査面積 34.5m²
 調査原因 個人住宅建設 担当者 阿部泰之
 調査期間 2006.7.27~8.4 処置 記録保存

位置と環境 有田遺跡群は、早良平野のほぼ中央部、最高所で標高15m前後を測る低丘陵上に位置し、旧石器時代から中世にわたる時期の遺構・遺物が確認されている。今回の調査地点は、現西福岡中学校の南にほぼ隣接する位置にある。

検出遺構 今回の調査では、古墳時代の竪穴住居3軒・ピットを検出した。遺構は調査区西側に偏って分布し、遺構検出面は東に向かって標高を下げる。

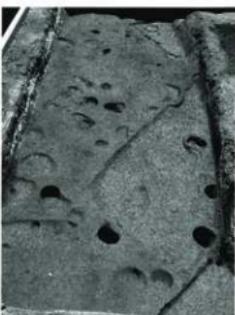
出土遺物 遺物は、須恵器・土師器・弥生土器がコンテナケース1箱程度出土した。

まとめ 今回の調査では、古墳時代の竪穴住居3軒を検出した。地山のロームは削平を受けており、遺構検出時には竪穴の堀方の底面がうっすら見えていた状況であった。遺物は土師器がわずかに出土し、古墳時代の住居と推測される。削平が激しく遺構・遺物ともに少ないが、南に近接する141次・222次調査でも古墳時代の竪穴住居・掘立柱建物が検出されており、これらの結果から調査地周辺に当該期の集落が広がっていたことが推測される。今回の調査は面積が狭小であるが、有田遺跡群内の古墳時代後期の様相を推し量るために一資料となる。

調査報告書は2006年度に刊行済み(『有田・小田部44』市報第920集に所収)である。



1. 調査地点の位置(82原0309 1:8000)



2. 調査区全景(北から)



3. 竪穴住居跡SC03(北から)

0639 博多遺跡群第164次調査(HKT-164)

所在地 博多区上呉服町468他地内 調査面積 390m²
 調査原因 共同住宅建築 担当者 赤坂亨
 調査期間 2006.8.7~10.6 処置 記録保存

位置と環境

博多浜の北縁部、御笠川に向かって北東方向へ傾斜している旧称富士見坂の途中に位置している。北東方向約50~60mに御笠川がある。西側の通りを挟んだ南西側約10mの地点では第132次調査が行われており、中世の井戸・土坑・柱穴などが確認されている。北東側の試掘では遺跡のないことが確認されており、調査前の所見では本調査地が博多遺跡群の博多浜における辺縁部であると予想されていた。

検出遺構

西側第一面・第二面からは土坑・ピット・井戸・石組遺構・溝を確認した。いずれも近世以降の遺構である。土坑からは近世の初期伊万里などと思われる陶磁器群の一括出土が見られた。東側では上部幅2.0m、深さ0.6mの断面逆台形の溝を検出した。溝は西半調査区内で北東方向から北西方向へと約110°ほど緩やかに屈曲していた。水は御笠川方向から流れてきて蓮池方面へと流れていったようである。一番最後に埋没した時代の一括遺物と思われる遺物群の年代は16世紀のものであり、下層からは中世後期の陶磁器の出土が見られた。東側ではその他に土坑・井戸・溝・ピットなどを検出した。時期は中世後期～近世である。

出土遺物

遺物は土器・陶磁器などコンテナ32箱分が出土した。

まとめ

中世後期にはこの溝が博多浜における博多の集落の北限を画する区画溝であったと考えられる。それが16世紀には埋没し、それに伴い北東側へ集落が拡大し、現在の博多の町割に整えられたものと考える。

調査報告書は平成19年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(48千代博多 0121 1:8000)



2. 溝屈曲状況(南から)



3. 調査区北半第二面全景(北から)

0640 蒲田部木原遺跡第11次調査(KHH-11)

所在地 東区蒲田2丁目1111-1他 調査面積 417.4m²
 調査原因 倉庫建設 担当者 阿部泰之
 調査期間 2006.8.16~9.26 処置 記録保存

位置と環境 調査地点は蒲田部木原遺跡の北部に位置し、第10次調査地から西に300mほどの地点にある。周辺は流通団地として整備が進んでおり大規模な倉庫が多く立ち並んでいるが、旧状は水田地帯である。調査区の南東約200mに部木の集落がある低丘陵が位置し、丘陵の西端に前方後方墳を含む部木古墳群がある。

検出遺構 狹長な調査区ではあったが、溝11条・斐棺墓14基・土坑・ピットなど多くの遺構を検出した。溝は埋土の堆積状況から水路と推測されるものが含まれる。近世以降のものもあるが、時期は弥生時代前期末～中期前半、同後期初頭、古墳時代後期の3期にわたる。斐棺墓は幅12mほどの部分に集中している。うち成人棺は2基、汲田式の斐棺である。小児棺は上部を削られた形で検出される。型式としては須歎I式の範疇に収まる。土坑には不整な楕円形を呈するものと、隅丸長方形を呈するものがある。長方形の土坑は土壙墓の可能性がある。楕円形の土坑は用途不明。時期は弥生前期末から中期前半にかけて。内1基は底面に棺材によるとみられる圧痕が検出されたため、木棺墓と判断した。

まとめ 今回の調査では、14基の斐棺墓を始め多くの遺構を検出した。時期は概ね弥生時代前期末から中期前半が多い。大形の土坑などが見られるが住居址が検出されず、集落の縁辺部を検出したものと推測される。

調査報告書は2007年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(02蒲田0003 1:8000)



2. 調査区中部（西から）



3. 斐棺墓ST35（南から）

0641 井尻B遺跡第27次調査(IGB-27)

所在地 南区井尻1丁目736-3他 調査面積 133m²
 調査原因 共同住宅建設 担当者 小林義彦
 調査期間 2006.8.21~9.2 処置 記録保存

位置と環境 井尻B遺跡第27次調査区は、福岡平野の中央を北流する那珂川下流の右岸に拡がる井尻台地のほぼ中央部に位置する。春日市の岡本丘陵から続くこの台地上には、弥生時代の堅穴住居群や甕棺墓・石棺墓などの墳墓群のほか鏡や銅鏡など青銅器の鋳型や小型の銅鏡も出土している。

検出遺構 発掘調査では、弥生時代の集落跡と墓地を検出した。

集落跡は、1×2間と1×1間の掘立柱建物跡と土坑からなり、土壙墓よりも新しい。また、墓地は7基の甕棺墓と5基の土壙墓からなる。甕棺墓は、成人墓が3基と小児墓が4基で、成人墓のうち2基は木蓋の單棺墓である。一方、土壙墓は小口壁や側壁の床面に厚板を嵌め込んだ痕跡があり、木棺墓と考えられる。このうち3基の木棺墓の床面には、一面にベンガラが敷き詰められていた。甕棺墓は中期後葉で、木棺墓は後期はじめと考えられる。

出土遺物 甕棺墓や土壙墓から副葬品は出土しなかったが、甕棺墓をはじめ掘立柱建物跡や土坑からは甕や壺などの弥生式土器がコンテナケース10箱ほど出土した。

まとめ 本調査区で検出した遺構は、はじめに甕棺墓が弥生時代中期後半に、続いて土壙墓が後期初めに造墓され、墓地の終焉後に掘立柱建物跡などの集落が営まれる。分布は比較的疎らで集落や墓域の縁辺部にあたるものと考えられる。一方、甕棺墓の検出状況から台地は1mほどが削平されている。この台地を削ったその排土は南方に位置する第26次調査区などの谷部を埋め立てて耕地化したものと考えられ、この地における土地開発の在り方を窺い知ることができる貴重な資料である。



1. 調査地点の位置(25 井尻 0090 1:8000)



2. 調査区全景(北より)



3. 3・11号甕棺墓(南より)

0642 博多遺跡群第165次調査(HKT-165)

所在地 博多区古門戸町50番地 調査面積 390m²
 調査原因 共同住宅建設 担当者 屋山 洋
 調査期間 2002.9.7~12.18 处置 調査後破壊

位置と環境 調査地点は沖ノ濱砂丘の西端部に位置する。北側の122次では石組みの溝や土坑が、78次では大型掘立柱建物の礎石や石組み土坑が太閤町割以前の町並みに沿って築かれている。周辺は小字から近世初頭に移設させられた妙楽寺が存在していたことが判明している。

検出遺構 調査区中央で東西方向の道路状造構を確認した。道路面は厚さ1cm以下の細かな整地層で白色砂と黒褐色土、灰黄褐色土を突き壓めている。硬化面は下層では1~3cmほどの間隔で存在したと思われ、最下層の厚さ25cmの間で確認できただけで7面の路面が存在することが判明。道路最下層の路面では砂利代わりに同安窯系青磁碗の小片を敷いている。これにはほとんど他の土器は混じらない。道路以前の土坑でも同安窯系青磁碗が出土しており、道路の使用開始時期は12世紀後半から13世紀前半と思われる。また道路に沿った小規模な建物や土師皿が大量に出土する土坑も確認した。14世紀中頃から後半には道路中央に井戸が掘られており、道路が一時的に廃絶したか狭くなった可能性があるが、井戸埋土上にも道路整地層があり、井戸埋没後は再び道路として使用されている。

まとめ 井戸からは鹿角製品の廃材や金が付着した白磁碗片(パレットとして使用か)が出土しており、14世紀末頃には近くに何らかの工房があったと思われるが、この時期は妙楽寺が創建された時期でもあり、それに関連する施設の可能性もある。15世紀以降の整理層中で厚い焼土ブロック整地層を約3枚確認した。戦国末には博多は何度か戦乱により灰燼に帰しており、焼土ブロック整地層はそれらに関連する可能性も考えられる。

調査報告書は19年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置(48千代博多 0121 1:8000)



2. III区道路側溝(西から)



3. 道路整地層(北から)

0643 西新町遺跡第21次調査(NSJ-21)

所在地 早良区西新5丁目572-2

調査面積 369.5m²

調査原因 共同住宅建築

担当者 今井 隆博

調査期間 2006.9.11~12.5

処置 記録保存

位置と環境

西新町遺跡は早良平野の北東隅に位置し、博多湾岸に広がる箱崎砂層と呼ばれる砂丘にある。西新町遺跡は弥生時代中期から古墳時代前期にかけての集落及び墓地からなり、今回の調査区は遺跡の南端に当たる。周辺では弥生時代中期の壇棺と終末期の集落が確認されている。

検出遺構

現況の標高はおよそ5.6mで、地表面より1.5~2.2m下のうすい褐色砂上面を遺構面とした。廃土処理の関係上調査区を5分割することになったため遺構が分断され、平面形・切り合いの把握に失敗した部分もある。検出した遺構は竪穴住居址3基と土坑9基、井戸2基、溝、ピットなどである。全体に遺構密度は薄い。弥生時代終末期のものが中心で、一部古代・中世・近世の遺構・搅乱がある。住居址3基のうち2基は溝と搅乱に切られているため正確な規模は不明であるが、残りの1基(SC05)はおよそ7×4.6mの大型のものである。いずれも床面からの高さは50cmほどあり、遺存状況は良好である。また、遺構面下の白色砂の下では赤色砂が確認され、その中から縄文時代前期と思われる土器片が出土した。

出土遺物

住居址、土坑から弥生時代終末期の土器が多く出土した。須恵器を含む溝からは鉄滓が出土している。縄文時代前期と思われる土器片は約30点である。遺物は総量でコンテナケース約30箱分である。

まとめ

周辺の調査成果と同じく、弥生時代終末期の集落を検出した。本調査区では壇棺が検出されなかったことから、壇棺の分布範囲は南西に広がらないことが確認された。縄文土器が出土した赤色砂の下からはAso-4火山灰が確認され、地質学的観点からも新たな知見を得ることができた。

調査報告書は2007年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(72 荒江 0240 1:8000)



2. 5区1画全景(北から)



3. SC05遺物出土状況(北西から)

0644 比恵遺跡群第109次調査(HIE-109)

所在地 博多区博多駅南5丁目123-1他 調査面積 163m²
 調査原因 共同住宅建設 担当者 小林義彦
 調査期間 2006.9.11~10.11 処置 記録保存

位置と環境 第109次調査区は、春日市の岡本から井尻・那珂を経て北へ延びる丘陵の最北端に位置する比恵遺跡群の西端に立地する。岡本丘陵から続くこの台地上には、弥生時代から古墳時代の集落跡や那珂八幡古墳をはじめとする墳墓群が濃密に拡がっている。また、調査区のすぐ東には那津跡と推定される柵列で囲まれた大型の倉庫群がある。

調査では、弥生時代と古墳時代後期、古代の遺構を検出した。

検出遺構 弥生時代の遺構は、中期後半～後期の井戸跡3基のはか甕棺墓（1基）や掘立柱建物跡、土坑を検出した。古墳時代の遺構は、南北方向に延びる3本柱柵列と3×3間の総柱建物跡1棟と2×2間以上の総柱と思われる建物跡を検出した。この建物跡は柵列の東側に南北に並んで位置し、柵列や建物跡の柱は、径が25~30cmと大きい。この柵列と建物跡は、古墳時代後期のもので東方に隣接している那津官家跡の南側柵列から15°ほど東に振れている。古代の遺構は、溝幅が2.5~3m、深さが50~60cmの断面形が逆台形の大溝1条を検出した。

出土遺物 これらの遺構からは、弥生土器や土師器、須恵器、平瓦のほかに磨製石斧や石劍、銅弋の鋳型片などがコンテナケース21箱出土した。

まとめ 本調査区で検出した遺構は、概ね弥生時代中期後葉～後期と古墳時代後期、古代の3期に大別される。殊に、3本柱柵列を伴う総柱建物は東接する那津官家と構造や配置などが酷似しており、同一あるいは極めて関連性の濃い遺構群であると考えられる。この比恵丘陵には柵列を伴った大型の建物群が拡がっており、南に続く那珂丘陵の建物群と併せて「那津官家」の全容と形成過程を知る極めて貴重な資料である。



1. 調査地点の位置(37 東光寺 0127 1:8000)



2. 調査区全景(東より)



3. 33号ピット遺物出土状況(東より)

0645 比恵遺跡群第110次調査(HIE-110)

所在地 博多区博多駅南4丁目223、237-1

調査面積 571.7m²

調査原因 葬祭場建設

担当者 榎本義嗣

調査期間 2006.9.14~11.15

処置 記録保存

位置と環境

比恵遺跡群は、福岡平野を北流する御笠川と那珂川に挟まれた洪積段丘上に展開する遺跡で、本調査地点は、同遺跡の北側台地北東端部に立地する。遺構面である鳥栖ローム層は、東側に向かって緩く傾斜しているが、調査区西側約2/3では、耕作土直下で確認できる。遺構面の標高は、西側で4.8m、東側で3.8mを測る。

検出遺構

今回の調査で検出した主な遺構は、弥生時代の竪穴住居、溝、土坑等であるが、この他に古墳時代初頭の土坑やピットを少数確認した。

弥生時代の竪穴住居には、平面プランが円形を呈するものと、方形を呈するものがあり、このうち、前期の松菊里タイプの竪穴住居は、一辺約5mを測る隅丸方形状の平面プランを呈し、中央土坑の周囲に4本の主柱を配している。また、この他にも多主柱の円形プランのものも確認できた。

幅約1.5m、深さ約0.8mを測る弥生時代後期初頭の溝は、台地が傾斜する際に開削され、数度の掘り直しが確認できた。また、堆積した土質や位置関係から、灌漑用の水路と推測されるものである。この他に古墳時代初頭の廐棄土坑等がある。

出土遺物

出土遺物量は、コンテナケース22箱で、弥生土器や古墳時代土師器の他に、弥生時代の石庖丁等の石器や土製品が出土した。

まとめ

今回の調査では、弥生時代前期の集落を良好に確認できた。周辺の調査では、同時期の貯蔵穴が検出されており、竪穴住居とともに構成される該期の集落復元にあたっての貴重な成果を得ることができた。また、溝は調査区の南北に延長していることから、周辺の今後の調査成果によって、その機能や全体像が更に明確になるものと考えられる。

調査報告書は2007年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(37 東光寺 0127 1:8000)



2. 調査区南側全景(北から)



3. 弥生時代竪穴住居(南東から)

0646 博多遺跡群第166次調査(HKT-166)

所在地 博多区祇園町279番

調査面積 237.9m²

調査原因 事務所・店舗ビル建設

担当者 久住 猛雄

調査期間 2006.9.27～12.18

処置 記録保存

位置と環境 博多遺跡群は、博多湾に面した新砂丘上に立地し、西・南を博多川・那珂川、東を石堂川（御笠川）に挟まれ、地形的に独立した一角をなす。調査地は、新砂丘内陸側「博多濱」の南半である「砂丘Ⅰ」に位置する。調査地は砂丘の南側斜面にあり、調査区内で基盤砂丘面が南西側に向かって低くなる。調査区周囲上面の現地表は5.2～5.4mを測る。

検出遺構 標高3.9～3.5m（西側が高い）で第1面を設定した。東側は暗褐色砂、西側は黒灰褐色砂質土、一部黄灰色シルト整地層となる。土坑35（うち近世4）、井戸2、柱穴多数を検出した。一部近世、他は11～14世紀の遺構である。次に標高3.4～3.2m（東側が高い）で第2面を設定した。褐色砂、西側は暗褐色砂質土である。土坑30、柱穴多数を検出した。主に11～13世紀の遺構だが、東側は古墳時代～奈良時代の遺構がある。第3面は東側が標高3.2m、西側が2.5mとなる黄褐色砂～浅黄色砂上面に設定した。土坑14以上、溝状遺構3、竪穴住居3?、柱穴多数を検出した。中央に下端幅6mの壇状落込みがあり、東側は幅1.5～2mのテラスを経て立ち上がる。第3面の遺構は古墳時代前期～後期、飛鳥～奈良時代が主体である。

出土遺物 総量で125箱分がある。古代後期～中世前期の土師器、輸入陶磁器、瓦器、黒色土器、古墳後期～奈良時代の土師器・須恵器、古墳前期の土師器、朝鮮半島系土器（瓦質・陶質）、弥生土器、各時代の石製品、鉄製品、銅製品（古代の權衡具など）がある。鍛冶関係遺物（縄羽口、鉄滓）があり、主に古墳時代の所産とみられる。

まとめ 壇状落込みは大型古墳（前期か）の周溝の可能性がある。また包含層への二次的流入だが、朝鮮半島系土器が数点以上あり、特筆される。

調査報告書は2008年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(49 天神 121 1:8000)



2. 調査区第1面全景(西から)



3. 第3面SX301壇状落ち込み(南から)

0647 博多遺跡群第167次調査(HKT-167)

所在地 博多区博多駅前1丁目76-1 調査面積 288m² (×3面)

調査原因 納骨堂建設 担当者 小林義彦

調査期間 2006.10.20～2007.1.24 処置 記録保存

位置と環境

博多遺跡群は、博多湾にむかって開口する福岡平野北端の御笠川と那珂川に挟まれた古砂丘上に立地する。第167次調査区は、この博多遺跡群を形成する陸側の古砂丘「博多濱」東縁の砂丘が御笠川にむかって緩やかに低くなる緩斜面上に位置し、調査区の西辺には2基の前方後円墳のほかに弥生時代から古代・中世までの遺構群が重層的に拡がっている。

検出遺構

本調査では、古代～中世（第1面）と古墳時代（第2面）の2面の遺構面を検出した。

第1面は、10～13世紀代の遺構面で、井戸跡2基と土坑8基のほかに柱穴を検出した。このうち1001号土坑は、土師器壺と小皿の廐棄土坑で、2度にわたって投棄されていた。1053号土坑からは黄釉鉄絵文大盤が出土した。柱穴の中には円礎を敷いたものがあり、建物跡があった可能性が考えられる。

第2面は、古砂丘上に掘り込まれた古墳時代後期の遺構面で、竪穴住居跡2棟や土坑7基のほかに柱穴を検出した。また、第1面の上面からは100基を超す幕末～明治時代初めの近世墓が検出された。

出土遺物

検出した2面の遺構や遺物包含層からは、土師器や須恵器のほか中国陶磁器、土錘、石錘、石鍋などの多様な遺物がコンテナケース40箱出土した。また、近世墓には和鏡や鉄、櫛、漆器のほか六道鏡が副葬されていた。

まとめ

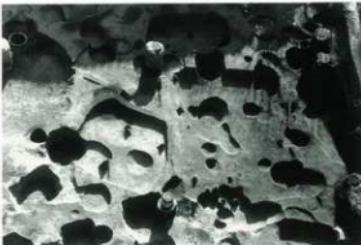
本調査では、古墳時代後期と古代～中世の概ね2時期の遺構を検出した。殊に古墳時代後期の住居跡は、御笠川（石堂川）に面した「博多濱」東部における集落域の拡がりと形成を窺うことが出来る好資料である。



1. 調査地点の位置(36 博多駅 0121 1:8000)



2. 第1面1053号土坑(東より)



3. 第2面2005・2006号住居跡(北から)

0648 箱崎遺跡第53次調査(HKZ-53)

所在地 東区箱崎3丁目2442-1 調査面積 495m²
 調査原因 共同住宅建設 担当者 藏富士 寛
 調査期間 2006.10.10~12.1 処置 記録保存

位置と環境 箱崎遺跡は多々良川・宇美川下流域に位置し、博多湾沿いに連なる砂丘上に存在する。弥生時代から近世にいたる複合遺跡である。調査地点は遺跡の北側に位置し、北側では第6・23・41次、西側では第29次の各調査がおこなわれている。

検出遺構 今回の調査は標高2.5m程の黄褐色砂質土(砂丘)上を遺構面と設定し、調査をおこなった。検出遺構には、溝、井戸、土坑、ピット多数がある。遺構の大半は16・17世紀以降のもので、現代の擾乱部分も多い。主要な遺構としては、北側で検出した溝(SD064・065)がある。これは幅1.5~2.0m、深さ0.8~1.0mを測る大形のもので、出土遺物をみれば、16世紀をさかのぼるものではない。尚、中世前半に位置づけることのできる遺構もいくつかは存在する。調査区中央で検出した井戸(SE120・130)は、出土遺物より12~13世紀前半に位置づけることができる。

出土遺物 国産陶磁器、輸入陶磁器、瓦質土器、土師器などコンテナ17箱が出土した。

まとめ 摻乱部分も多く、遺構の遺存状況は良いものではなかった。大半の遺構は16世紀以降のもので、中世以前にさかのぼるものは少ない。当調査地点は砂丘の高所に当たること、そして中世以前の遺構は井戸等、掘り込みの深いものしか残っていないこと等を考えれば、中世以前の遺構は削平により、失われている可能性が高い。

なお、報告書は2007年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(34 箱崎 2639 1:8000)



2. 調査区東半(南西から)



3. 調査区西半(南西から)

0649 飯倉F遺跡第5次調査(IKF-5)

所在地 城南区七隈6丁目304他 調査面積 953.3m²
 調査原因 公園建設 担当者 阿部泰之
 調査期間 2006.10.16~11.30 処置 記録保存

位置と環境 飯倉F遺跡は、福岡市南部に位置する油山から北に延びる丘陵上にある。第5次調査区は、飯倉F遺跡が位置する丘陵の北端部に位置する。

検出遺構 検出された遺構は、掘立柱建物9棟・竪穴住居1軒・溝2条・土坑5基・竪穴状遺構3基・テラス状の削平部1・ピット多数である。丘陵上部は大きく削平されており、遺構は丘陵の端部に沿って集中的に検出された。これに対し南西部はほとんど遺構は見られない。

出土遺物 調査で出土した遺物は、テラス状の削平部の堆積土からまとまった量の弥生土器が出土したほか、鍛先とみられる鉄製品が1点出土した。掘立柱建物等の遺構からは弥生土器・須恵器が出土したが、細片で量も少ない。遺物総数はコンテナ44箱がある。

まとめ 今回の調査では、掘立柱建物・竪穴住居・溝・土坑・竪穴状遺構・テラス状の削平部等を検出した。テラス状の削平部は丘陵の北斜面に検出されたが、テラス部に遺構は検出されず、テラスの役割を現場で確認することはできなかった。掘立柱建物はテラスの堆積土を切って建てられ、古墳時代から古代にかけての建物と思われる。平面の形態は複数あり、時期に差があると推測される。竪穴住居はベッドを有し炉跡を挟んで2基の主柱穴を持つ。弥生後期後半から終末にかけての住居か。溝は住居址を切る。細く流水の跡は見られない。土坑は中央に杭の痕跡を有するものがある。遺物はほとんどなく落とし穴と推測される。今回の調査地は弥生時代後期から古代にかけての集落の一部と考えられる。

調査報告書は2007年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(74 七隈 0253 1:8000)



2. 調査区北部(東から)



3. 調査区南部(東から)

0650 箱崎遺跡第54次調査(HKZ-54)

所 在 地	東区馬出5丁目95他	調 査 面 積	333m ²
調査原因	道路建設	担 当 者	荒牧 宏行
調査期間	2006. 10. 26～2. 28	處 置	記録保存

位置と環境 砂丘に立地した箱崎遺跡群の南側で、箱崎宮から南側に約120mに位置する。道路建設に伴い略東西方向に調査が進め、その東端部分となる。地山の砂丘砂は標高2.60～2.75mで西側に傾斜している。



検出遺構 遺構面は4面以上が確認されたが調査期間に制約され、およそ2面の調査となった。

検出された井戸や溝は上面の黒色土を切り、全体で検出された遺構の大半は上面からの掘り込みとみられる。

略東西方向に3条の溝が平行して検出された。地割に沿ったものとみられ、注目される。特に、この中の1条は深く断面の形状はV字をなす。さらに、中世末に掘り直され下底に捨石が続いていたことから大きな基準となっていたと考えられる。

井戸は2カ所に集中し、計12基以上が検出された。柱穴の密度は濃いが、大半は下面で検出され、桶井側の井戸に切られている。

出土遺物 総量にしてコンテナ86箱分が出土した。上面の黒色土（整地土）には白磁碗の完形品3個重ねた遺構が検出された。また、瓦当を含む瓦片も比較的多く出土し、焼土が集中する部分もみられた。

1. 調査地点の位置(34 箱崎 2639 1:8000)



2. 調査区東半全景(西から)



3. 中世末SD06(西から)

まとめ 地割の基準となる略東西方向の溝の中世末の掘り込みは上面で検出されたが、その深さは20cm程度である。また、この黒色土上面からは礎板となる平石も検出された。従って、中世末以降の掘り込み面はさらに上部にあることが考えられる。少なくとも、この上面の黒色土を除去した面からは当該時期の遺構を検出することは難しくなる。既往の調査成果と今後の調査計画の検討を要す。

報告書は平成19年度刊行予定である。

0651 大塚遺跡第9次調査(OTS-9)

所在地 西区今宿町字大塚 調査面積 2,050m²
 調査原因 伊都土地区画整理 担当者 木下博文
 調査期間 2006.11.7~2007.3.27 処置記録保存

位置と環境 大塚遺跡は高祖山から北に伸びる丘陵上に位置し、古墳時代後期の前方後円墳である大塚古墳が築造されている。今回の調査地は、東隣の今宿五郎江遺跡との間に形成された南北の谷筋に当たり、計6地点を調査した。

検出遺構 谷筋に堆積した弥生時代中期～後期の遺物包含層、古墳時代前期の祭祀跡、時期不明の掘立柱建物跡4棟、ビット、土坑を検出した。

出土遺物 弥生時代中期後半～後期終末の土器、古墳時代前期の小型丸底壺・手捏土器や滑石製有孔円板、玉類（ガラス小玉、滑石製白玉・勾玉）といった祭祀遺物一括、石器（立岩産石包丁・石鍬）、木器・斜格子たたきの瓦、円筒埴輪片が出土した。コンテナ346箱分にのぼる。

まとめ 特に顕著な成果として、谷の奥部に位置する第1地点では今宿五郎江遺跡側から投棄されたと見られる弥生時代後期～終末の大量の土器群が検出され、中には脚台付片口鉢が含まれていた。大塚遺跡側の丘陵肩に当たる第3地点では、谷に直交する溝状の落ち込みに古墳時代前期の祭祀遺物が大量に投棄されていた。近辺でも古墳時代前期の遺構・遺物は顕著でなく、古墳時代後期に大塚古墳が築造されるまでの当該地域の様相を知る貴重な成果である。大塚遺跡側の丘陵上に当たる第5地点では西半で掘立柱建物跡4棟を検出した。道路を挟んだ西側の大塚遺跡第10次調査でも掘立柱建物がまとめて検出されており、それらとの関連もうかがえる。

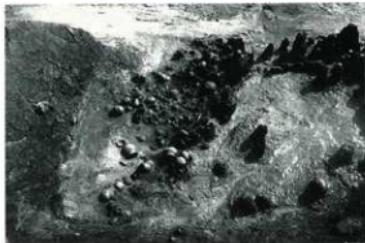
調査報告書は2009年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(112 今宿 0625 1:8000)



2. 調査区全景（南から）



3. 祭祀跡SX01（西から）

0652 田村遺跡群第21次調査(TMR-5)

所在地 早良区田村4丁目8・9・15番地内
 調査原因 道路建設
 調査期間 2006. 11. 8～2007. 4. 27

調査面積 3,977m²
 担当者 加藤良彦
 处置 記録保存

位置と環境 遺跡群は福岡市の西部、室見川が貫流する早良平野の東部中央の沖積高地に立地し、東西約760m、南北約850mの範囲に広がり、標高は15～17mを測る。今回の調査は遺跡群東部を南北に貫通する幅27mの道路の新設工事に伴うもので、遺跡の確認されたブロックごとに南から1～4区の調査区を設定した。現況は水田と宅地である。昭和58年度実施した第4次調査の南北に隣接する。遺構は耕作土下の明黄褐色シルト上で検出され、部分的に暗褐色土の中世から縄文時代包含層が残る。

検出遺構 検出した遺構は、縄文時代晩期の土坑20基、弥生時代前期末を中心に土坑2基・溝7条、古墳時代前期溝1条・土坑2基、中世土坑29基・溝27条・掘立柱建物7棟以上・井戸3基で、縄文時代晩期と中世が中心を占める。

出土遺物 遺物は、包含層・土坑から縄文時代晩期の土器・石器を、中世溝・土坑を中心に土師器壺・皿・瓦器・土器窯壁・貿易陶磁器など、総量でコンテナ22箱分を検出している。

まとめ 縄文時代晩期は中頃を中心とし、特に北側の第4区で全体の半数を占める11基の土坑が検出され、弥生時代前期末・古墳時代前期・中世初めの溝は西に弧を描いて延びており、遺跡東部に、中心城区とは別個の集落を形成する可能性がある。中世の遺構は南部と北部に中心があり、掘立柱建物は東西棟が多く、また、3基の土坑から多量の炭灰層と土器焼成台・窯壁・瓦器壺が廃棄された状態で検出された。全体的に瓦器の出土比率が高く、第15次調査でも土器焼成台が出土しており、11世紀後半から12世紀初めにかけて早良平野での土器生産拠点の可能性がでてきた。



1. 調査地点の位置(84 重留 0317 1:8000)



2. 調査1区全景(南から)



3. 土器窯壁出土状況(東から)

0653 野多目B遺跡群第2次調査(NMB-2)

所 在 地 南区野多目4丁目735番 調 査 面 積 120.9m²
 調 査 原 因 携帯電話基地局建設 担 当 者 赤坂 亨
 調 査 期 間 2006.11.13~12.18 处 置 記録保存

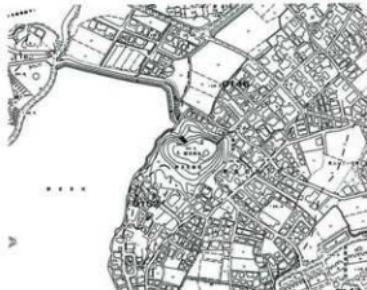
位置と環境 野多目B遺跡群中央部、照天神社境内地の丘陵西側斜面の調査で、調査地点は標高約26~29mを測る。丘陵一体は福岡市指定の巨木の多く残る広葉樹林であり、福岡市の景観保全地域である。野多目B遺跡群では丘陵下の平地部で第1次調査が行われているが、丘陵上の調査は今回が初めてである。丘陵上には野多目古墳群が存在しているが、現状で墳丘は確認できず、詳細は不明。丘陵西側の野多目大池では明治期に石器を採集したという記録が残っている。

検出遺構 土坑3基、竪穴式住居1基、溝1基、ピットを検出した。土坑SK-1は斜面下側がややフラスコ状になっているピットであり、黒曜石の破片が多く出土した。縄文時代の遺構である。土坑SK-2は深さ10cmほどの浅い凹みで、古式土器師窯の胴部が出土した。古墳時代の遺構である。土坑SK-3は木の根痕が多数入り込んだ浅い凹みで、遺構でない可能性もある。SC-4は推定で一辺5.5mを測る方形の竪穴式住居である。壁溝が良好に残存していた。住居内南東側にピットがあり玄武岩の砥石が置かれていた。須恵器杯蓋・甕などが出土した。時期は古墳時代中期である。溝SD-5は竪穴式住居SC-4の斜面上側に巡る溝で、遺物は少ない。竪穴式住居に伴う溝であろうか。

出土遺物 遺物は土器・須恵器・石器などコンテナ2箱分出土した。

ま と め 丘陵斜面上部で縄文時代の土坑、斜面中腹の傾斜変換地点で古墳時代中期の竪穴式住居を検出した。野多目B遺跡の丘陵は、現在森林になっているが、丘陵上部平坦面だけでなく、丘陵全体に遺構が分布している可能性がある。

調査報告書は平成19年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(40老司 0146 1:8000)



2. 竪穴式住居SC-4(北東から)

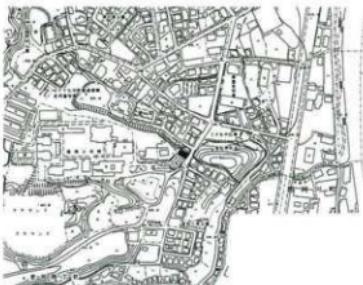


3. 調査区全景(南から)

0654 老司瓦窯跡第1次調査(RJK-1)

所在地 南区老司4丁目584-2 調査面積 265m²
 調査原因 法面改修工事 担当者 榎本義嗣
 調査期間 2006.11.15～2007.1.24 処置 埋め戻し保存

位置と環境 老司瓦窯跡は、福岡平野を北流する那珂川の西岸に位置し、片縄山から派生する花崗岩基盤の丘陵上に占地している。調査地点は東側に派生する支丘の東側斜面上に立地し、現況の標高は、東側（谷側）で約22m、西側（尾根側）で約31mを測る。なお、同瓦窯跡は、1936年の道路開削工事中に発見され、周知されることとなったが、規模や構造、範囲等は不明確なまま現在に至っていた。また、以後の研究によって出土瓦が大宰府系古瓦の祖形の一つに位置付けられ、觀世音寺の創建瓦として供給されたことも判明している。



1. 調査地点の位置(40 老司 2408 1:8000)

検出遺構 確認した遺構は、丘陵東側斜面に構築された瓦窯跡1基（1号瓦窯跡）で、構造は地下式登窯である。窯は天井およびその上部が落盤し、上層に搅乱も認められたが、焚口から煙道までが良好に遺存していることが判明した。

これを受けて、土地所有者である法務省や関係機関と協議を行った結果、大幅な工法変更により現状保存される運びとなった。また、この段階では、調査途中のため、瓦窯跡の詳細な構造や規模等は不明確であったが、防災上の理由から工事を優先させることや工事終了後の2007年度当初から調査を再開することも決定した。そのため、土嚢や板パネル等で遺構の養生を行い、一旦1月24日に調査を終了した。



2. 1号瓦窯跡検出状況(南東から)

出土遺物 調査途中のため、表土や搅乱中から採集した遺物が大半であるが、老司I式の軒瓦をはじめ、平瓦、丸瓦、贊斗瓦、須恵器、壁体等がコンテナケースにして39箱出土した。



3. 窯内部遺物出土状況(南から)

まとめ 周辺地形の改変が進む中、戦前の発見から70年を経て、明確な瓦窯跡の存在が確認できた。窯の詳細な操業状況や灰原等については、再開する調査に期したい。

調査報告書は2008年度に刊行予定である。

0655 今宿五郎江遺跡第12次調査(IZG-12)

所在地 西区今宿町字前田 調査面積 1,340m²
 調査原因 土地区画整理 担当者 加藤隆也
 調査期間 2006.12.1~2007.3.9 処置 記録保存

位置と環境 今宿五郎江遺跡は、高祖山（標高416m）から北へ延びる丘陵末端部の低い台地上に位置している。地理的には糸島平野東部の海岸部にあたり、東を叶岳・長垂山、西を高祖山の山塊に囲まれた小平野が形成された場所である。本遺跡のある台地は、標高6m程で北側に向けて急激に低くなっている。五郎江の集落は当時の海岸線に近接していたと考えられる。

検出遺構 今回の調査対象地は、今宿五郎江遺跡を巡る環濠部とその外側地域である。外側の集落遺跡は、環濠がその機能を失った弥生時代後期後葉以降のものが主体をなす。環濠の状況は、第11次調査の成果と同様に、弥生時代中期末に埋没しはじめていた自然谷を、弥生時代後期に掘削して環濠の一部としている。今回の調査で新たに見られたものに「井泉」がある。井泉は環濠の掘削時にあわせて敷設されており、略円形の掘り鉢形に深く掘削し、オーバーフローした水は環濠内に流れ込む構造となっていた。

出土遺物 出土遺物は弥生時代中期末、後期後半から弥生時代終末期の遺物が大量にあり、特に環濠内から出土した木製品は、その保存状態が良好であった。遺物の総量はコンテナケースで483箱分である。

まとめ 今回の調査では、環濠内から多くの土器とともに大量の木製品が出土した。それらは生活用具、工具・農具・漁具、盾や短甲の武具など多種多様なものが含まれており、当時の生活環境を復元するための貴重な資料を得た。また、石鍤をはじめとする多くの漁具とともに中国の貨泉や朝鮮半島の土器も出土することから、この集落の人々は漁労を生業のひとつとし、そして海上交通に強く関係していた集団であったと、その地理的立地環境からも推測される。

報告書は平成20年度以降の刊行予定である。



1. 調査地点の位置(112 今宿 0625 1:8000)



2. 調査区全景(北から)



3. 木製品出土状況(西から)

0656 博多遺跡群第168次調査(HKT-168)

所在地 博多区中呉服町126

調査面積 188.5m²

調査原因 共同住宅建設

担当者 蔵富士 寛

調査期間 2006.12.1~2007.1.23

処置 記録保存

位置と環境 博多遺跡群は福岡平野を流れる那珂川、御笠川に挟まれた砂丘上に存在する。調査地点は外側の砂丘、いわゆる「息濱」の内陸側端部に相当し、南東側では98次・100次・150次の各調査がおこなわれている。

検出遺構 今回の調査は、標高2mの暗褐色砂質土上を第1面、標高1.5mの褐色砂質土上を第2面、標高0.5mの黄褐色砂上を第3面とし、調査をおこなった。検出遺構は以下の通り。

第1面	中世後半～近世段階 井戸、土坑、ピットなど
第2・3面	12世紀後半～13世紀 溝、土坑、井戸、ピット

第2・3面の溝は少なくとも4条の存在を確認している。溝はいずれも南北方向に走っており、複雑な切り合い関係にある。最も新しい溝(SD074)は幅3mを超える大きなものである。時期は12世紀後半～13世紀である。なお、100次調査において検出した溝の続き(SD073)も確認している。

出土遺物 輸入陶磁器、国産陶磁器、土師器などが、コンテナ27箱出土した。

まとめ 今回調査の最も大きな成果は12世紀後半～13世紀の溝を数多く検出できたことであろう。同様の溝は、100次、150次調査においても確認されており、その性格究明が今後の課題といえる。

なお、報告書は2007年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(48千代博多 0121 1:8000)



2. 調査区全景(南区から)



3. 土坑(南東から)

0657 博多遺跡群第169次調査(HKT-169)

所 在 地 博多区紙園町313他

調査面積 36.3m²

調査原因 立体駐車場建設

担当者 吉留秀敏・本田浩二郎

調査期間 2006.12.4~12.8

処置 記録保存

1. 位置と環境

博多遺跡群第169次調査地点は博多遺跡群南半部の博多浜砂丘の中央部付近に位置する。同一申請地内では第156次調査が実施されており、第169次調査は残地部分となる立体駐車場を対象とした調査である。対象面積は36m²前後であるが、シートパイル際などの遺構については安全性を考慮し一部を除いて完掘していない。

調査区現地表面の標高は4.80m前後を測る。第156次調査(既報告)では4面の遺構面が設定されていたが、調査対象面積が狭く場内での排土処理が困難であったことから、事前にGL-2m迄の鏟取りを行い調査に着手した。鏟取り作業立会の結果、GL-2m前後の暗褐色砂層面上までは過去の工事などによって攪乱されており中世前半期までの遺構面は消失していた。調査を開始した標高2.80m前後では、一部博多遺跡群の基盤層である褐色砂層面が確認できた。検出された砂面は西側方向に緩やかに傾斜しており、調査区東側付近に砂丘頂部が位置しているものと考えられた。

調査作業は表土鏟取りなどの条件整備が整った12月4日に着手し、12月8日に終了した。調査にあたっては関係各位から多大なご協力を得た。記して感謝する。

2. 検出遺構

遺構検出の結果、井戸・廃棄土坑・方形竪穴住居等を確認した(Fig.2参照)。シートパイル際で検出した井戸・土坑等の遺構については掘り下げによる壁面の崩落が予想されたため、検出面から1m程度で掘削を断念している。

SK-01 (Fig.2)

調査区南東部で検出した廃棄土坑であり、出土遺物より十二世紀初頭の時期と考えられる。検出面から底面までは1m程度、平面形は直径1.2mの円形を呈する。土師器・瓦器・白磁・中国陶器などの遺物がコンテナ1箱分出土した。



1. 調査地点の位置(49天神 0121 1:8000)



2. 調査区全景(西から)



3. 竪穴住居完掘状況(北西から)

SK-04 (Fig.2)

調査区北端部で検出した土坑で遺構の南側のみを確認した。直径80cm程度の円形土坑か。検出面から底面までは30cm程度を測る。白磁碗などの遺物が出土した。

SK-12 (Fig.2)

調査区中央部で検出した土坑である。西側半部については未掘のため全体な形状は不明確。検出できた東側では梢円形を呈する土坑で、北側に段を一段有する。検出面から底面までは20~50cmを測る。須恵器・土師器などが出土した。

SC-15 (Fig.3)

調査区東側で検出された方形堅穴住居であり、一辺6.20m前後に復元されるが、東側半分は調査区外へ延びるため全容は不明確である。検出面から住居床面までは35cm程度を測る。住居床面中央部付近には浅い中央土坑があり、主柱穴は4本柱となる。住居西側壁の南寄りの箇所にカマドを配する。カマド本体は廃棄土坑により消滅するが、壁面にとりつくように焼けた黄褐色砂および赤変化した砂層が確認できる。柱穴には柱痕が残り、柱間は約3mとなる。出土遺物より4世紀代の住居と考えられる。

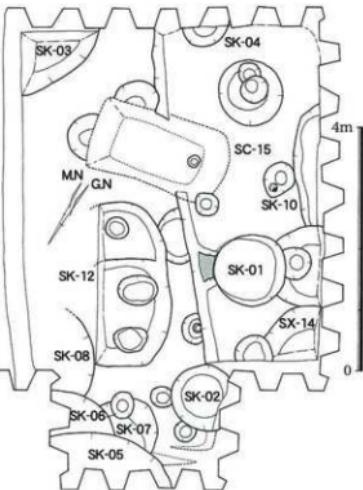


Fig. 2 遺構実測図 (S=1/80)

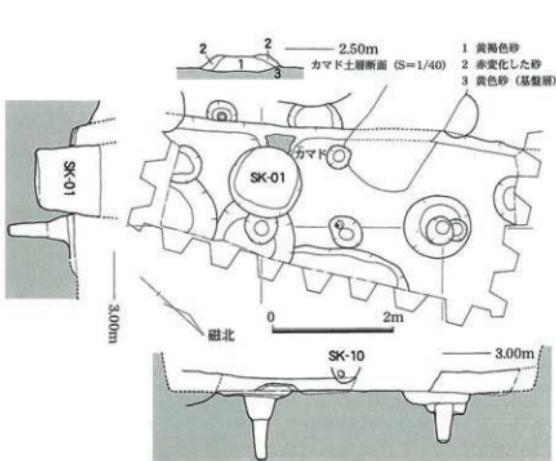


Fig. 3 SC-15実測図 (S=1/80 · 1/40)

3. 出土遺物

遺物は土師器・須恵器・貿易陶器など合計5箱分が出土した。遺物は大きく分けて古墳時代初頭・古墳時代後期・古代・中世前半期の四時期に分けられる。出土地点・器種については図中に示した。

1・4は古式土師器壺である。1は口縁部から体部上半部にかけて刷毛目をナデ消す。2は高坏坏部片である。色調は赤褐色を呈し、外器面に密なヘラ磨きを施す。3は高坏脚部片である。内外器面ともに密なヘラ磨きを施し、色調は赤褐色を呈する。5は小型二重口縁壺である。口縁部が欠

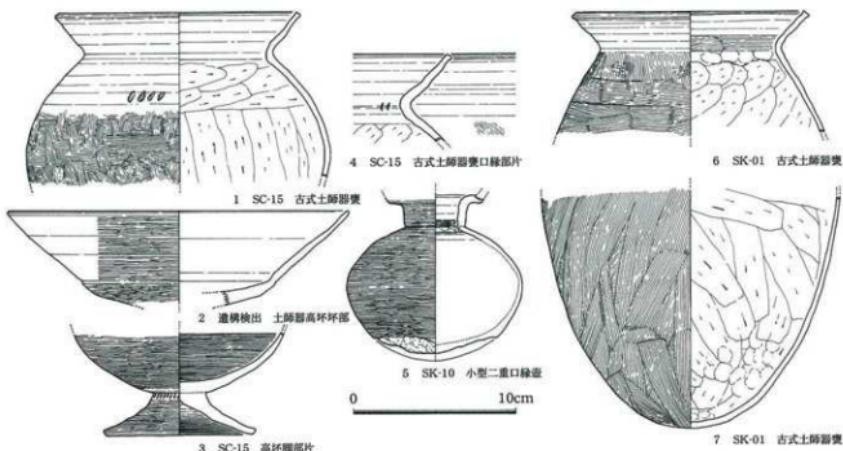
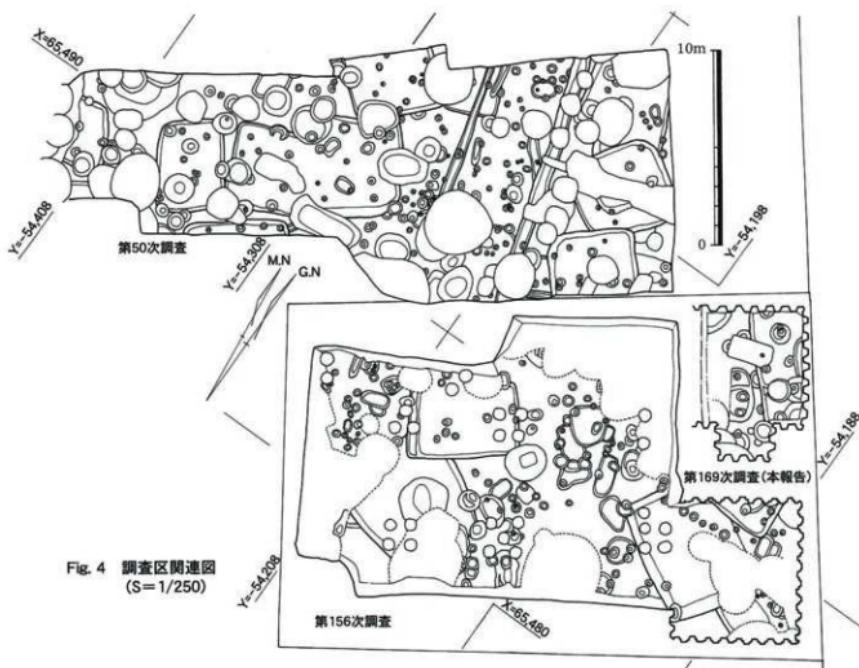


Fig. 5 出土遺物 ($S=1/3$)

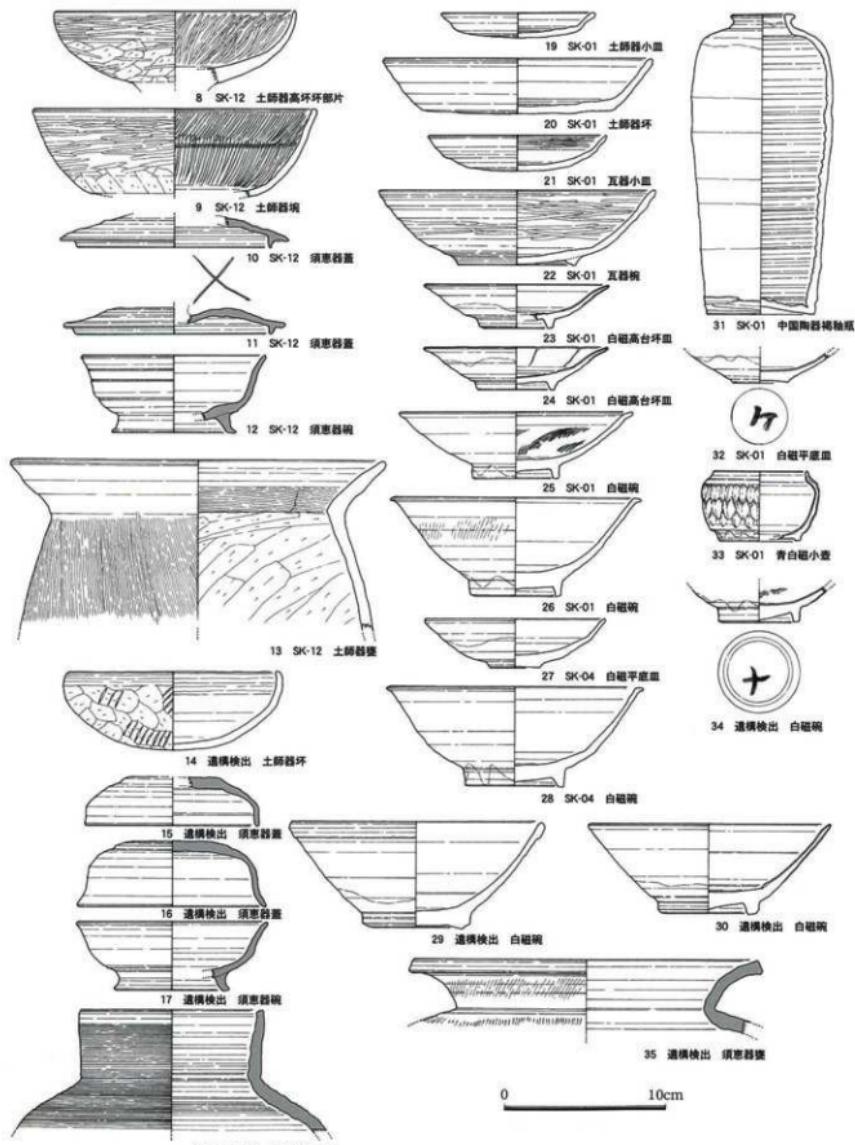


Fig. 6 出土遺物 2 (S=1/3)

損し底部は円形に焼成剥離する。色調は赤褐色を呈し、外器面にはヘラ磨きが密に施される。6・7は古式土師器壺である。同一個体ではないが、いずれも胴部がやや長胴となる。7は底部付近に指頭圧痕が残る。

8は土師器高杯坏部である。内器面に放射状の密なヘラ磨きを施す。9は土師器壺である。口唇部に段を設け、内器面には二段に分けて放射状にヘラ磨きを施す。8・9ともに色調は赤褐色を呈する。

10・11は須恵器蓋である。11は「X」状のヘラ記号が見られ、摘み部は欠損する。12は須恵器壺である。外器面に沈線を三条巡らす。13は土師器甕である。体部には縦位の刷毛目調整を施す。

14は土師器壺である。口縁部は端部で内反し外器面はヘラ削りで調整する。15・16は須恵器蓋である。17は須恵器壺である。18は須恵器短頸壺である。外器面はカキメが良好に残る。35は須恵器甕口縁部である。頸部には波状文の一部が残り、胴部には並行叩き痕が残る。19は土師器小皿で底部をヘラ切り調整する。20は土師器壺で底部をヘラ切りする。21は瓦器小皿で内器面にヘラ磨きを施す。22は瓦器甕であり内外器面にヘラ磨きを施す。23・24は白磁高台壺皿で、25・26は白磁碗である。25は内面に櫛描文が施される。31は褐釉陶器の瓶である。32は白磁平底皿で底部に墨書が残る。33は青白磁小壺である。口縁部は口禿とし、底部は露胎とする。

27は白磁平底皿で、28は白磁碗である。29・30は白磁碗である。29は玉縁口縁となる。34は白磁碗であり、高台内に「十」の墨書が残る。

4.まとめ

調査面積が36m程度と狭く、古墳時代初頭から中世前半期の遺構群を確認したに留まるが、連綿と遺構が営まれたことが調査成果として挙げられる。特に古墳時代初頭に位置づけられるカマドを伴う住居は、これまで西新町遺跡では確認されていたが博多遺跡群内では初めての検出例であり、貴重な資料と言えよう。調査区一帯は博多浜砂丘南側斜面上に位置し、海岸から風濤を受けにくいという立地条件から集落が展開したことが容易に推測される。



4. SK-01完掘状況(南から)



5. SC-15カマド検出状況(北から)

0658 井尻B遺跡第28次調査(IJB-28)

所在地 南区井尻4丁目170-12

調査面積 240.6m²

調査原因 共同住宅建築

担当者 赤坂 亨・阿部 泰之

調査期間 2006.12.11~2007.1.3

処置 記録保存

位置と環境

12次調査地点の南隣接地の調査である。既存建物によって搅乱を多く受けている。表土掘削時に家型埴輪の一部が出土した。調査区から北西の道路を挟んだ向かい側の位置にある、埴輪を出土した井尻B1号墳と関連する遺構の存在が推定された。



1. 調査地点の位置(25 井尻 0090 1:8000)

検出遺構

弥生時代終末～古墳時代初頭の竪穴式住居5棟、円形溝1条、溝1条を検出した。竪穴式住居SC-1は平面コの字を呈するベッド状遺構をもつ。SC-7もベッド状遺構をもつようだが、遺構の大半は調査対象外のため全容は不明である。他の住居跡は削平の影響もあるが、遺構の掘り込みが浅く、また搅乱に切られていって、残存状態が不良である。

出土遺物

遺物は土器・埴輪などがコンテナ5箱分出土した。家型埴輪・円筒埴輪片は竪穴式住居SC-7上層の包含層から出土した。2次調査等で確認された旧石器時代遺物はローム層から検出されなかった。また、遺構覆土からの石器の出土もみられなかった。

まとめ

本調査地の北側に位置する。12次調査とほぼ同時期・同内容の遺構を検出したが、遺構密度は本調査地点の方が薄い。埴輪片が表土掘削時に出土し、本調査地内に井尻B1号墳の関連遺構が存在することが推定されたが、調査で出土した埴輪はいずれも包含層からの出土であった。本調査地内まで井尻B1号墳の関連遺構が延びてくることはないと考えられる。

調査報告書は平成19年度に刊行予定である。



2. 調査区東半全景(西から)



3. 竪穴式住居SC-1・2(東から)

0659 大塚遺跡第10次調査(OTS-10)

所在地 西区今宿町345-1外 調査面積 2,789m²
 調査原因 区画整理 担当者 今井 隆博
 調査期間 2006.12.8~2007.3.14 処置 記録保存

位置と環境 大塚遺跡の位置する今宿平野は糸島平野の東縁部に位置する小平野である。大塚遺跡は今宿平野の高祖山麓東北部、北へ長く伸びる低丘陵の先端近くに立地し、本調査地点は遺跡の北端に位置する。

検出遺構 現地表より50~100cm程で赤褐色粘質土の地山となり、この面を遺構面とした。南から北に緩やかに下がる。標高は3.5~4.5mである。遺構密度は非常に薄い。検出した遺構は掘立柱建物7軒、土坑3基、ピットである。土坑は焼土坑1基、1辺1m程の方形土坑1基、4m×3m程の不明土坑1基であった。

出土遺物 小片が多く器形を識別できるものはほとんどない。土師器片、須恵器片、瓦小片、鉄滓などが出土地した。時期を判断できる遺物は少ないが、方形土坑(SK004)からは黒色土器A類が出土しており、9世紀頃と思われる。総量でコンテナケース3箱分である。

まとめ 調査区中央付近は削平によりほとんど遺構は見られず、遺構の大半は東端と西端で検出された。今回の調査は出土遺物が非常に少ないと時期決定に不安があるが、古代と思われる掘立柱建物と土坑が検出され、当時の集落の様相を知る一資料を得ることができた。東側の道を挟んだ第9次地点でも掘立柱建物が確認されており、計10軒ほど建物が確認されている。掘立柱建物群より北側はほとんど遺構がなく、その付近が大塚遺跡の北限と思われる。

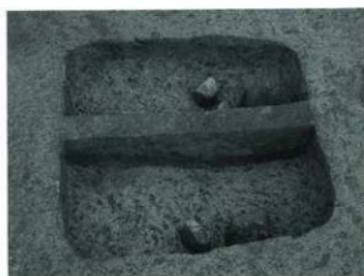
調査報告書は2008年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(112 今宿 1:8000)



2. 1区掘立柱建物(北西から)



3. SK004遺物出土状況(西から)

0660 今宿地区古墳群第3次詳細分布調査

所在地 西区女原・谷・上ノ原地内 調査面積 62 ha
 調査原因 保存目的(分布調査) 担当者 杉山富雄
 調査期間 2006.12.15~2007.3.30 处置 原状保存

位置と環境 今宿平野の後背地となる高祖山・鐘撞山麓から丘陵末端にかけての地形は、基盤となる花崗岩の深層風化の結果、複雑に開析されて放射状の尾根が発達している。また、丘陵末端は段丘を形成し、博多湾奥に発達した沿岸砂丘により形成されたラグーン中に突出している。

本調査は平成16年度から継続して実施している。

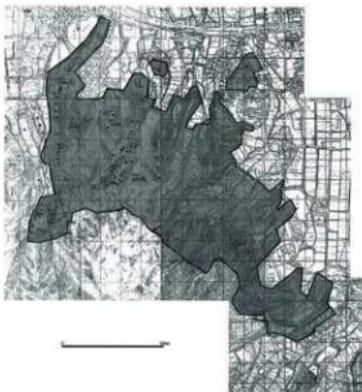
調査対象とする古墳群は高祖山・鐘撞山北麓の尾根上、山麓斜面、末端丘陵上に立地している。平成18年度調査は、中央部から東部分、今宿青木の谷底平野に面する25群を対象とした。

対象地域内では既に昭和44年度、昭和52年度の2度にわたり文化財分布調査が実施されているが、今回はその資料(文化財分布図、文化財調査カード)を基に調査を進めた。その結果、古墳239基を登録した。このうち、1基が前方後円墳、その他は円墳である。円墳のうち43基について

まとめ は新たに登録したものである。

分布図(初版、第2版)、文化財調査カード等の既存資料、植林地が増えて樹木の管理が行われている等、分布調査に有利な状況の変化も加わり、各群で未登録古墳を確認することができた。新規登録した古墳では、谷間に派生する尾根先端、丘陵尾根の分岐点近くの斜面に立地するものは、やや群を離れた位置への立地が特徴的である。また、古墳群をやや離れて確認するもので、斜面に立地するものは2基単位のものが注目される。

今回調査の目的のひとつである、古墳位置の正確な把握については、谷地、高木の密集地などのGPS観測に不利な条件下ではあるが、既存分布図(第2版)を較正するためのデータの蓄積を大きく進めることができた。



1. 調査地範囲(112 今宿ほか 1 : 25,000)



2. 上の原地区全景(東から)



3. 相原B群(南から)

0661 那珂遺跡群第115次調査(NAK-115)

所在地 博多区那珂1丁目40番地内 調査面積 141.3m²
 調査原因 個人専用住宅兼共同住宅建設 担当者 久住猛雄
 調査期間 2007.1.18~3.16 処置記録保存

位置と環境 那珂遺跡群は、福岡平野の中央部、那珂川と御笠川・諸岡川に挟まれた段丘上に立地する。調査地は遺跡群中央部の西側に位置し、敷地は周囲よりやや高い平坦な宅地である。調査地よりさらに西側は現況地形が急に低くなる。調査地の現地表高は9.80~9.95mを測り、調査地北側の前面道路の標高は9.0~9.2mを測る。

検出遺構 地表下25~40cmで遺構を検出した。このレベルで本来はローム地山上面となるが、遺構が非常に濃密度で存在し、検出面の大部分が遺構覆土であった。遺構の遺存度も全体に良好である。検出遺構は、6~7世紀（古墳時代後期～飛鳥時代）の柱穴多数、弥生時代中期後半～古墳時代前期の竪穴住居20棟以上（一部6~7世紀か）、弥生時代～古墳時代前期の土坑および柱穴多数、弥生時代前期～中期の貯蔵穴4基などである。6世紀後半（ⅢB期）から7世紀代（～VI期前半の柱穴は、比較的大型のものが多い。大型の柱穴（IV期～VI期前半）の覆土には、粗砂や粘土ブロックを含むものや、柱抜き跡に灰色粘土を詰めたものがある。これら柱穴には瓦片を含むものが多い。特に最後の建物と考えられる2×6間以上の回廊状建物（7世紀後半；V～VI期前半）の柱穴には、ほぼ全てに瓦片が伴っている。

出土遺物 総量でパンケース36箱が出土。弥生土器（前期初頭・中期・後期・終末期）、古式土師器、古墳時代後期～古代の須恵器・土師器、滑石製白玉、ガラス小玉、鉄製品がある。

まとめ 各時代とともに濃密な遺構群を検出した。特に6世紀末～7世紀の柱穴群は一般集落の建物ではなく、大型の柱穴かつ瓦を伴い、特異な覆土から整地層の存在が想定され、特別な公的施設（官衙）である可能性を示す。同一地点での継続的建替は、「中枢」地区であることを示唆するか。

報告書は2007年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(37 東光寺 085 1:8000)



2. 調査区全景(西から；線は回廊状建物を示す)



3. 柱穴SP1001(北から；IV期、柱抜き跡に粘土)

0662 大塚遺跡第11次調査(OTS-11)

所在地 西区今宿町字大塚

調査面積 4.018m²

調査原因 伊都土地区画整理

担当者 宮井 善朗・木下 博文

調査期間 2007.2.1~9.10

処置 記録保存

位置と環境 大塚遺跡は高祖山から伸びる南北の丘陵上に位置する。今回の調査地点の西側には古墳時代後期の今宿大塚古墳がある。また弥生時代後期の大溝が検出された今宿五郎江遺跡11次・12次調査地点の南、同9次調査地点の西に道路を挟んで隣接し、大塚遺跡と今宿五郎江遺跡の境界付近に当たる。

検出遺構 弥生時代後期の環濠、掘立柱建物、溝、同終末の竪穴住居とそれに伴う区画溝、土器棺墓を検出した。

出土遺物 弥生時代後期～終末期の土器、外来系土器（楽浪系）、石器（石斧・石錐・石包丁・砥石）、木器（鉛・鋤刃）、ガラス製品（小玉・勾玉など）、玉類（碧玉管玉・水晶切子玉未成品）、金属器（鉄斧・青銅製鋤先・中国製内行花文鏡片・銅鈴・銅鑓）が出土した。コンテナ624箱分にのぼる。

まとめ 今回検出した弥生時代後期の大溝は今宿五郎江遺跡第9・12次調査の大溝とつながることが判明し、今宿五郎江遺跡は東西200m、南北推定270mの長楕円形を呈する環濠集落であることが確定した。環濠内から大量の土器とともに、中国製銅鏡片やガラス製玉類、輝緑凝灰岩製石包丁の未成品などが出土しており、今宿五郎江集落の対外的性格や生産面で一考を要する成果が挙げられた。環濠外でも区画溝を伴う掘立柱建物、土器棺墓などが検出され、弥生時代後期～終末期の集中的土地利用がうかがわれる。

調査報告書は2010年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(112 今宿 0625 1:8000)



2. 全景(北西から)



3. 環濠SD65(北西から)

0663 老司瓦窯跡第2次調査(RJK-2)

所在地 南区老司4丁目584-2外

調査面積 48m²

調査原因 重要遺跡確認調査

担当者 榎本義嗣

調査期間 2007.1.25~3.30

処置 埋め戻し保存

位置と環境 老司瓦窯跡は、福岡平野を北流する那珂川の西岸に位置し、片縄山から派生する花崗岩基盤の丘陵上に占地している。調査地点は東側に派生する支丘の斜面上に立地する。なお、同瓦窯跡は、1936年の道路開削工事中に発見されたものの、規模や構造、範囲等は不明確なまま現在に至っていたが、第1次調査(調査番号:0654)によって、地下式登窯1基(1号瓦窯跡)を確認した。

調査の目的と方法 調査は同瓦窯跡の占地する福岡少年院や道路を隔てた老松神社の丘陵斜面を対象とし、瓦窯跡の分布範囲を確認することを目的とした。

地形の改変が進む中、比較的旧地形が遺存し、古瓦や炭化物の散布等が認められる箇所を対象とし、丘陵斜面に平行した計10本のトレンチ(A~Jトレンチ)を人力によって設定した。

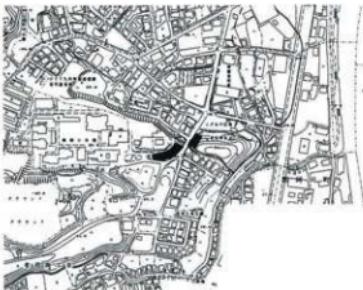
検出遺構 1号瓦窯跡の南側約10mに設定したFトレンチでは、現地表下に少年院造成時と推定される厚さ1~2mを測る客土がなされ、その下層の旧表土および斜面堆積層を除去した花崗岩バイラン土上で、段落ちを確認した。また、その内部には、炭化物や焼土、瓦、須恵器等が多量に堆積していた。

他のトレンチでは、客土を主体に瓦や須恵器等が出土したが、明確な遺構の確認には至らなかつた。

出土遺物 出土遺物量はコンテナケース4箱で、老司I式の軒瓦等の他、凹面に青海波状の當て具痕を有する瓦がFトレンチから出土している。

まとめ Fトレンチの成果からその斜面上方に瓦窯跡が存在する可能性があるが、確定には至らなかつた。2007年度当初から第3次調査を予定しており、1号瓦窯跡と併せて更に詳細な調査を行っていきたい。

調査報告書は2008年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(40 老司 2408 1:8000)



2. 調査前現況(南から)



3. Fトレンチ土層堆積状況(南から)

0664 箱崎遺跡第55次調査(HKZ-55)

所在地 東区馬出5丁目地内

調査面積 545m²

調査原因 道路建設

担当者 蔵富士 寛

調査期間 2007.2.1~5.29

処置 記録保存

位置と環境 箱崎遺跡は多く良川・宇美川下流域に位置し、博多湾沿いに連なる砂丘上に存在する弥生時代～近世にいたる複合遺跡である。今次調査地点は遺跡の西端に位置し、東側では1・13・27次等、数多くの調査がおこなわれている。おおむね11世紀後半～15世紀にかけての造構が検出されているようだ。

調査は、既存道路が存在するため、調査区を3分割（西・中央・東の各調査区）して調査をおこなっている。平成18年度は西侧調査区を中心とする調査を行なっている。

検出遺構 調査はまず、現地表下70～80cmに存在する暗赤褐色砂層上を第1面、更に30～40cmほど掘り下げた黄褐色砂層（砂丘面）上を第2面とし、調査をおこなった。調査は平成19年度に継続しており、この時点で判明している事実のみ述べる。西侧調査区では6条の溝、土坑、ピット群を検出した。土坑・ピットは12世紀後半～近世までのものを含む。溝は近世段階に掘削もしくは再掘削されているが、6条のうち、いくつかは12世紀後半～13世紀前半までさかのぼるようだ。溝はいずれも東西方向にややすれていて、現在の地割りにほぼ平行する。

出土遺物 現在までのところ、輸入・国産陶磁器、土師器等、コンテナ20箱ほどが出土している。

まとめ 西側調査区で検出した溝は、中央・東側調査区においても確認できる。溝の時期比定、そして性格の究明がこれからの課題といえるだろう。

なお、報告書は2008年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(34 箱崎 2639 1:8000)



2. 西側調査区(東から)



3. 溝(東から)

0665 箱崎遺跡第56次調査(HKZ-56)

所在地 東区箱崎1丁目2505ほか 調査面積 424m²
 調査原因 共同住宅建設 担当者 赤坂亨
 調査期間 2007.2.1~4.27 处置 記録保存

位置と環境 箱崎遺跡は博多湾岸に延びる箱崎砂層とよばれる新砂丘上に位置する遺跡で、東側を宇美川、北側を多々良川によって画されている。現在の大学通りのやや西側が標高のピークであり、東西は緩斜面となっている。本調査地点は西側緩斜面にあたり、地山砂丘の標高は1.9m~2.1mである。南側隣接地で第19次調査が行われている。

検出遺構 溝8条、井戸21基、土坑17基、性格不明遺構2基を検出した。井戸21基の内3基は近現代の井戸である。時期は13~14世紀が中心である。中世を遡る遺構は検出されなかった。性格不明遺構は一辺1~1.5mの正方形を呈し、強く被熱している。井戸は現在の町割りである大学通りの方向に平行するように一列に並んでいる。また溝も大学通りと平行あるいは、直行する方向に走るものが多い。現在の箱崎の町割りが13~14世紀ごろには成立していたということであろう。

出土遺物 遺物はバンクケース44箱分出土した。土師器・輸入陶磁器・国産陶磁器・石製品などである。時期は13~14世紀が中心である。また、近世の廃棄土坑からは近世の瓦・陶磁器が多量に出土している。

まとめ 本調査地点からは中世を遡る遺構は検出されず、13~14世紀になってから土地利用されるようになったものと推測される。ただし、隣接する調査地点では遺構検出の状況が異なり、箱崎遺跡西側緩斜面全体に普遍化することは難しく、今後の資料蓄積が必須である。また溝の方向については箱崎の町割り成立を考える一材料になるであろう。

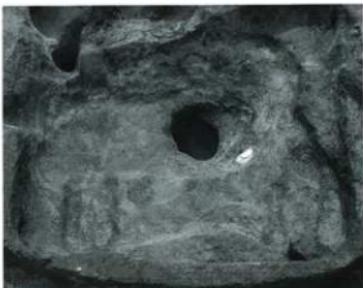
調査報告書は平成20年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(34 箱崎 2639 1:8000)



2. 調査区北半全景(南から)



3. 性格不明遺構SX-31(西から)

0666 比恵遺跡群第111次調査(HIE-111)

所在地 博多区博多駅南4丁目9-32 調査面積 163.5m²
 調査原因 集合住宅建設 担当者 阿部泰之
 調査期間 2007.2.7~2.28 処置 記録保存

位置と環境 比恵遺跡群は、福岡平野のほぼ中央部、最高所で標高11m前後を測る低丘陵上に位置し、縄文時代から中世にわたる時期の遺構・遺物が確認されている。今回の調査地点は比恵遺跡群のほぼ中央に位置し、山王公園から南西に約250mを測る。

検出遺構 今回の調査では、弥生時代後期の掘立柱建物1棟・土坑2基・建物を構成しない柱穴・ピットを検出した。調査地は既存建物の基礎構築に伴う擾乱が多く、遺構の残りは悪い。

出土遺物 遺物は、弥生土器がコンテナケース4箱程度出土した。大半が弥生時代後期の範疇に属するものである。大半の個体が小片である。

まとめ 今回の調査では、弥生時代後期の掘立柱建物1棟・土坑2基・建物を構成しない柱穴・ピットを検出した。遺物は弥生時代の土器が大半で、据え置かれた状況を示すものはない。削平が激しく遺構・遺物ともに少ないが、道路を挟んで南に隣接する7次調査でも弥生時代後期の大形掘立柱建物群が検出されており、今回検出した掘立柱建物はそれに続く遺構と推測される。

調査報告書は2007年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(37 東光寺 0127 1 : 8000)



2. 調査区西側(南から)



3. 調査区東側(南から)

0667 都地遺跡群第7次調査(TZI-7)

所 在 地 西区金武2028番地の1

調査面積 10.5m²

調査原因 金武小学校物品庫改築工事

担当者 星野 恵美・吉留 秀敏

調査期間 2007. 2. 7

処置 記録保存

1. 調査に至る経緯

2007年1月23日、福岡市教育委員会総務部施設整備課より同市教育委員会埋蔵文化財第1課に西区金武2028番地の1における金武小学校物品庫改築工事と「ゆす」の樹木移設に伴う埋蔵文化財事前審査申請書が提出された。これを受け、埋蔵文化財第1課では同年1月31日に試掘調査を実施し、遺構を確認した。用具庫に関しては基礎の掘削が遺構面に及ばないため、慎重工事としたが、樹木の移設に伴う掘削は、遺構面に到達するため、記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

2. 遺跡の立地と環境

都地遺跡は西山から派生した段丘上に立地し、すぐ東側を室見川が北流する。都地遺跡群は中央部付近で、北側と東側へ延びる尾根に分かれるが、第7次調査地点は東側に延びる尾根の基部に位置する。調査区のすぐ南側では第5次調査が行われており、弥生時代の土壙、古代～中世の掘立柱建物、製鉄関連遺構を検出している。

3. 遺構と遺物

樹木の根の周囲を帯状に掘削した調査であった。南側は水道管で削平されていたが、他の部分は比較的良好に遺存していた。検出した遺構は溝1条とピット7基である。遺構面は花崗岩風化土であり、標高は約32.0mを測る。遺構面の直上に厚さ10cmの包含層が堆積する。包含層からは龍泉窯系青磁片、須恵器(遺物の番号7・8)、土師器(9 ヘラ切りの底部をもつ小皿)等が出土する。

SD05は東西方向に走ると思われ、北側の肩部のみの検出であった。土師器の小片が出土する。また、弥生時代中期の土器(10)が出土するが、混入であると思われる。SP01は北西側に位置し、長径1.0m、短径60+αcm、深さ30cmを測る。西側は深さ約5cmの段を有する。上層からは鉄滓が7点(2・3)、他に重さ84.74g分が出土する。他に須恵器(1)・土師器の小片が出土する。SP02はSP01を切り、深さは



1. 調査地点の位置(93 都地 0420 1:8000)



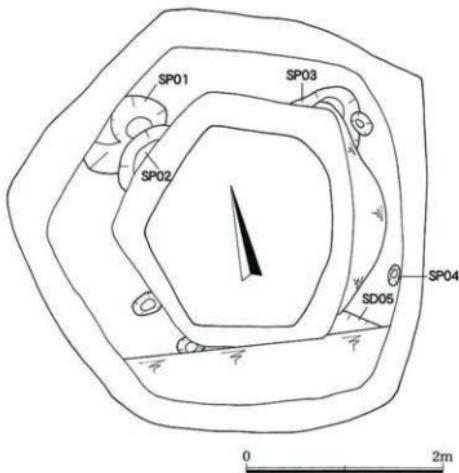
2. 調査区周辺図(1:2000)



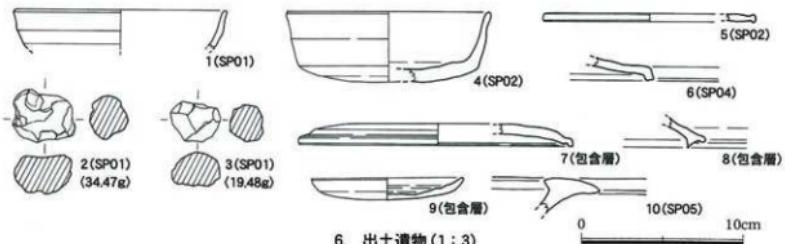
3. 調査区全景(西から)



4. SP01・02 (北西から)



5. 遺構配置図 (1 : 50)



8cmを測る。須恵器(4・5)の他に、磨滅した土師器が出土する。SP03は北東側に位置し、深さは13cmを測る。土師器の甕、坏身が出土する。SP04は径15~20cmの楕円形を呈し、深さは10cmを測り、須恵器(6)・土師器が出土する。

4. まとめ

今回の調査区の南側では第5次調査が行われており、8世紀代の製鍊炉、粘土貯蔵穴、鉄滓が出土するピット等の製鉄関連の遺構と遺物が検出されている。SP01からは鉄滓が出土しており、連続する遺構群であると考えられる。出土土器はいずれも小片ばかりであるが、8世紀を中心とし、遺構もこの頃の時期であると思われる。また、包含層中からであるが、12世紀頃の土師器の小皿、龍泉窯系青磁や弥生時代中期の遺物が出土することから、この時期の集落もあることが窺える。北側約100mに位置する中世城郭である都地城跡との関連も留意される。

0668 井尻B遺跡第29次調査(IGB-29)

所 在 地 南区井尻5丁目175-1

調査面積 87.2m²

調査原因 銀行店舗建設

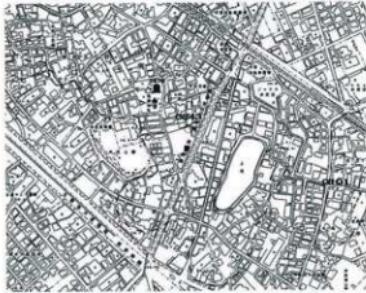
担当者 吉留秀敏・本田浩二郎

調査期間 2007.2.13~2.15

処置 記録保存

1. 位置と環境

井尻B遺跡は、御笠川・那珂川中流域の諸岡川と那珂川に挟まれた須玖丘陵の先端部に位置する。第29次調査地点は、遺跡範囲の中央部付近に位置する。事業地のうち930m²については1986年度に実施された第2次調査により発掘調査が完了していたが、改めて計画された予定建物が未調査範囲65m²に位置していたため、この範囲について発掘調査を実施した。現地表面の標高は14.30m前後を測る。調査は条件整備の整った2月13日に開始し、第2次調査の成果を元に表土掘削を行った。なお、調査にあたっては関係各位のご協力を得た。記して感謝するものである。



1. 調査地点の位置(25 井尻 0090 1:8000)

2. 検出遺構

検出した遺構は、弥生時代および古墳時代の溝遺構・土壙墓・土坑・柱穴などである。第2次調査と同様に過去の店舗建物基礎により遺構面は大きく削平を受けており遺構は底面付近のみが残存する状況であった。なお、第2次調査での遺構面の標高は14.30m前後であったが、今回調査区では14.00m前後となっており、削平が深く及んだ結果と考えられる。

検出した溝遺構 (SD-01・SD-02) は深さ10cm程度のみが残存するもので、確認した範囲も限られたものであり用途・性格については判然としない部分が多く残る。SD-01は主軸を東西方向に採る溝遺構で、第2次調査で検出されたSD-05と同一遺構である可能性がある。

調査区北東側で検出された弥生時代の土壙墓 (SK-04) は北側半分を擾乱されており、南側のみが残存する。現況で長軸1mを測り、検出面から底面までは5cm程度のみの残存である。北西側に頭部を向けており、頭部付近に赤色顔料が残存していた。第2次調査で確認された竪穴住居・方形周溝墓は今回の調査範囲内では検出されなかった。



2. 調査区全景(西から)



3. 竪穴住居完掘状況(北西から)

3. 出土遺物

今回の調査では弥生土器・土師器・須恵等の遺物がコンテナケース2箱分出土したが、いずれも細片資料である。調査地点北側17m地点には井戸B1号墳が存在しており、埴輪片などの関連資料の出土が予想されたが、今回調査からの出土はなかった。出土遺物をFig.4に示した。

1はSD-01より出土した弥生土器壺胴部突帯部片である。突帯部状に刻み目を巡らす。2はSD-01より出土した弥生土器高杯脚部である。3はSK-03より出土した土師器杯である。4はSK-03より出土した土師器甕である。外器面は刷毛目調整が施されるが磨滅により大部分が焼失している。5はSK-03より出土した土師器支脚である。外器面には縦位の刷毛目調整を施し、内器面には指ナデ痕が残る。

4. まとめ

調査対象面積が狭く、過去の建物基礎により大きく搅乱・削平を受けていたため遺構の残存状況はやや不良であったが、弥生時代から古墳時代にかけての集落および墓域が存在していることが確認された。検出された遺構の残存状況および周辺調査の成果より、本調査地点が土採り等により大きく削平され、旧地形から大きく変化していることが分かる。本調査のように再開発に伴い調査完了範囲外に開発が及ぶ場合についても埋蔵文化財保護のための処置が必要となるが、再開発が活発となつた今後はこのような事例がさらに増加するものと予想される。

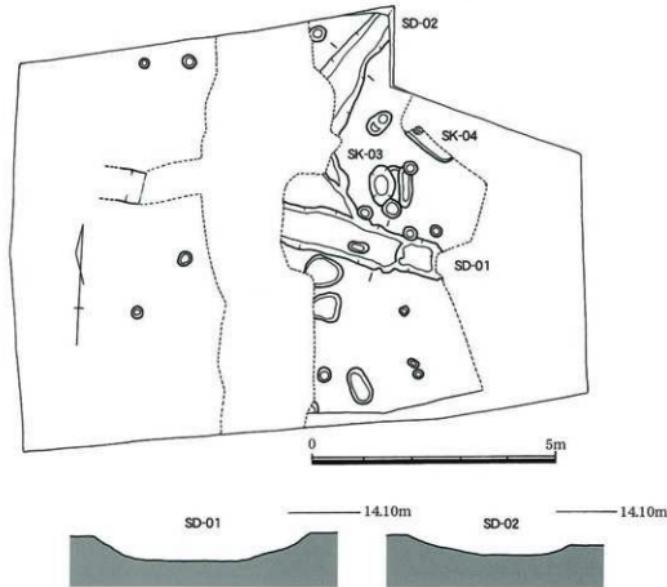


Fig. 2 遺構実測図 (S=1/100, 1/20)

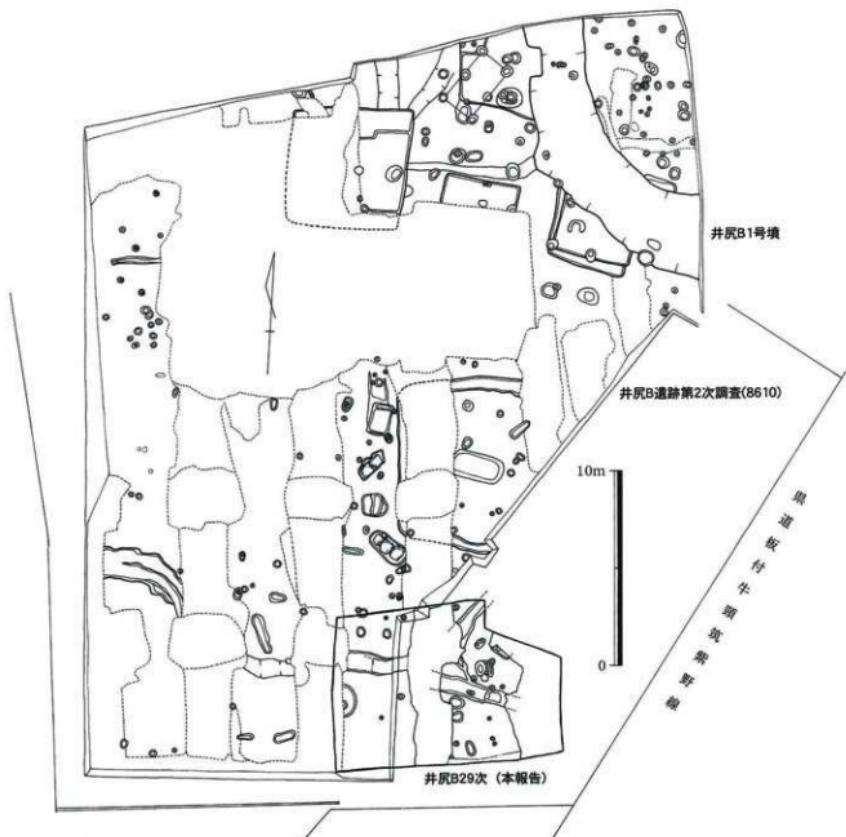


Fig. 3 周辺調査区実測図 ($S=1/250$)

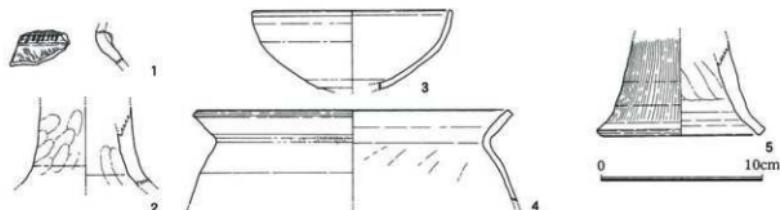


Fig. 4 出土遺物 ($S=1/3$)

0669 博多遺跡群第170次調査(HKT-170)

所在地 博多区祇園町76-2

調査面積 185m² (×3面)

調査原因 共同住宅建設

担当者 小林 義彦

調査期間 2007.2.13~4.24

位置 記録保存

位置と環境

調査地は、博多湾に面した博多遺跡群の西南部に位置し、遺跡群を形成する陸側（南側）の古砂丘「博多濱」のほぼ中央に占地している。本調査区の周辺には、第50・147・156次調査区があり、弥生時代前期後半～中期の甕棺墓や古墳時代初め～後期の竪穴住居跡等が検出され、弥生時代～古墳時代の集落や墳墓群の中心域をなしている。また、古代末～中世初めの井戸や土坑などの遺構も検出されており、弥生時代～中世の遺構が重層的に拡がっている。



1. 調査地点の位置(49天神 0121 1:8000)

本調査では、標高4～45mの整地層上で近世（第1面）、古代（第2面）、古砂丘上で古墳時代初め（第3面）の遺構面を3面検出した。

第1面：近世の甕棺墓2基ほかに井戸跡や土坑を検出した。

第2面：古代（12世紀代）の土坑2基と柱穴を検出した。このうち21号土坑からは2体以上のウマの骨が出土した。

第3面：古墳時代初めの竪穴住居跡2棟、土坑1基のほかに柱穴を検出した。又、この遺構面上には古墳時代～奈良時代の厚い遺物包含層がある。



2. 1004号土坑(北より)

出土遺物

検出した3面の遺構や遺物包含層からは、土師器や須恵器をはじめ、輸入された中国磁器や肥前磁器のほか鉄器、土錐、石臼などの多種多様な遺物や獸骨がコンテナケース30箱出土した。



3. 2001・2002号住居跡(北より)

まとめ

本調査で検出した遺構は、概ね古墳時代初めと古代～中世初めの2時期と近世に大別される。このうち古墳時代初めの住居跡は、近隣の調査成果と併せて弥生時代から続く古墳時代の「博多濱」の集落形成を知る上で好資料である。

0670 博多遺跡第171次調査(HKT-171)

所在地 博多区祇園町566、585-1 調査面積 511m²
 調査原因 立体駐車場建設 担当者 屋山洋
 調査期間 2007.2.20～6.15 処置 調査後破壊

位置と環境 調査地点は博多浜砂丘の南端部にあたり、博多遺跡群の南西端に位置する。調査区の西側は那珂川に面しており、南側は旧御笠川の流路域にあたり、中世後半以降には博多の街の南を守る房州塁が存在した。

検出遺構 古墳時代前期の竪穴式住居を1基と柱穴を数基、中世以降の土坑、井戸、柱穴群を数基ずつ確認した。古墳時代の竪穴式住居は砂丘の端部に位置するため、古墳時代には砂丘が今より西に延びていたのが後世に御笠川もしくは那珂川により削られたものである。調査区南端部では近代に埋められた溝状の掘り込みを確認した。房州塁の一部の可能性が高いと思われる。塁の底では木杭で囲まれた方形の畑(水田?)を確認した。砂丘全体に近現代の土坑や井戸が分布しており、中世以前の遺構の遺存状態は悪い。

出土遺物 南側旧河川粗砂層中から弥生時代中期、古墳時代前期、8～9世紀、古代末から中世にかけての土師器や貿易陶磁が出土した。各時代の土器が混じっているがほとんど摩滅しておらず、すぐ近辺にこの時期の集落が存在したと思われる。東側隣接地の142次調査では土坑から円筒埴輪片が出土しているが、171次でも河川から数点の円筒埴輪片が出土した。また古墳時代前期の竪穴式住居からは瓶壺が数点出土した。

遺物総数はコンテナ117箱である。

まとめ 元々は弥生時代中期以降の各時期の遺構が存在したものと思われるが、河川の氾濫や近代以降の擾乱により中世後半以前の遺構はほとんど消滅している。砂丘西側の整理層では白磁碗IV類など12世紀頃の貿易陶磁を主とし、染め付けや近世以降の土器はあまり出土しないが、白磁碗などは整地土からの混じり込みと思われ、近世頃まで降る可能性が高いと思われる。

調査報告書は20年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(49 天神 0121 1:8000)



2. 調査Ⅰ区2面全景(南東から)



3. 近世石組み遺構(西から)

0671 箱崎遺跡第57次調査(HKZ-57)

所 在 地 東区箱崎1丁目2493外

調査面積 100m² (調査総面積245m²)

調査原因 共同住宅建築

担当者 荒牧 宏行・田中 善夫・濱石 哲也

調査期間 2007.3.12~4.27

処置 記録保存

位置と環境

箱崎遺跡は箱崎1丁目、馬出5丁目を中心に広がる遺跡で、博多湾沿岸に形成された箱崎砂層と呼ばれる古砂丘上に立地する。第57次調査地点は遺跡の中央や西北側、筥崎八幡宮の北約450mの所に位置する。道路を挟み南側は第56次調査地点である。

検出遺構

調査は廃土の関係から対象範囲を東西に二分割し、平成18年度と19年度にまたがって実施した。現地表から約1m掘りさげた標高2.65m前後の黄白色砂が遺構検出面となる。その上に包含層が若干認められ、西側調査区の南側ではこの層から遺構の確認を行ったが、その検出は困難をきわめた。地山面は西北に向かいわずかに下がる。調査区内は近現代の擾乱が著しく、検出した遺構は井戸12基（近現代4基含む）、中世の井戸は井戸側に桶を用いるが、2基を除きその痕跡だけ）、土坑70基以上（完形の土師器杯・皿を多数出土するものあり）、石組遺構1基、石敷遺構1基、集石遺構1基、溝13条（ほとんどが近世以降）、それに多数の柱穴（柱穴の中には完形の土師器皿を入れ込むものがある）などである。井戸は調査区中央からやや南寄りに集中している。

出土遺物

井戸、土坑、溝などを中心に土師器、国産陶磁器、輸入陶磁器、土錐、滑石製品、木製品などが、パンケース33箱分出土した。土師器壺・皿の類が最も量が多い。

まとめ

今回の調査で検出したのは13世紀を前後する遺構が中心で、建物（柱穴）、井戸、廃棄土坑などそのほとんどが集落に関係するものである。この一帯は古くから筥崎宮を中心とする集落を形成してたと考えられ、今回の調査はその一端を示すものである。

調査報告書は平成19年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(034 箱崎 2639 1:8000)



2. 西側調査区全景(南から)



3. 東南部井戸群(西から)

VI 平成18年度刊行報告書一覧

集	書名	副題等	調査番号	編集
873	那珂君体遺跡群	那珂君体遺跡群第9次調査	0487	山崎 龍雄
897	麦野C遺跡	第10次調査報告	0509	藏富士 寛
913	徳永古墳群4	徳永古墳群H郡第5次調査報告書	0352	松浦 一之介
914	箱崎26	菖崎土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告書、-箱崎遺跡群第30次報告(1)-	0210	松浦 一之介
915	羽根戸古墳群6	羽根戸古墳群N郡第9・10次調査報告書	0440・0441	松浦 一之介
916	藤崎遺跡17	藤崎遺跡群第35次調査報告書	0488	松浦 一之介
917	原遺跡12	原遺跡第19次調査報告書	9626	星山 洋
918	井尻B遺跡15	市道御供所井尻線建設に伴う発掘調査報告IV -井尻B遺跡第17次調査(C・D区)の報告-	0027	横山 邦繼
919	有田・小田部43	-有田遺跡群第216次調査報告-	0484	阿部 泰之
920	有田・小田部44	-有田遺跡群第218・219・222・224・ 225次調査報告-	0515・0519・0557・0616・0638	阿部 泰之
921	飯倉A遺跡2	-第2次調査報告-	0561	阿部 泰之
922	飯氏遺跡群4	-第10次調査報告-	0507	田上 勇一郎
923	井尻B遺跡16	-第22次調査報告-	0133	久住 猛雄
924	今宿五郎江6	-今宿五郎江遺跡第9次調査報告(2)-	0255	杉山 富雄
925	入部X II	-重留遺跡第1次調査報告-	8748	力武 卓治
926	香椎地区遺跡確認調査報告書		0546	大塚 紀宣
927	金武4	金武地区農村振興総合整備事業関係調査報告4-城田遺跡第2次調査3・都 地泉遺跡第1次調査-	0329・0458	宮井 善朗
928	上広瀬遺跡2	石釜地区基盤整備促進事業関係調査報 告書3-上広瀬遺跡第2次調査-	0485	加藤 良彦
929	警佐郷B遺跡3	-第5次調査報告-	0521	藏富士 寛
930	コノリ遺跡群3	-第5次調査報告-	0518	大塚 紀宣
931	山王遺跡3	-第4次調査報告-	0571	大塚 紀宣
932	下月隈C遺跡VII	福岡空港周辺整備工事に伴う下月隈C 遺跡第8次・第9次調査報告	0219・0327	山崎 龍雄 荒牧 宏行
933	席田青木遺跡6	-第6次調査報告-	0527	星山 洋
934	高畠遺跡	-第16次調査報告-	9774	榎本 義嗣
935	那珂45	-那珂遺跡群第100・108次調査報告-	0425・0490	長家 伸
936	那珂46	-那珂遺跡群第105次調査報告-	0457	山崎 龍雄
937	那珂47	-那珂遺跡群第109次調査報告-	0541	荒牧 宏行
938	名島城跡2	-第3次・3次調査報告-	0433・0506	荒牧 宏行
939	西新町遺跡9	-第18次調査報告-	0543	田上 勇一郎

集	書名	副題等	調査番号	編集
940	博多110	—博多遺跡群第149次調査報告—	0475	星野 恵美
941	博多111	—博多遺跡群第152次調査—	0511	中村 啓太郎
942	博多112	—博多遺跡群第153次調査報告—	0524	小林 義彦
943	博多113	—博多遺跡群第154次調査報告—	0540	中村 啓太郎
944	博多114	—博多遺跡群第155次調査報告—	0544	赤坂 亨
945	博多115	—博多遺跡群第156次調査報告—	0551	小林 義彦
946	博多116	—博多遺跡群第159次調査報告—	0566	吉武 学
947	博多117	—博多遺跡群第162次調査報告—	0612	藏富士 寛
948	箱崎27	—箱崎土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告書V—	0210・0318・0434	佐藤 一郎
949	箱崎28	箱崎土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告書VI—箱崎遺跡第40・49次調査報告—	0318・0434・050144	赤坂 亨
950	箱崎29	—箱崎遺跡第12次調査報告—	9735	榎本 義嗣
951	箱崎30	—箱崎遺跡第37次・第45次調査報告—	0253・0269	中村 啓太郎 吉武 学
952	箱崎31	—箱崎遺跡第51次調査報告—	0559	屋山 洋
953	原東遺跡2	—第1次調査報告—	7953	小林 義彦
954	比恵45	—比恵遺跡群第98次調査報告—	0501	長家 伸
955	比恵46	—比恵遺跡群第99次調査報告—	0513	星野 恵美
956	比恵47	—比恵遺跡群第100次・第102次調査報告—	0522・0532	吉武 学 久住 猛雄
957	比恵48	—比恵遺跡群第101次調査報告—	0526	大塚 紀宣
958	比恵49	—比恵遺跡群第104次調査報告—	0570	藏富士 寛
959	東那珂遺跡5	—第6次調査報告—	0539	星野 恵美
960	福岡城跡	—第53次調査報告—	0503	大塚 紀宣
961	福重船木遺跡	—第3次調査報告—	0345	池田 祐司
962	元岡・桑原遺跡群8	九州大学統合移転地内埋蔵文化財調査報告書—第20次調査報告—	0001	菅波 正人
963	元岡・桑原遺跡群9	九州大学統合移転地内埋蔵文化財調査報告書—第26次調査報告—	0110	二宮 忠司
964	元岡・桑原遺跡群10	—第46次調査報告—	0538	久住 猛雄
965	吉武遺跡群XIX	飯盛・吉武圃場整備事業関係調査報告書13—古代～近世遺構編—	8335・8416・8535	横山 邦繼 加藤 良彦
966	吉塚9	—吉塚遺跡群第11次調査報告—	0545	屋山 洋
967	吉塚10	—吉塚遺跡群第12次調査報告—	0555	藏富士 寛
968	鴻臚館跡17	平成16・17年度発掘調査概要報告書	0415・0502	大庭 康時
969	福岡城跡	—潮見橋・時務整備に伴う確認調査報告—	9146・9363・9671	田中 寿夫 榎本 正志
	福岡市埋蔵文化財年報VOL.20	—平成17(2005)年度版—	0505-0508-0514-0516-0520-0525-0529-0530-0536-0542-0548-0552-0558-0568-0569	濱石 哲也

VII 平成18年度福岡市新指定文化財

平成18年度の福岡市新指定文化財は、平成19年2月6日開催の福岡市文化財保護審議会において、6件の文化財について答申を得、平成19年3月15日の福岡市公報により告示されました。

指定文化の概要

指定区分	種別	指定名称	員数	所在地	所有者
有形文化財	彫刻	木造東照権現坐像 附 廉子	1 枚	福岡市中央区	宗教法人 警固神社
有形文化財	古文書	尾上文書	58点	福岡市博多区	尾上 城由江
有形文化財	考古資料	香住ヶ丘古墳出土の 三角縁神獸鏡	1 点	福岡市東区	宗教法人 香椎宮
有形文化財	歴史資料	南懷仁の大砲	1 門	福岡市東区	宗教法人 宮崎宮
有形文化財	歴史資料	抱え大筒 附 火繩銃 1 挺	2 挺	福岡市博多区	尾上 城由江
天然記念物	地質鉱物	長垂の含紅雲母 ベグマタイト鉱物標本	311点	福岡市西区	財団法人 亀陽文庫

1. 有形文化財「木造東照権現坐像 附 廉子」

本像は慶安3年（1650）江戸寛永寺で開眼し、承応元年（1652）荒戸山に創建された、福岡藩の東照宮にご神体として安置されたものである。衣冠束帶の姿で、像高は41.7cm、台座を含む総高は74.1cmを測る。表情は白髪交じりのリアルなもので、袍には三つ葉葵の紋が描かれ、鮮やかな三段重ねの縊綱縁の上臺に坐している。家康の画像は比較的多く伝存するが、彫像の伝存例は一般にはほとんど知られておらず、幕藩関係をも物語る貴重な彫刻作品である。



2. 有形文化財「尾上文書」

福岡藩の砲術である「流湯抱え大筒」を伝え、姫路在城時より黒田家につかえた尾上家に伝来する文書である。黒田如水・長政・忠之の書状15点を収めた『御判物』、『尾上家譜』、18世紀中ごろから19世紀前半の当主が写した『長政公御代慶長初年分限帳』・『黒田家御書御感状観書』、砲術に関する『砲術火前乎数目録』、福博の記事等を載せた『見聞私記追加草稿』など、貴重な資料が多数含まれている。



かすみがおかこふんしゅつざんくくぶちしんじゅうきょう

3. 有形文化財「香住ヶ丘古墳出土の三角縁神獸鏡」

昭和31年（1956）に東区唐原の丘陵造成工事中に発見されたと伝えられ、昭和33（1958）7月25日に香椎宮に奉納された。本資料については森貞次郎氏の聞き取り調査・現地踏査等により出土地点が推定され、粘土櫛を主体とする直径25m程の円墳と想定されている。二神二獸鏡に分類され奈良県櫻井市金崎出土鏡と同範もしくは同型資料である。古墳時代初頭を制作年代とし、前期半ばにかけて副葬されたものと考えられる。



なんかいじん　たいほう

4. 有形文化財「南懷仁の大砲」

筥崎宮所有の青銅製の大砲である。砲身長は328cm、口径は13.4cmを測る。清朝康熙28年（1689）製作で、指導はベルギー人宣教師フェルディナンド・フェルビースト（中国名：南懷仁）である。砲尾には漢字と満州文字による銘文が刻まれ、砲身には蓮華文・唐草文等種々文様が施されている。フェルビーストは天文・暦法・地理・砲術などの技術を伝えた宣教師として知られており、本大砲も西洋技術の伝来を示す貴重な文化遺産である。



かか　おおづづ　つけたり　ひなわじゅう　ちょう

5. 有形文化財「抱え大筒 附 火縄統1挺」

福岡藩の砲術である「陽流抱え大筒」を伝える尾上家に伝わる大筒と火縄統である。大筒には100匁と50匁があり、50匁大筒には『天正十八年泉州阿部高吉作』の銘文があるとされているが、台木で隠れているため、確認することが難しい。現在では5月27日の筥崎宮奉月大祭と12月14日の興宗寺義士祭のほか、県内外の行事で使用されている。



ながたれ　がんべにうるも

6. 天然記念物「長垂の含紅雲母ベグマタイト 鉱物標本」

長垂のベグマタイト岩脈は紅紫色の塊状岩で、戦前はリチウム鉱山として知られ、採掘が行われていた。本標本で主となるのはリシア雲母・リシア電気石であるが、国内では長垂でしか見ることのできないベタル石、マンガンコルンブ石なども含まれている。ベグマタイト産出鉱物の特色を良く示すとともに、長垂の鉱物資源についてもほぼ全容を知ることができる貴重な標本である。



付 資料紹介

よね いち まる 米一丸遺跡

所 在 地 福岡市東区筥松3丁目地内

遺 跡 登 錄 2007年6月26日 (遺跡番号:2843 遺跡略号Y I O)

標 高 2.8m

報 告 者 星野 恵美・吉留 秀敏

1. 発見の経緒

平成18年度事業の筥崎地区画整理事業地内の道路建設工事の際に、完形品の布留甕1点の出土が工事関係者から伝えられた。この土器の出土地点は九州大学工学部の校舎の東側にあたり、米一丸地蔵尊の西隣地に位置する(写真1)。周知の埋蔵文化財包蔵地である箱崎遺跡の北側約370mの地点で、包蔵地外にあたる。発見者の話から土器は地表面下1m付近の黄色砂から出土し、他には破片の類も一切見られず、単独の完形品出土ということであった。実際出土した土器に付着していたのは、基盤層に類似する白黄色砂で、攪乱等からの出土ではなかった。この事業地内は事業計画に伴い事前に試掘調査を行っている。今回この遺物が出土した米一丸地蔵近辺は事業開始に先立ち1994年度に試掘調査をおこなったが遺構・遺物は確認されず、この周辺は宇美川河口の瀬～波打ち際の様相を呈していたことから慎重工事扱いとした。しかし、今回の土器が出土したことを受け、早急に工事範囲内で試掘調査を再度行うこととした。結果、米一丸地蔵尊の西側に設定した数ヶ所の試掘範囲では遺構は全く見られず、近世以降の遺物は出土するものの、発見遺物と関連する資料や近世を遡る遺物は全く確認できなかった。この付近では攪乱が多く、また深く入っている箇所も見られるが、層位が安定している部分では、GL-60cmで箱崎砂層上部に相当する黄色基盤砂層を検出した(写真2)。そのため、発見遺物の由来に不明な点を多く残すものの、道路工事に対して引き続き慎重工事を指示した。しかし、その後工事中に再度完形土器2点が出土した。連絡を受け出土状況を確認した結果、米一丸地蔵尊の敷地に接する部分でGL-40cm付近に茶褐色砂の包含層らしき堆積層を確認した。こうした状況から、現在周辺より20～30cm程度高い同地蔵尊敷地にのみ古墳時代遺跡が残存し、周辺は近世以降の都市化による開発で削平され、遺構を失っていると考えられた。先の遺物は遺存する包含層の縁辺から出土したものであると判断した。



1. 米一丸地蔵尊の手前が土器発見地点(北西から)



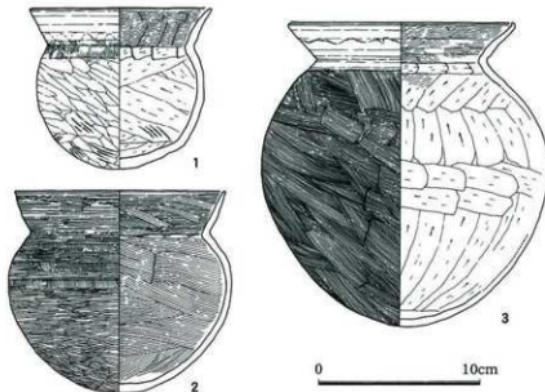
2. 試掘トレンチ状況(東から)

2. 遺物（図3）

完形の土器3点がある。1、2は広口壺、3は甕である。1は口縁径11.2cm、胴部径10.3、器高10.0cmを測る。内外面共に淡黄灰色を呈し、焼成、保存は良好である。胴部外面は指押さえハケ調整後荒い斜め方向のミガキ、口縁は横ナデ。胴部内面は荒いヘラ削り、口縁は横ハケである。胴部最大径は中位にあり、縮まりの弱い頸部から口縁は緩く外反する。器壁は0.4～0.5cmとやや厚く、全体として歪みがあり整形が荒い印象を受ける。2は口縁径13.0cm、胴部径13.7cm、器高12.4cmを測る。内外面共に赤橙色を呈する。発見時に破損したが、本来は完形品であったと見られる。胴部～口縁の外面は継ハケ後横位の細かいミガキ、内面は細かな横ハケである。胴部最大径は上位にあり、頸部が縮まり口縁部は僅かに内湾気味に立ち上がる。器壁は0.3～0.4cmとやや薄く、胴部に凹凸が残るが全体としてバランスの良い仕上がりとなっている。3は口縁径14.1cm、胴部径17.9cm、器高18.6cmを測る。内外面共に明黄褐色を呈し、下半部には土器焼成時の黒斑が残されており、煮沸などの二次焼成が少ないか、受けていないものと見られた。調整は丁寧であり、胴部外面は斜めハケ、内面は丁寧なヘラ削り。口縁部外面は横ナデ、内面は横ハケ後ナデである。胴部最大径は上位にあり、頸部が縮まり口縁部はく字形に開き、口唇部は短くはねる。直線的に立ち上がる。器壁は胴部で0.3cm以下、底部で0.4cmとやや薄く、全体としてバランスが良い。

3.まとめ

発見された土器は何れも整形や焼成に在地色が強いものであるが、保存状況は良く、二次的な破損もない。その所属時期は、1がやや新しく布留式中～新段階、2、3が古く布留式古段階（久住氏のIIa式並行期）に位置づけられる。両者の時期差が遺跡の継続幅を示すかは不明と言わざるを得ない。遺跡の性格は完形土器のみの出土や周辺の状況からみて、集落とは考え難く、古墳時代初頭の墳墓域である可能性も伺える。古く地蔵尊用地として選地建立された際に塚状の高まりがあったことも想定されるが、検証は困難である。幸いこの部分は地域の信仰対象として手厚く保護されており、開発は回避されている。なお、こうした結果を受け、現在一段高く残されている米一丸地蔵周辺を米一丸遺跡として新規登録した。



3. 米一丸遺跡出土遺物（1:3）

報告書抄録

ふりがな 書名 副書名 巻次 シリーズ名 シリーズ番号 編著者名 編集機関 所在地 発行年月日	ふくおかしまいぞうぶんかざいねんぽう 福岡市埋蔵文化財年報 平成18(2006)年度版 21					
吉留秀敏 福岡市教育委員会 福岡市中央区天神1丁目8-1 平成20年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード	北緯	東経	調査面積 (m ²)	調査原因
はらいいせきぐん 原 遺 跡 群	さわらくはら 早良区原5丁目8-14	40135 0311	33-33-56	130-20-22	2006.4.3~ 2006.5.2 103	個人住宅
むぎのいせきぐん 麦野A 遺跡群	はなこくむぎの 博多区麦野5丁目1-40外	40135 0048	33-33-04	130-27-40	2006.6.1~ 2006.6.21 336	共同住宅
のけいせきぐん 野芥 遺 跡 群	さわじくのけ 早良区野芥1丁目862-8	40135 0319	33-32-49	130-20-49	2006.6.2~ 2006.7.1 169.4	個人住宅
うめばやいせき 梅 林 遺 跡	じょううなんくうめばやし 城南区梅林4丁目20-3	40135 2775	33-32-43	130-21-13	2006.6.12~ 2006.6.20 142	共同住宅
ふくおかじょうゆりあと 福 城 堀 跡	ふくおかちゅうろうくでんじん 中央区天神4丁目160-1外	40135 0146	33-35-19	130-23-46	2006.7.6~ 2006.7.10 42	商業ビル
はねどはねいせきぐん 羽根戸原B遺跡	にしこのかた 西区野方3丁目610-17	40135 0398	33-32-49	130-18-32	2006.7.27~ 2006.7.31 21	個人住宅
はかたいせきぐん 博 多 遺 跡 群	はかたくぎおんまち 博多区祇園町313外	40135 0121	33-35-33	130-24-48	2006.12.4~ 2006.12.8 36.3	駐車場
じいせきぐん 都 地 遺 跡 群	にしこなたけ 西区金武2028-1	40135 0420	33-32-09	130-19-05	2007.2.7 10.5	学校施設
いじりいせきぐん 井尻B遺跡群	みなみくいじり 南区井尻5丁目175-1	40135 0090	33-33-01	130-26-33	2007.2.13~ 2007.2.15 87.2	銀行店舗
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
原遺跡群	散布地+集落	弥生/古墳/古代/中世	溝+柱穴	弥生土器+須恵器 +土師器	集落縁辺域	
麦野A遺跡群	散布地+集落	古代/中世	溝+掘立柱建物 +井戸+土坑	須恵器+土師器 +瓦	官衙遺構の一部	
野芥遺跡群	散布地+集落	弥生/古墳	土坑+柱穴	なし	集落縁辺域	
梅林遺跡	散布地+集落	弥生/古墳	柱穴	須恵器+土師器	集落縁辺域	
福岡城跡	城郭	近世	石垣	陶磁器	福岡城肥前堀の一部	
羽根戸原B遺跡	散布地	古墳	なし	須恵器+土師器	集落縁辺域か	
博多遺跡群	散布地+集落+ 都市遺跡	古墳/古代/中世	豎穴住居+井戸 +土坑+柱穴	須恵器+土師器 +輸入陶磁器	古墳初頭大型住居への 電付設は博多遺跡で初 例、中世都市遺構は高 密度に展開する。	
都地遺跡群	散布地+集落	弥生/古代/中世	溝+柱穴	弥生土器+須恵器 +土師器+鐵滓	8世紀代の製鉄関連遺 跡の一部、隣接の中世 盆地跡とも関連か。	
井尻B遺跡群	集落+墓地	弥生/古墳	溝+土壙墓+柱穴	弥生土器+須恵器 +土師器	弥生時代集落と古墳 前期の墳墓	

福岡市埋蔵文化財年報

Vol. 21

-平成18(2006)年度版-

発行日 平成20年3月31日

編集・発行 福岡市教育委員会文化財部

埋蔵文化財第1課

福岡市中央区天神1丁目8-1

印 刷 有限会社吉村総合印刷

福岡市博多区博多駅前2丁目3-23

THE ANNUAL REPORT
OF
THE BURIED CULTURAL RELICS OF FUKUOKA CITY
VOLUME 21



THE BOARDS OF EDUCATION OF FUKUOKA CITY
MARCH 2008
JAPAN